

| 科目名 | 保育原理 | | | | 担当者 | ウエムラ ヒロキ 上 村 裕 樹 | | | | | | |
|-------------------------------------|--|--|--------|--------------------------------|-----|---------------------|------|----|----|----|------|----|
| 区 分 | 必修 | 2 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業形態 | 講義 | 学年 | 1年 | 開講期 | 後期 |
| | | | | 授業時間数 | 30 | 時間 | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | | 研究室への訪問、又は uemura.hiroki@seiwa.ac.jp への連絡（学籍番号・氏名記載必須）とする。 | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 保育の今日的な役割について社会状況を踏まえた上で、適切に説明、報告することができる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 保育の意義について、自らの学習に基づき、相互インタビューを通して、互いに学び合うことができる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 保育所保育指針について、協同学習を通して主体的に学び、保育の場面や子どもの姿に応じた適切な解釈を説明、報告することができる。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | 保育の目標や方法について、自らの学習に基づき、グループワークでの対話を通して、具体的な子どもや保育者の姿を説明、報告することができる。 | | | | | | | | | | |
| | ⑤ | 現在の保育の理念を説明できるとともに、それらの理念を基に、これからの保育の課題について、その解決に向けた提案ができる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 現代社会における保育の必要性の高まりを理解し、実践において必要とされる知識や理論の基礎について自ら学びに向かい、得た内容について、説明、報告する事ができる。 | | | | | | | | | | |
| | (2) | 他者と協働的に学び合い、高め合うための方法を知り、実践することが出来るとともに、協働的な関係性の構築に向けて、自ら協力的に体制づくりに参加することができる。 | | | | | | | | | | |
| | (3) | 幅広い教養を身に付け、自ら課題を見出し、将来に渡り学び続けるための基礎となる研究心が養われ、学びに向かい続け探求することができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 保育及び幼児の教育のこれまでの歴史的展開を踏まえ、その理念や原理、保育・教育課程についての理解を果たす。また、各種指針・要領（保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育要領）に基づいて、保育の理念や基本的な位置づけ、保育の目標や方法、内容等について、事前学習をもとにした自らの学びを積み重ねると同時に、対話的な学習による協働的な学びを積み重ねていくことで、学習を深めていく。 これらの学びを通して、理論の上に立った保育実践の展開について考え、今後の課題について自らが説明、報告する。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | | | | | | | | | | |
| | | レポート | 5 | 学習ノートの提出と評価 | | | | | | | | |
| | | テスト | 30 | 理解度確認テスト・確認小テストの正否による得点での評価 | | | | | | | | |
| | | 報告書 | 40 | 授業内容の取り組みの報告書（提出状況（20）・内容（20）） | | | | | | | | |
| ワーク | 15 | グループワークへの取り組み（参加・貢献）の評価 | | | | | | | | | | |
| 事前学習 | 10 | 事前学習課題への取り組みと提出の評価 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・④・⑤にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②・③・④にて評価を行う。 (3) は、専門的学習成果③・④・⑤にて評価を行う。 | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | | | | | | 出版社名 | |
| | 谷田貝公昭・中野由美子編 | 『保育者養成シリーズ「保育原理」』 | | | | | | | | | 一藝社 | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | | | | | | 出版社名 | |
| | 文部科学省 | 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | | |
| | 厚生労働省 | 『保育所保育指針』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | | |
| | 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | <p>①準備学習等履修上の留意点：授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。学習時間の自らの確保と保障は本講義受講において、必須とする。 <事前学習>事前学習課題に基づく学習を必須とする。テキストや参考文献資料に目を通し、専門用語の意味を含め、各回での学習内容について、事前の基礎学習を行うこと。また、講義理解のため、子どもや子育て家庭を取り巻く現在社会の状況について社会制度や生活課題等に関するニュースに目を通しておくこと。 <事後学習>毎回の講義の内容について振り返りを行うとともに、講義において示される学習課題について、能動的に取り組み提出を必ず行うこと。それらを通して、講義内容の理解を深め、講義の中で得られた自らの疑問や課題について、担当教員への質問だけではなく、図書資料等を用いながら学習を深めること。</p> <p>②フィードバックの方法等：専門的学習成果の評価における評価内容のフィードバックの方法は、以下の通りとする。</p> <p>▶授業の中で取り扱うコメントペーパーに関する内容は、次回講義開始時にコメントへのフィードバックを行う。</p> <p>▶各種テストの内容に関しては、テスト終了時に問題の解答に関してのフィードバックを行う。</p> <p>▶ワーク課題に関するフィードバックは、グループ課題は講義内でのハーベストと返却によりフィードバックとする。</p> <p>▶学習内容を学習ノートに指示された通り段階的にファイリングし、自らの学習の成果を視覚的に捉えることが可能となるよう取り組むこと。</p> <p>評価基準の補足は、以下の通りであり、自己学習のフィードバックの際の参考とすること。</p> <p>▶各種テストに関しては解答正解率により評価される。</p> <p>▶グループワークやワーク課題に関しては、ワークを通して得られる成果のみならず、ワーク活動への参加を含めた活動のプロセスも同様に評価される。</p> <p>▶事前・事後の学習に伴う提出課題は、各個人での取り組みが必要となるため、その取り組みのプロセスについても同様に評価される。</p> <p>▶学習ノートは、学びの成果を自らがまとめることが必要であるため、その取り組みが評価される。</p> | | | | | | | | | | | |

| | | 授業計画 | 学習成果の評価 |
|-----|---------|--|---|
| 1回 | 授業内容 | 保育の今日的役割 テーマ：保育の現在の社会における役割（グループワーク） | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト |
| | 学習成果 | 保育の今日的役割について事前学習の理解を基に、GWにおいて意見交換が出来るとともに、メンバー学生との対話を踏まえ、保育の今日における役割について、積極的に説明、報告できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み（指定記事・シラバスの理解） 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）・学習ノートの作成 | |
| 2回 | 授業内容 | 保育の意義（保育の理念と概念） テーマ：保育とは・保育者とは（相互インタビュー） | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト |
| | 学習成果 | 保育の理念や概念に関して、これまでの動向を踏まえ、保育者、保育とは何かということ、相互インタビューの活動を通し、自らの言葉で具体的に説明、報告することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）・学習ノートの作成 | |
| 3回 | 授業内容 | 保育の意義（保育の社会的意義） テーマ：現在の社会における保育の役割と社会的意義（相互インタビュー） | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト |
| | 学習成果 | 保育現場や保育者が置かれている立場や現状を理解し、保育の社会的役割やその社会的意義について、相互インタビューの活動を通し、自らの言葉で具体的に説明、報告することが出来る。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）・学習ノートの作成 | |
| 4回 | 授業内容 | 保育の意義（保護者との協働） テーマ：保護者との協働の重要性（相互インタビュー） | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト |
| | 学習成果 | 保護者の社会的状況や生活状況、子育ての現実などから保護者との日常的な関わりや協働に関して、相互インタビューの活動を通し、自らの言葉で具体的に説明、報告することが出来る。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）・学習ノートの作成 | |
| 5回 | 授業内容 | 保育の意義（保育所保育指針の制度的位置づけ） テーマ：保育所保育指針の役割と位置づけ（相互インタビュー） | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト |
| | 学習成果 | 保育所保育指針のこれまでの変遷や改定経緯などを踏まえ、指針の位置づけに関して、相互インタビューの活動を通し、自らの言葉で具体的に説明、報告することが出来る。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）・学習ノートの作成 | |
| 6回 | 授業内容 | 保育所保育指針の理解（役割と働き） テーマ：指針の役割と働きを踏まえた子ども理解（協同学習） | ▷理解度確認まとめテスト ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 |
| | 学習成果 | 保育所保育指針の役割と働きについて、第一章総則の内容より読み解き、協同学習を通して、提示される子どもの姿や保育場面における自らの解釈を説明、報告することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）・学習ノートの作成 | |
| 7回 | 授業内容 | 保育所保育指針の理解（養護と教育の一体性） テーマ：指針の役割と働きを踏まえた子ども理解（協同学習） | ▷保育所保育指針の理解 ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト |
| | 学習成果 | 「養護と教育の一体的な提供」について、第一章総則の内容より読み解き、協同学習を通して、提示される子どもの姿や保育場面における自らの解釈を説明、報告することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）・学習ノートの作成 | |
| 8回 | 授業内容 | 保育所保育指針の理解（環境を通して行う保育） テーマ：指針の役割と働きを踏まえた子ども理解（協同学習） | ▷保育所保育指針の理解 ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト |
| | 学習成果 | 「環境を通して行う保育」について、第一章総則の内容より読み解き、協同学習を通して、提示される子どもの姿や保育場面における自らの解釈を説明、報告することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）・学習ノートの作成 | |
| 9回 | 授業内容 | 保育所保育指針の理解（発達過程に応じた保育） テーマ：指針の役割と働きを踏まえた子ども理解（協同学習） | ▷保育所保育指針の理解 ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト |
| | 学習成果 | 「発達過程に応じた保育」について、これまでの指針も合わせて活用し、協同学習を通して、提示される子どもの姿や保育場面における自らの解釈を説明、報告することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）・学習ノートの作成 | |
| 10回 | 授業内容 | 保育所保育指針の理解（保育士の専門性） テーマ：指針の役割と働きを踏まえた子ども理解（協同学習） | ▷保育所保育指針の理解 ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト |
| | 学習成果 | 「保育者の専門性」について、第一章総則の内容より読み解き、協同学習を通して、提示される子どもの姿や保育場面における自らの解釈を説明、報告することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）・学習ノートの作成 | |
| 11回 | 授業内容 | 保育の目標と方法（生活と遊びを通して総合的に行う保育） テーマ：生活と遊びを通して総合的に行う保育とは（グループワーク） | ▷理解度確認まとめテスト ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 |
| | 学習成果 | 事前学習の理解を基に、メンバーとの対話を踏まえ、生活と遊びを通して保育が総合的に展開されることについて、具体的な子どもの姿と保育者の姿を含めて説明、報告することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）・学習ノートの作成 | |
| 12回 | 授業内容 | 保育の目標と方法（個と集団への配慮） テーマ：個と集団への配慮に基づく保育とは（グループワーク） | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト |
| | 学習成果 | 事前学習の理解を基に、メンバーとの対話を踏まえ、個と集団へ十分に配慮された保育の必要性について、具体的な子どもの姿と保育者の姿を含めて説明、報告することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）・学習ノートの作成 | |
| 13回 | 授業内容 | 保育の目標と方法（計画・実践・記録・評価・改善の過程） テーマ：計画・実践・記録・評価・改善のプロセスに基づく保育とは（グループワーク） | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト |
| | 学習成果 | 事前学習の理解を基に、メンバーとの対話を踏まえ、生活と遊びを通して保育が総合的に展開されることについて、具体的な子どもの姿と保育者の姿を含めて説明、報告することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）・学習ノートの作成 | |
| 14回 | 授業内容 | 保育の思想と歴史の変遷 テーマ：保育の思想と歴史の変遷を踏まえた自らの保育実践（グループワーク） | ▷理解度確認まとめテスト ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 |
| | 学習成果 | 保育の思想や歴史の変遷について理解するとともに、現在の保育との関連を考え、説明できる。また、自ら取組みたいと考える保育実践方法について、メンバーに説明、提案する事ができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成）・学習ノートの作成 | |
| 15回 | 授業内容 | 保育の現状と課題 テーマ：保育の現状と課題を踏まえたこれからの保育への提案（グループワーク） | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト |
| | 学習成果 | 保育の現状について意見交換ができ、現在の保育が抱える課題について、自らの言葉で説明、報告することが出来る。また、自らが今後どのように解決に携わるのか提案することが出来る。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：学習ノートの作成 | |

| 科目名 | 教育の制度と原理 | | | | 担当者 | 佐藤哲也・井本佳宏 | | | | | | |
|-------------------------------------|---|---|--------|--|-----|-----------|------|----|----|----|-----|----|
| 区分 | 必修 | 2 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業形態 | 講義 | 学年 | 1年 | 開講期 | 前期 |
| 授業時間数 | | | | | 30 | 時間 | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | 質問や要望等については、授業の前後に教室で受け付ける。 | | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 教育の基本概念を身につけ、教育に関する歴史及び指導についての基礎知識と多様な教育の理念や実際の教育及び学校とを関連付けて説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 社会状況が学校教育に与える影響と課題、それに対応した教育政策の動向について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 保育施設と地域との連携や協働、学校の管理下での危機管理を含む学校安全の目的と取り組みに参加できる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 幅広く教養を身につけ保育者及び社会人として、地域社会で活用することができる。 | | | | | | | | | | |
| | (2) | 自己の課題を客観的に見出し、解決に向け学び続けることができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 幼児教育の基本（理念、歴史、指導法、カリキュラム、制度等）を解説するとともに、現代日本における教育および保育の営みと家庭的教育の方向性と課題について考察していく。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | 80 | これまでの修学内容に基づいて記述式問題（持ち込み不可）を実施し、評価する。 | | | | | | | | |
| | | レポート | 20 | 授業内容に関わるレポート（A4用紙2枚程度）を課す。体裁・内容・根拠を評価する。 | | | | | | | | |
| | 汎用的 学習成果 | 保育者に必要とされる教育学的基礎教養（思想、歴史、法令、制度、実践論等）を身に付けて、自らの実践を理論的に構想・評価・表現する能力を養う。（専門的学習成果①②に関連） 保育者として家庭・地域と連携を取りながら、子どもの最善の利益に資する取り組みをコーディネートすることができる。（専門的学習成果③に関連） | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | | |
| | 佐藤哲也編著 | 『子どもの心によりそう保育原理 改訂版』 | | | | 福村出版 | | | | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | ①事前にテキストや参考資料を読みポイントを把握した上で授業に臨み、講義内容の理解に備えておく。また、筆記試験の準備を行い、理解の定着に努めること。②レポートは授業で返却し解説を行う。 | | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|------|---------|--|---|
| 1回 | 授業内容 | 教育とは何か 乳幼児期の教育の特性（佐藤） | 筆記試験（1～3、9～15回分の内容を問う）。第15回授業終了後、試験期間中に実施する |
| | 学習成果 | 教育の語義・語源、教育の形態、教育の機能について説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| 2回 | 授業内容 | 教育と保育の目的・方法 教育と保育の理念と目的（佐藤） | |
| | 学習成果 | 教育と保育の違い、それぞれの目的やそれを実現するための方法を説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| 3回 | 授業内容 | 家庭教育と社会教育 家庭における教育の歴史と現代日本の子育て（佐藤） | |
| | 学習成果 | 今日の家庭教育や社会教育をめぐる法令や実践について説明することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 参考資料を熟読しておくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| 4回 | 授業内容 | 教育制度の諸原理と現代的課題（教育制度の基本原則／公教育／教育法）（井本） | |
| | 学習成果 | 教育制度について理解し、説明することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 参考資料を熟読しておくこと。授業内容について見返すこと。 | |
| 5回 | 授業内容 | 乳幼児期の保育制度、初等教育制度（井本） | |
| | 学習成果 | 乳幼児期の保育制度について説明することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 参考資料を熟読しておくこと。授業内容について見返すこと。 | |
| 6回 | 授業内容 | 義務教育と諸外国の教育制度（井本） | |
| | 学習成果 | 義務教育についてより認識し、諸外国との違いについて説明することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 参考資料を熟読しておくこと。授業内容について見返すこと。 | |
| 7回 | 授業内容 | 学校の現代的課題と可能性（開かれた学校／カリキュラムを開発する学校）（井本） | |
| | 学習成果 | 現代の課題について説明することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 参考資料を熟読しておくこと。授業内容について見返すこと。 | |
| 8回 | 授業内容 | 安全管理と安全教育（井本） | |
| | 学習成果 | 安全管理と安全教育について説明することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 参考資料を熟読しておくこと。授業内容について見返すこと。 | |
| 9回 | 授業内容 | 教育の歴史と思想（古代ギリシャ・ローマ） 諸外国の教育思想と子ども観の歴史① 近代以前の子ども観（佐藤） | |
| | 学習成果 | 古代の教育思想や教育的営為、教育論の概要とその今日的意義について説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 参考資料を熟読しておくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| 10回 | 授業内容 | 教育の思想（コメニウス、ロック、ルソー） 諸外国の教育思想と子ども観の歴史② 近代教育思想（佐藤） | |
| | 学習成果 | 近代初期の教育思想について説明することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 参考文献の該当箇所を熟読しておくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| 11回 | 授業内容 | 日本における教育（江戸時代）我が国における幼児教育の発展（佐藤） | |
| | 学習成果 | 手習い塾や郷学、藩校など近世の教育実践や教育家について説明することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 参考資料をヒントに学習予定事項について調べておくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| 12回 | 授業内容 | 教育の思想（ベスタロッチ、オウエン） 幼稚園と保育所（佐藤） | |
| | 学習成果 | 保育所の起源とその歴史的背景、実践思想について説明することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 参考文献の該当箇所を熟読しておくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| 13回 | 授業内容 | 教育の思想（フレーベル） 認定こども園と子ども子育て支援制度（佐藤） | |
| | 学習成果 | 幼稚園教育の起源と思想、実践理論について説明することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 参考文献の該当箇所を熟読しておくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| 14回 | 授業内容 | 日本における教育（明治・大正・昭和） 様々な保育形態と保育方法による教育実践（佐藤） | |
| | 学習成果 | 日本における教育の近代化をめぐる制度や理念について説明することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 参考資料をヒントに学習予定事項について調べておくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| 15回 | 授業内容 | 教育の思想（モンテッソーリ、デューイ） 遊び論の系譜（佐藤） | |
| | 学習成果 | 児童中心主義の教育思想とその実践について説明することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 参考文献の該当箇所を熟読しておくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |

| 科目名 | 子ども家庭福祉 | | | | 担当者 | スガ タ ケン ジ 菅 田 賢 治 | | | | | | |
|-------------------------------------|---|--|--------|---------------|-----|----------------------|----------|----|----|----|-----|----|
| 区 分 | 必修 | 2 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業 形態 | 講義 | 学年 | 1年 | 開講期 | 後期 |
| | | | | 授業時間数 | 30 | 時間 | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | | 授業中のみ | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 児童福祉の意義と歴史を学び児童の権利とその価値を獲得する。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 児童と家庭を取り巻く課題それらに対する施策や福祉制度を学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 児童福祉法をはじめとして、その他の法制度についても理解する。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 保育士としての業務の広汎性を理解する。(専門的学習成果①②③) | | | | | | | | | | |
| | (2) | 自らの課題を追究し、将来にわたり学び続けるための基礎となる力を獲得している。(専門的学習成果①②③) | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 日本で「子どもの権利条約」が批准されて25年になる現在、児童を取り巻く状況は深刻さを増し、児童の最善の利益に拠って立つ専門職の役割は大変重要なものとなっている。本授業では、子どもにとって大切な環境である家庭も含めて、児童と家庭の現状と支援について、また児童・家庭福祉制度について学んでいく。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | 60 | 15回の授業の評価となる。 | | | | | | | | |
| | | レポート | 40 | 8回目の授業で行う。 | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) は専門的学習成果①～③で行う。 (2) は専門的学習成果①～③で行う。 | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | | |
| | 西尾 祐吾 監修 小崎 恭弘 著 藤井 薫 編著 | 『子ども家庭福祉論』 | | | | 晃洋書房 | | | | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | | |
| | 授業中に紹介する。 | | | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | | ①教科書を事前に読み込んでおくこと。(予習を週2時間程度) 教科書並びに配布資料を基に復習すること。(週2時間程度) ②公務等(実習・部活動等)で欠席する場合は、必ず所定の様式の欠席届を提出すること。また、病欠についても事後に届け出ること。課題レポートや提出物については、誤字・脱字は減点の対象になるので必ず辞書で確認すること。 | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|---------------------------------------|---------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 1回 | 授業内容 | オリエンテーション | 授業内容について レポート課題を提出及び定期試験 を行う。 |
| | 学習成果 | 担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価方法を理解する。 | |
| 予習復習 の内容 | 配布資料で復習する。 | 2回 | |
| | 授業内容 | | |
| 学習成果 | 日本における児童福祉の歴史と子ども観の変遷を学ぶ。 | 予習復習 の内容 | |
| 配布資料で復習する。 | 3回 | | |
| 授業内容 | | 児童福祉の意義と歴史2 | |
| 憲法・児童憲章・子どもの権利条約・子どもの権利の形成過程を理解する。 | 予習復習 の内容 | | |
| 配布資料で復習する。 | | 4回 | |
| 授業内容 | 子どもと家庭の現状と課題1 | | |
| 少子高齢化社会のなかの子どもと家庭の現状を理解する。 | 予習復習 の内容 | | |
| 配布資料で復習する。 | | 5回 | |
| 授業内容 | 子どもと家庭の現状と課題2 | | |
| ひとり親家庭の現状と課題また支援策の概要を学ぶ。 | 予習復習 の内容 | | |
| 配布資料で復習する。 | | 6回 | |
| 授業内容 | 子どもと家庭の現状と課題3 | | 学習成果 |
| 児童虐待の現状と被虐待児への支援について理解する。 | 予習復習 の内容 | | |
| 配布資料で復習する。 | | 7回 | |
| 授業内容 | 子どもと家庭の現状と課題4 | | 学習成果 |
| DVの現状と被害者支援の実態について理解する。 | 予習復習 の内容 | | |
| 配布資料で復習する。 | | 8回 | |
| 授業内容 | 子どもと家庭の現状と課題5 | | 学習成果 |
| 青少年の健全育成の現状や性犯罪や性被害も含めて理解する。 | 予習復習 の内容 | | |
| 配布資料で復習する。 | | 9回 | |
| 授業内容 | 児童・家庭福祉に関する法制度1 | | 授業内容について 定期試験を行う。 |
| 児童福祉法の概要について学ぶ。 | 予習復習 の内容 | | |
| 配布資料で復習する。 | | 10回 | |
| 授業内容 | 児童・家庭福祉に関する法制度2 | | |
| 児童虐待防止法、DV防止法の概要について学ぶ。 | 予習復習 の内容 | | |
| 配布資料で復習する。 | | 11回 | |
| 授業内容 | 児童・家庭福祉に関する法制度3 | | |
| 児童手当法、次世代育成支援対策推進法等のその他の法について理解する。 | 予習復習 の内容 | | |
| 配布資料で復習する。 | | 12回 | |
| 授業内容 | 児童・家庭福祉関連の行政機関 | | |
| 福祉事務所・児童相談所等の役割と現状について理解する。 | 予習復習 の内容 | | |
| 配布資料で復習する。 | | 13回 | |
| 授業内容 | 児童・家庭福祉関連の福祉施設1 | | |
| 通所型の施設を取り上げ、特に待機児童の問題を考える。 | 予習復習 の内容 | | |
| 配布資料で復習する。 | | 14回 | |
| 授業内容 | 児童・家庭福祉関連の福祉施設2 | | |
| 入所型の施設を取り上げ、社会的養護について考察する。 | 予習復習 の内容 | | |
| 配布資料で復習する。 | | 15回 | |
| 授業内容 | まとめ | | |
| これまでの授業のふりかえりとまとめを行い、これからの課題と展望を考察する。 | 予習復習 の内容 | | |
| 配布資料で復習する。 | | | |

| 科目名 | 社会福祉 | | | | 担当者 | ウエムラ ヒロキ 上 村 裕 樹 | | | | | | |
|-------------------------------------|--|--|--------|--------------------------------|-----|---------------------|------|----|----|----|-----|----|
| 区 分 | 必修 | 2 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業形態 | 講義 | 学年 | 1年 | 開講期 | 前期 |
| | | | | 授業時間数 | 30 | 時間 | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | 研究室への訪問、又は uemura.hiroki@seiwa.ac.jp への連絡（学籍番号・氏名記載必須）とする | | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 社会福祉の歴史的展開や法制度などについて理解し、適切に説明・報告する事ができる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 社会福祉の理念や原理を理解し、現在の社会福祉サービスについて、説明することができる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 社会福祉の対象を理解し、その対象者の背景や状況を踏まえた上で、対象者が抱える課題とその解決策について説明・報告することができる。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | 社会福祉の働きを理解し、社会福祉の役割や意義について、自ら積極的に説明することができる。 | | | | | | | | | | |
| | ⑤ | 社会福祉の課題について自ら考えることができると共に、その解決に向けた提案を対話型学習において、提案する事ができる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 現代社会における社会福祉の必要性を理解し、実践において必要とされる知識や理論の基礎について自ら学びに向かい、得た内容について、説明、報告する事ができる。 | | | | | | | | | | |
| | (2) | 他者と協働的に学び合い、高め合うための方法を知り、実践することが出来るとともに、協働的な関係性の構築に向けて、自ら協力的に体制づくりに参加することができる。 | | | | | | | | | | |
| | (3) | 幅広い教養を身に付け、自ら課題を見出し、将来に渡り学び続けるための基礎となる研究心が養われ、学びに向かい続け探求することができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 社会福祉のこれまでの歴史的展開を踏まえ、その理念や原理、各種法制度の成立の状況やその変遷を知り、社会福祉サービスの成立とその役割について、理解する。また、社会福祉の対象についても同様に社会的状況やその背景、各対象へのサービスの具体的な内容についても理解する。 そして、これらの理解を得るための事前学習をもとにした自らの学びを積み重ねると同時に、対話的な学習による協働的な学びを積み重ねていくことで、学習を深めていく。 これらの学びを通して、理論の上に立った社会福祉実践の展開について考え、今後の課題について自らが説明、報告する。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | | | | | | | | | | |
| | | レポート | 5 | 学習ノートの提出と評価 | | | | | | | | |
| | | テスト | 30 | 理解度確認テスト・確認小テストの正否による得点での評価 | | | | | | | | |
| | | 報告書 | 40 | 授業内容の取り組みの報告書（提出状況（20）・内容（20）） | | | | | | | | |
| | | ワーク | 15 | グループワークへの取り組み（参加・貢献）の評価 | | | | | | | | |
| 事前学習 | 10 | 事前学習課題への取り組みと提出の評価 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・④・⑤にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①・③・④・⑤にて評価を行う。 (3) は、専門的学習成果③・④・⑤にて評価を行う。 | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | | |
| | 井村圭壯・今井慶宗編 | 『社会福祉の基本体系・第5版-』 | | | | 勁草書房 | | | | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | | |
| | 福祉小六法編有委員会編 | 『福祉小六法』 | | | | 中央法規出版 | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | <p>①準備学習等履修上の留意点：授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。学習時間の自らの確保と保障は本講義受講において、必須とする。 <事前学習>事前学習課題に基づく学習を必須とする。テキストや参考文献資料に目を通し、専門用語の意味を含め、各回での学習内容について、事前の基礎学習を行うこと。また、講義理解のため、子どもや子育て家庭を取り巻く現在社会の状況について社会制度や生活課題等に関するニュースに目を通しておくこと。 <事後学習>毎回の講義の内容について振り返りを行うとともに、講義において示される学習課題について、能動的に取り組み提出を必ず行うこと。それらを通して、講義内容の理解を深め、講義の中で得られた自らの疑問や課題について、担当教員への質問だけでなく、図書資料等を用いながら学習を深めること。 ②フィードバックの方法等：専門的学習成果の評価における評価内容のフィードバックの方法は、以下の通りとする。 ▶授業の中で取り扱うコメントペーパーに関する内容は、次回講義開始時にコメントへのフィードバックを行う。 ▶各種テストの内容に関しては、テスト終了時に問題の解答に関するフィードバックを行う。 ▶ワーク課題に関するフィードバックは、グループ課題は講義内でのハーベストと返却によりフィードバックとする。 ▶学習内容を学習ノートに指示された通り段階的にファイリングし、自らの学習の成果を視覚的に捉えることが可能となるよう取り組むこと。 評価基準の補足は、以下の通りであり、自己学習のフィードバックの際の参考とすること。 ▶各種テストに関しては解答正解率により評価される。 ▶グループワークやワーク課題に関しては、ワークを通して得られる成果のみならず、ワーク活動への参加を含めた活動のプロセスも同様に評価される。 ▶事前・事後の学習に伴う提出課題は、各個人での取り組みが必要となるため、その取り組みのプロセスについても同様に評価される。 ▶学習ノートは、学びの成果を自らがまとめることが必要であるため、その取り組みが評価される。</p> | | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|------|---------|--|---|
| 1回 | 授業内容 | 現代生活と社会福祉 テーマ：現代社会の生活と社会福祉 | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト |
| | 学習成果 | 現代の社会状況について理解し、社会福祉の役割やその意義について、グループワークにおいて、積極的に説明・報告できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成） | |
| 2回 | 授業内容 | 社会福祉の歴史 テーマ：日本における社会福祉の歴史 | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト |
| | 学習成果 | 社会福祉の歴史について理解し、社会福祉の成立からその変遷について、グループワークにおいて、積極的に説明・報告できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成） | |
| 3回 | 授業内容 | 社会福祉の法律 テーマ：社会福祉法制度 | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト |
| | 学習成果 | 社会福祉の法律の成立から、その働きについて、グループワークにおいて、積極的に説明・報告できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成） | |
| 4回 | 授業内容 | 社会福祉の行政組織 テーマ：社会福祉行政の仕組み | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷理解度確認テスト |
| | 学習成果 | 社会福祉の行政組織の仕組みについて理解し、その働きや役割について、グループワークにおいて、積極的に説明・報告できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成） | |
| 5回 | 授業内容 | 社会福祉の民間活動 テーマ：社会福祉の民間活動の現状 | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト |
| | 学習成果 | 社会福祉の民間活動について、その現状と課題について、グループワークにおいて、積極的に説明・報告できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成） | |
| 6回 | 授業内容 | 社会福祉従事者 テーマ：社会福祉従事者の役割 | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷理解度確認テスト |
| | 学習成果 | 社会福祉従事者の資格や業務について理解し、その役割と働きについて、グループワークにおいて、積極的に説明・報告できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成） | |
| 7回 | 授業内容 | 社会福祉における相談援助 テーマ：相談援助の役割と仕組み | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト |
| | 学習成果 | 社会福祉における相談援助の意義と役割について理解し、福祉課題解決のための相談援助のあり方について、自ら説明することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成） | |
| 8回 | 授業内容 | 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み テーマ：利用者保護の仕組み | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷理解度確認テスト |
| | 学習成果 | 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解し、権利擁護や成年後見制度の役割について、グループワークにおいて、積極的に説明・報告できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成） | |
| 9回 | 授業内容 | 児童家庭福祉 テーマ：現在社会の児童家庭福祉 | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト |
| | 学習成果 | 現在の社会における児童家庭福祉の現状について理解し、児童家庭福祉におけるサービスの役割や課題について、グループワークにおいて、説明・報告できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成） | |
| 10回 | 授業内容 | 高齢者保健福祉 テーマ：現在社会の高齢者保健福祉 | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト |
| | 学習成果 | 現在の社会における高齢者福祉の現状について理解し、高齢者福祉におけるサービスの役割や課題について、グループワークにおいて、説明・報告できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成） | |
| 11回 | 授業内容 | 障害者福祉 テーマ：現在社会の障害者福祉 | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト |
| | 学習成果 | 現在の社会における障害者福祉の現状について理解し、障害者福祉におけるサービスの役割や課題について、グループワークにおいて、説明・報告できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成） | |
| 12回 | 授業内容 | 生活保護制度 テーマ：生活保護制度の仕組みと課題 | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷理解度確認テスト（質の向上） |
| | 学習成果 | 生活保護制度の仕組みや役割について理解し、現在の社会における生活保護制度の必要性とその課題について、グループワークにおいて、説明・報告できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成） | |
| 13回 | 授業内容 | 地域福祉 テーマ：地域福祉の仕組みと課題 | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト |
| | 学習成果 | 地域福祉の仕組みや役割について理解し、現在の社会における地域福祉の必要性とその課題について、グループワークにおいて、説明・報告できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成） | |
| 14回 | 授業内容 | 保育と社会福祉 テーマ：社会福祉における保育 | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷理解度確認テスト |
| | 学習成果 | 保育の仕組みや役割について理解し、現在の社会における保育の必要性とその課題について、グループワークにおいて、説明・報告できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成） | |
| 15回 | 授業内容 | 社会福祉の課題 テーマ：社会福祉の課題の解決に向けて | ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷理解度確認テスト（13-15回） ▷学習ノートの提出 |
| | 学習成果 | 社会福祉の課題について、これまでの学びをもとに、社会福祉に従事するものとして、自らの具体的な参与と福祉課題への解決のアプローチに関して提案ができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成） | |

| 科目名 | 社会的養護 I | | | | 担当者 | 菅 田 賢 治 | | | | | | |
|-------------------------------------|--|---|--------|---------------|-----|---------|----------|----|----|---|-----|----|
| 区 分 | 必修 | 2 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業 形態 | 講義 | 学年 | 1 | 開講期 | 前期 |
| | | | | 授業時間数 | 30 | 時間 | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | | 授業時のみ | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 社会的養護とは何か、現状と今後の課題を論じることができる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 社会的養護を必要とする子どもについて考察できる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 自立支援計画について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | アセスメントやプランニングができる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 保育士としての業務の広汎性を理解する。(専門的学習成果①②③④) | | | | | | | | | | |
| | (2) | 自らの課題を追究し、将来にわたり学び続けるための基礎となる力を獲得している。(専門的学習成果①②③④) | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 平成28年6月に改正された児童福祉法は、これまでの社会的養護を大きく変革するものとなった。これらを踏まえて、戦後70年の社会的養護の歩みと現状、そしてこれからの社会的養護のあり方を探っていく。また、大きな社会的課題となっている、児童虐待の現状と課題にも焦点をあてる。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | 60 | 15回の授業の評価となる。 | | | | | | | | |
| | | レポート | 40 | 8回目の授業中に行う。 | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) は専門的学習成果①～④で行う。 (2) は専門的学習成果①～④で行う。 | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | | |
| | 辰己 隆、岡本 真幸編 | 『保育士をめざす人の社会的養護』 | | | | みらい | | | | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | | |
| | | 授業の中で紹介する。 | | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | ①教科書を事前に読み込んでおくこと。(予習を週2時間程度) 教科書並びに配布資料を基に復習すること。(週2時間程度) ②公務等(実習・部活動等)で欠席する場合は、必ず所定の様式の欠席届を提出すること。また、病欠についても事後に届け出ること。課題レポートや提出物については、誤字・脱字は減点の対象になるので必ず辞書で確認すること。 | | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|------|---------|--|---------|
| 1回 | 授業内容 | オリエンテーション担当教員の紹介、授業の目標と進め方、シラバス説明、成績評価方法 | |
| | 学習成果 | 社会的養護の大綱を理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 配布した資料で復習する。 | |
| | 授業内容 | 社会的養護の基本理念と原理 | |
| 2回 | 学習成果 | 共通する基本理念と原理を学ぶ。 | |
| | 予習復習の内容 | 配布した資料で復習する。 | |
| | 授業内容 | 利用対象 | |
| | 学習成果 | 社会的養護を利用する子どもや家族の状況を理解する。 | |
| 3回 | 予習復習の内容 | 配布した資料で復習する。 | |
| | 授業内容 | 支援・養育のあり方の基本 | |
| 4回 | 学習成果 | 社会的養護を担う上での支援・養育・治療のあり方を学ぶ。 | |
| | 予習復習の内容 | 配布した資料で復習する。 | |
| | 授業内容 | 施設養護 | |
| | 学習成果 | 社会的養護を担う各種別の施設について、概要と役割を学ぶ。 | |
| 5回 | 予習復習の内容 | 配布した資料で復習する。 | |
| | 授業内容 | 家庭(的)養護 | |
| 6回 | 学習成果 | 日本の里親制度の現状や新たな仕組みを理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 配布した資料で復習する。 | |
| | 授業内容 | 社会的養護の課題と将来像 | |
| | 学習成果 | 社会的養育の在り方を学ぶ。 | |
| 7回 | 予習復習の内容 | 配布した資料で復習する。 | |
| | 授業内容 | 社会的養護関係施設運営指針 | |
| 8回 | 学習成果 | 各種別の運営指針について学ぶ。 | |
| | 予習復習の内容 | 配布した資料で復習する。 | |
| | 授業内容 | 社会的養護関係施設の第三者評価と自己評価 | |
| | 学習成果 | 義務化された第三者評価と自己評価を学ぶ。 | |
| 9回 | 予習復習の内容 | 配布した資料で復習する。 | |
| | 授業内容 | 自立支援計画1 | |
| 10回 | 学習成果 | ニーズ発見とアセスメントの実際を学ぶ。 | |
| | 予習復習の内容 | 配布した資料で復習する。 | |
| | 授業内容 | 自立支援計画2 | |
| | 学習成果 | プランニングと介入の実際を学ぶ。 | |
| 11回 | 予習復習の内容 | 配布した資料で復習する。 | |
| | 授業内容 | 自立支援計画3 | |
| 12回 | 学習成果 | モニタリングと評価、終結を学ぶ。 | |
| | 予習復習の内容 | 配布した資料で復習する。 | |
| | 授業内容 | 権利擁護 | |
| | 学習成果 | 社会的養護における子どもの権利擁護の理念や、その取り組みを理解する。 | |
| 13回 | 予習復習の内容 | 配布した資料で復習する。 | |
| | 授業内容 | 関係機関連携と地域支援 | |
| 14回 | 学習成果 | 児童相談所や福祉事務所との連携、アフターケアを学ぶ。 | |
| | 予習復習の内容 | 配布した資料で復習する。 | |
| 15回 | 授業内容 | まとめ | |
| | 学習成果 | これまでの授業のふりかえりとまとめを行い、これからの課題と展望を考察する。 | |
| | 予習復習の内容 | 配布した資料で復習する。 | |

| 科目名 | 保育者論 | | | | 担当者 | ウエムラ ヒロキ 上 村 裕 樹 | | | | | | |
|-------------------------------------|--|--|--------|--------------------------------|-----|---------------------|------|----|----|----|-----|----|
| 区 分 | 必修 | 2 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業形態 | 講義 | 学年 | 1年 | 開講期 | 前期 |
| | | | | 授業時間数 | 30 | 時間 | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | | 研究室への訪問、又は uemura.hiroki@seiwa.ac.jp への連絡（学籍番号・氏名記載必須）とする。 | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 子どもを取り巻く現在社会の状況について理解し、幼児教育や保育、保育士の必要性と役割について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 保育者の専門職としての業務について理解し、職務内容及びサービス内容について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 少子化・経済状況・教育課題・家庭の養育力などの面から現在の社会状況について理解し、その中で必要とされる保育者の役割について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | 求められる保育者としての理想像や資質能力について理解し、保育者の専門性を向上させることの意義について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ⑤ | 保育者の専門性を向上させるために必要な保育者自らの取り組みについて理解し、保育者を目指す受講生自らの取り組むべき学習や、期待される役割について理解し、自らの働き方のイメージを持ち、具体的な保育場面を想定し、自ら説明することができる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 現代社会における保育者の重要性の高まりを理解し、教職の意欲を高め、進路選択における保育職のあり方を考え表現することができる。(専門的学習成果①②③④) | | | | | | | | | | |
| | (2) | 幅広い教養を身につけ、自ら課題を見出し、将来に渡り学び続けるための基礎となる研究心が養われ、学びに向かい続け探求することができる。(専門的学習成果①④⑤) | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 現代社会における社会状況について理解を深め、教育課題の現状とこれからの教育が担う役割や課題について、自ら説明することが可能となるよう理解を深める。また、保育・教育の重要性を理解するとともに、保育者の役割や働きについて理解する。そして、保育者の職務について適切に理解し、自らの保育者としての質の向上の必要性と意義、向上に向けた学習の手法と仕組みについて学ぶ。その他、保育者の連携や協働の重要性、家庭との協力連携体制の構築の重要性を認識し、社会資源を有効に活用した協働の方法を模索するとともに、子どもの発達に沿った就学に向けて、小学校教育との連続性についても学ぶ。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | | | | | | | | | | |
| | | レポート | 5 | 学習ノートの提出と評価 | | | | | | | | |
| | | テスト | 30 | 理解度確認テスト・確認小テストの正否による得点での評価 | | | | | | | | |
| | | 報告書 | 40 | 授業内容の取り組みの報告書（提出状況（20）・内容（20）） | | | | | | | | |
| | | ワーク | 15 | グループワークへの取り組み（参加・貢献）の評価 | | | | | | | | |
| 事前学習 | 10 | 事前学習課題への取り組みと提出の評価 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・④にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①・④・⑤にて評価を行う。 | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | | |
| | 佐藤哲也編著 | 『子どものこころにより添う保育者論』 | | | | 福村出版 | | | | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | | |
| | 文部科学省 | 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | | |
| | 厚生労働省 | 『保育所保育指針』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | | |
| | 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | <p>①準備学習等履修上の留意点：授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。学習時間の自らの確保と保障は本講義受講において、必須とする。</p> <p>＜事前学習＞事前学習課題に基づく学習を必須とする。テキストや参考文献資料に目を通し、専門用語の意味を含め、各回での学習内容について、事前の基礎学習を行うこと。また、講義理解のため、子どもや子育て家庭を取り巻く現在社会の状況について社会制度や生活課題等に関するニュースに目を通しておくこと。</p> <p>＜事後学習＞毎回の講義の内容について振り返りを行うとともに、講義において示される学習課題について、能動的に取り組み提出を必ず行うこと。それらを通して、講義内容の理解を深め、講義の中で得られた自らの疑問や課題について、担当教員への質問だけではなく、図書資料等を用いながら学習を深めること。</p> <p>②フィードバックの方法等：専門的学習成果の評価における評価内容のフィードバックの方法は、以下の通りとする。</p> <p>▶授業の中で取り扱うコメントペーパーに関する内容は、次回講義開始時にコメントへのフィードバックを行う。</p> <p>▶各種テストの内容に関しては、テスト終了時に問題の解答に関してのフィードバックを行う。</p> <p>▶ワーク課題に関するフィードバックは、グループ課題は講義内でのハーベストと返却によりフィードバックとする。</p> <p>▶学習内容を学習ノートに指示された通り段階的にファイリングし、自らの学習の成果を視覚的に捉えることが可能となるよう取り組むこと。</p> <p>評価基準の補足は、以下の通りであり、自己学習のフィードバックの際の参考とすること。</p> <p>▶各種テストに関しては解答正解率により評価される。</p> <p>▶グループワークやワーク課題に関しては、ワークを通して得られる成果のみならず、ワーク活動への参加を含めた活動のプロセスも同様に評価される。</p> <p>▶事前・事後の学習に伴う提出課題は、各個人での取り組みが必要となるため、その取り組みのプロセスについても同様に評価される。</p> <p>▶学習ノートは、学びの成果を自らがまとめることが必要であるため、その取り組みが評価される。</p> | | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | 学習成果の評価 |
|------|---------|---|
| 1回 | 授業内容 | 幼児教育及び保育の社会的意義 テーマ▶幼児教育及び保育の現在社会における意義 |
| | 学習成果 | 幼児教育及び保育の社会における現在の状況について理解し、その社会的意義について、グループワークにおいて、積極的に報告・説明ができる。 |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告（学習内容報告書の作成） |
| 2回 | 授業内容 | 教職の社会的意義 テーマ▶教育職の社会的な役割と意義 |
| | 学習成果 | 教職の役割について理解し、幼児教育や保育における教職の意義とその必要性について、グループワークにおいて、積極的に報告・説明ができる。 |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告 |
| 3回 | 授業内容 | 保育者の職業的特徴 テーマ▶保育職の役割と専門性 |
| | 学習成果 | 専門職としての保育者（保育士・幼稚園教諭・保育教諭）について理解し、専門職や専門性について、グループワークにおいて、積極的に報告・説明ができる。 |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告 |
| 4回 | 授業内容 | 保育者に求められる役割①現在の子どもを取り巻く社会状況 テーマ▶子どもを取り巻く社会 |
| | 学習成果 | 現在の子どもを取り巻く社会状況について、少子化・経済状況・教育課題・家庭の養育力などの面から理解し、グループワークにおいて、積極的に報告・説明できる。 |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告 |
| 5回 | 授業内容 | 保育者に求められる役割②変化する社会状況の中での保育者の役割 テーマ▶変化する社会での保育者の役割 |
| | 学習成果 | 子どもを取り巻く現在の社会状況の課題を理解し、その中で求められるであろう保育者の役割について自ら説明できる。 |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告 |
| 6回 | 授業内容 | 保育者に求められる姿①理想的保育者像 テーマ▶理想的な保育者とは |
| | 学習成果 | 自らの理想的保育者像について言語化することができ、グループワークを通し、他者の理想像を学ぶことで、保育者の理想像について報告・検討することができる。 |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告 |
| 7回 | 授業内容 | 保育者に求められる姿②資質能力 テーマ▶保育者の資質能力とは |
| | 学習成果 | 保育者に必要とされる資質・能力について理解し、その育成のために必要な取り組みについて、グループワークにおいて、積極的に報告・検討することができる。 |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告 |
| 8回 | 授業内容 | 保育者の職務内容・サービスの理解 テーマ▶保育者の職務とサービス |
| | 学習成果 | 保育者の職務内容とサービス内容について、実際の業務からその内容を把握し、具体的な働きについて理解し、グループワークにおいて、積極的に説明できる。 |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告 |
| 9回 | 授業内容 | 教員研修の意義と制度的位置づけ テーマ：研修の役割と仕組み |
| | 学習成果 | 教職にとって必要とされる研修の意義と制度上の決まりについて理解し、グループワークにおいて、積極的に説明できる。 |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告 |
| 10回 | 授業内容 | 保育者の質の向上の理解①学び続けることの意義 テーマ：学び続ける保育者 |
| | 学習成果 | 保育者の専門性を担保する上において、学習し続けることが必須であることを理解し、専門職としての学習について理解し、グループワークにおいて、共に学び合うことができる。 |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告 |
| 11回 | 授業内容 | 保育者の質の向上の理解②振り返りと省察 テーマ：振り返りと省察 |
| | 学習成果 | 学習し続ける専門職において、自らの実践を常に振り返り課題を見出すことの必要性を理解し、そのような保育職の働き方について、グループワークにおいて、共に学び合うことができる。 |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告 |
| 12回 | 授業内容 | 保育者の質の向上の理解③モデル型学習 テーマ：保育職にとってのモデル型学習 |
| | 学習成果 | 専門職の学習方法の一つであるモデル型学習について、その仕組みを理解し、グループワークにおいて、共に学び合うことができる。 |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告 |
| 13回 | 授業内容 | 子どもの生活を支える保育者の役割 テーマ▶子どもの生活を支える保育者 |
| | 学習成果 | 子どもの日常的な生活を支える保育者の役割と働きについて理解し、自らの意見をグループワークにおいて伝え、学び合うことができる。 |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告 |
| 14回 | 授業内容 | 保育者の同僚性 テーマ▶保育職にとっての同僚性 |
| | 学習成果 | 保育者にとって必要とされる同僚との協働について理解し、自らの保育者としての働きについて自らの意見をグループワークにおいて伝え、学び合うことができる。 |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告 |
| 15回 | 授業内容 | 保育者の連携（他職種連携・小学校との連携）、振り返りとまとめ テーマ▶連携が保育にもたらす役割 |
| | 学習成果 | 多職種連携や小学校教育との連携について、その意義と必要性について、理解し、自らの意見をグループワークにおいて伝え、学び合うことができる。 |
| | 予習復習の内容 | 予習：事前学習課題への取り組み 復習：講義内課題の報告 |

| 科目名 | 保育の心理学 | | | | 担当者 | ヤマモト 信 (実務家教員) | | | | | | |
|-------------------------------------|--|--|--|--|-----|----------------|------|----|------|----|-----|----|
| 区分 | 必修 | 2 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業形態 | 講義 | 学年 | 1年 | 開講期 | 前期 |
| | | | | 授業時間数 | 30 | 時間 | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | | 研究室への訪問、または email:yamamoto.makoto@seiwa.ac.jp への連絡 (学籍番号・氏名記載必須) とする。 | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 子どもの発達について理解し、保育・教育における発達理解の意義について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 運動・言語・認知・社会性・感情など領域ごとの発達メカニズムとプロセスについて理解し、想定された保育場面に於ける具体的な子どもの姿と関連付けて説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 子どもの学習の原理について理解し、子どもの主体的な学習に必要とされる保育者の姿勢・能力について考察し、説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | 子どもの学びと遊びとの関連について理解・考察し、具体的な保育場面に於ける保育者の役割について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ⑤ | 特別な配慮を必要とする子どもの特徴について理解し、子どもを取り巻く現在社会の状況とともに、保育現場においてどのような支援が行われているかについて説明できる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 子どもの育ちに関する知識を身につけ、保育者としてどのように子どもを理解し支援していくことができるかについて考え表現することができる。(専門的学習成果①②③) | | | | | | | | | | |
| | (2) | 現代社会における保育者の役割を理解し、発達や学習に関する専門的知識を活用しながら自ら課題を見出し、学びに向かい続けることができる。(専門的学習成果①④⑤) | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 発達についての知識を通じて乳幼児を理解し、支援・指導することの重要性について学ぶ。また、発達段階ごとの発達特徴とその変化を理解し、生涯発達の中での乳幼児期の位置づけをふまえた保育・教育のあり方について学ぶ。また、運動・言語・認知・感情・社会性などの領域ごとの発達プロセスについて学び、各領域が相互に関連していることを理解する。 さらに、乳幼児の主体的な学びのメカニズムと保育・幼児教育との関連について理解し、発達や学びに関する専門的知識が、どのように保育現場において活用されていくべきかについて学ぶ。保育士としての実務経験をもとに保育現場における子どもの具体的な姿や発達障害等に関する現状や課題と照らし合わせながら授業を展開していく。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | | | | | | | | | | |
| | | ワークシート | 30 | ワークシート (2回)：講義内容を踏まえ、テーマに沿ったレポートの評価を行う (各20点)。 | | | | | | | | |
| | | 小テスト | 20 | 小テスト (2回)：正答率に応じて評価を行う (各10点) | | | | | | | | |
| | 確認試験 | 50 | これまでの学習内容に基づき、学習習熟度に関してのテストを実施し、評価を行う。 | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①・④・⑤にて評価を行う。 | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | |
| | 本郷一夫・飯島典子 編著 | | 『シードブック 保育の心理学』 | | | | | | 建帛社 | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | |
| | 文部科学省 | | 『幼稚園教育要領』(解説書含む) | | | | | | | | | |
| | 厚生労働省 | | 『保育所保育指針』(解説書含む) | | | | | | | | | |
| | 内閣府・文部科学省・ 厚生労働省 | | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(解説書含む) | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | ①授業は、テキスト・参考資料・配付資料を中心に進める。また、授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。 ＜事前学習(週2時間程度)＞：テキスト・参考文献を読み、専門用語の理解をはじめ、各回の学習内容について予習を行うこと。また、子どもを取り巻く社会状況の理解のために、新聞やニュース等から積極的に情報を取り入れ、学習内容と関連付けながら深く考える機会を多く持つこと。 ＜事後学習(週2時間程度)＞：毎回の講義の内容について復習を行い、疑問や課題等については、担当教員への質問や参考資料・図書資料等を活用しながら理解を深めること。また、新聞・ニュース等で得られた情報と学習内容を結びつけながら、自分の考えを言葉や文字で表現できるようにし、レポートの作成等につなげること。 ②フィードバックの方法については、以下の通りとする。 ＜小テスト＞テストの実施後に解答・解説を行う。 ＜ワークシート＞提出後2週間以内を目安に、評価のポイントを含めたコメントとともに返却する。 | | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|---------|---|---|---|
| 1回 | 授業内容 | 子どもの発達を理解することの意義 | 1～2回の講義内容を踏まえ、ワークシートを提出。 テーマ：「保育者の専門性①：子どもの発達理解と保育」 第2回の授業終了後、1週間以内に提出(研究室) |
| | 学習成果 | 発達と発達を規定する要因について理解し、保育者として発達を理解することの意義について説明することができる。 | |
| 予習復習の内容 | 発達の定義を理解し、発達を理解することの意義について考えておくこと。表面的発達や潜在的発達について理解し、保育者がどのように子どもの発達を捉え、保育を行うべきかについて、具体的な言葉でまとめておくこと。 | | |
| 2回 | 授業内容 | 子どもの発達と保育 | |
| | 学習成果 | 様々な子ども親や保育親・発達親について理解し、子どもの発達と環境や、養護と教育との一体性について説明することができる。 | |
| 予習復習の内容 | 子ども親の変遷や代表的な保育親について理解しておくこと。様々な保育親の理解を通して、子どもと環境との関わりについて理解を深め、養護と教育が一体となった保育を行う意義についてワークシートにまとめること。 | | |
| 3回 | 授業内容 | 身体・運動の発達 | |
| | 学習成果 | 胎児期からの身体の発達や、発達の方向性・順序性について理解し、運動発達の分類と関連させながら具体的な子どもの動きや姿を説明することができる。 | |
| 予習復習の内容 | 新生児反射や、運動発達の方向性と順序性について、保育の中での具体的な子どもの姿をイメージしながら理解しておくこと。運動発達と他の発達領域との関連について調べ、理解を深めておくこと。 | | |
| 4回 | 授業内容 | 乳児期・幼児期前期の認知発達 | |
| | 学習成果 | 知覚・模倣・表象の発達や代表的な発達理論について理解し、認知発達と関連した乳児期・幼児期前期の子どもの姿について説明することができる。 | |
| 予習復習の内容 | 認知発達の代表的な理論(ピアジェ理論)について理解しておくこと。認知が発達することにより、乳幼児ができるようになること、理解することについて具体的に説明できるよう、まとめておくこと。 | | |
| 5回 | 授業内容 | 幼児期後期・児童期の認知発達 | |
| | 学習成果 | 実行機能やメタ認知の発達について理解し、心の理論や科学的概念の獲得のメカニズムについて説明することができる。 | |
| 予習復習の内容 | 認知発達に関する専門的用語について調べ、具体的な子どもの姿とともに理解しておくこと。認知発達と他の発達領域との関連について調べ、理解を深めること。 | | |
| 6回 | 授業内容 | 言語の発達 | |
| | 学習成果 | 前言語期を含むコミュニケーションの発達について理解し、話し言葉・読み言葉・書き言葉など、子どもの発達における言葉の役割と言葉の発達を促す要因について説明することができる。 | |
| 予習復習の内容 | 共同注意・三項関係等、発語前後のコミュニケーションの発達について理解しておくこと。表象・象徴機能と言葉の発達について理解を深め、言葉の発達を促す保育者のかかわりについてまとめること。 | | |
| 7回 | 授業内容 | 感情の発達 | |
| | 学習成果 | 感情の分化や感情理解の発達について理解し、子どもの生活において感情がどのような役割を果たしているか、感情の発達とはどのようなことかについて具体的に説明することができる。 | |
| 予習復習の内容 | 感情が発達するとはどのようなことかを考え、調べておくこと。他者の感情理解や、感情を適切に調整するためには何が必要であるかについて考え、非認知能力の発達との関連について理解を深めること。 | | |
| 8回 | 授業内容 | 社会性の発達 | |
| | 学習成果 | 自己意識や自己制御の発達について理解し、道徳性や規範意識を育むための要因について説明することができる。 | |
| 予習復習の内容 | 社会性の発達に関連する要因について調べ、理解しておくこと。社会性が発達するということはどのようなことか、他の発達領域との関連について理解した上で自分の言葉で表現できるようにすること。 | | |
| 9回 | 授業内容 | 仲間関係の発達 | |
| | 学習成果 | 幼児期・児童期における仲間関係の発達について理解し、集団の中で子どもがどのように社会的スキルを獲得していくのか、社会化に向かっていくのかについて具体的な場面を挙げて説明することができる。 | |
| 予習復習の内容 | 社会的スキルや社会化など、仲間関係に関する用語について調べ、理解しておくこと。個々の発達に加え、クラス集団の発達を捉えていくことの意味について理解を深めること。 | | |
| 10回 | 授業内容 | 子どもの学びと発達 | |
| | 学習成果 | 学習の原理について理解し、意欲や動機づけの役割を理解しながら子どもの学びを支えるための保育者の役割について説明することができる。 | |
| 予習復習の内容 | 保育の中で、子どもの学びがどのように展開されているのか自分なりに調べておくこと。学びを促すために、保育者がすべきことは何か、自分の言葉で表現できるようにすること。 | | |
| 11回 | 授業内容 | 生活と遊びを通じた学び | |
| | 学習成果 | 子どもの生活・遊びと学びの関連について理解し、知的好奇心や自己肯定感を育むために必要なことを具体的な保育場面で挙げて語ることができる。 | |
| 予習復習の内容 | 生活や遊びがどのように学びにつながっているのかについて理解しておくこと。保育のあらゆる場面において、それらがどのような学びにつながっているかを考え、プレゼンテーション資料の作成を行うこと。 | | |
| 12回 | 授業内容 | 特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援 | |
| | 学習成果 | 幼児期・児童期にみられる障害や「気になる」子どもの特徴について理解し、特別な配慮を必要とする子どもへの支援について自分の言葉で語ることができる。 | |
| 予習復習の内容 | 障害の分類や主な症状について調べ、理解しておくこと。子どもの発達・学びを保障するための「特別な配慮」とはどのようなことかを具体的に考え、理解を深め、表現できるようにすること。 | | |
| 13回 | 授業内容 | 子どもの発達と現代的課題 | |
| | 学習成果 | 子どもを取りまく現代社会における様々な課題やそれらが子どもの発達へ及ぼす影響について理解し、現代社会の特質を踏まえた具体的な保育・教育について語ることができる。 | |
| 予習復習の内容 | 就学支援やスタートアップカリキュラムについて調べ、理解しておくこと。現代社会における様々な課題についてまとめ、その中で保育者の役割や、専門的知識の活用について考え、理解を深めること。 | | |
| 14回 | 授業内容 | 発達と学びの連続性・就学移行支援 | |
| | 学習成果 | これまでの学習内容について理解し、就学に向けての現在の取り組みや課題を踏まえて、保育者としてどのようにあるべきか、どのような環境構成をしていくべきかについて、自らの思いを含めて説明することができる。 | |
| 予習復習の内容 | これまでの学習内容を理解し、乳幼児期の育ちにおいて「保育」が果たすべき役割について考え、自らの言葉で表現できるようにすること。発達や学びに関する専門的知識の活用について考え、それらをふまえた自らの学習についても評価を行うこと。 | | |
| 15回 | 授業内容 | 発達・学びの多様性と発達の機能間連関、振り返りとまとめ | |
| | 学習成果 | 各発達領域が互いに関連しながら、どのように子どもの育ちや適応に影響を及ぼしているかについて振り返り、自らの言葉で説明することができる。 | |
| 予習復習の内容 | 各領域の発達プロセスやメカニズムについて理解し、領域間の関連や、学びとの連続性について理解を深めておくこと。また、本講義のまとめとして、学習内容の振り返りを行い、自らの学習成果に関して具体的な評価を実施すること。 | | |
| | | | 確認試験 これまでの学習内容についての理解を計る ○1～15回の授業内容 |

| 科目名 | 子ども家庭支援の心理学 | | | | 担当者 | 加藤和子・飯島典子 | | | | | | |
|-------------------------------------|---|--|--------|--|-----|-----------|------|----|----|----|-----|----|
| 区分 | 必修 | 2 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業形態 | 講義 | 学年 | 1年 | 開講期 | 後期 |
| 授業時間数 | 30 時間 | | | | | | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | 飯島：授業の前後に質問を受け付ける。 | | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 乳幼児期から老年期を通じた生涯発達に関する知識と発達課題を理解し、説明することができる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 家族機能、親となること、親子関係の発達の意味を理解するとともに、現代的課題の視点をもつことができる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 家族における現代的課題を解決する支援について理解し、説明することができる。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | 家族の良好な構築を目指す支援のあり方を考察することができる。 | | | | | | | | | | |
| | ⑤ | 子どもの精神保健に関する知識とその課題について理解し、説明することができる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 現代社会に対する問題意識を形成する。(専門的学習成果②③に関連) | | | | | | | | | | |
| | (2) | 現代社会の問題を解決するための知識と技能を獲得する。(専門的学習成果①②⑤に関連) | | | | | | | | | | |
| | (3) | 子育て家庭の課題からより良い未来を構築しようとする態度を身につける。(専門的学習成果①④に関連) | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 本講義では、生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、発達課題等について理解する。また、家族機能、親となること、親子関係の発達の意味を理解するとともに、家族における現代的課題を解決する支援について理解する。子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解し、子どもの精神保健とその課題について理解することを目的とする。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | 30 | 子どもの精神保健に関する理解について「学習成果の評価」に示す内容の60%以上の得点を合格点とする | | | | | | | | |
| | | レポート | | | | | | | | | | |
| | | 筆記試験 | 70 | 家族支援のニーズと支援のあり方に関する理解を確認するために学期の途中で筆記試験を行い評価する。 | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果②③により評価を行う (2) は専門的学習成果①②⑤により評価を行う (3) は専門的学習成果①④により評価を行う | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | | |
| | 本郷一夫・神谷哲司 | 『シードブック 子ども家庭支援の心理学』 | | | | 建帛社 | | | | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | ①保育士資格取得に必修。テキストを使用して授業を進めるためテキストの予習・復習を行い、分らない用語などは各自で調べる(予習：週2時間程度)。また、社会福祉、児童福祉、保育の心理学など他の教科との関連が高いことから、他教科テキストの確認を行うこと、および新聞を読み社会に関する知識を得ることを時間外学習とする(復習：週2時間程度)。 ②筆記試験については解説によるフィードバックを行う。 | | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|------|---------|---|-------------------------------|
| 1回 | 授業内容 | 生涯発達①乳児期から学童期の発達(飯島) | 生涯発達の理解確認シートへの記入。 第3回目に実施。 |
| | 学習成果 | 生涯発達の観点をもとに乳児期から学童期の発達課題と初期経験の重要性を説明できる。 | |
| 2回 | 予習復習の内容 | テキストの熟考と整理 | |
| | 授業内容 | 生涯発達②思春期から青年期の発達(飯島) | |
| 3回 | 学習成果 | 生涯発達の観点をもとに思春期から青年期の発達課題を説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | テキストの熟考と整理 | |
| 4回 | 授業内容 | 生涯発達③成人期から老年期の発達(飯島) | |
| | 学習成果 | 生涯発達の観点をもとに成人期から老年期の発達課題を説明できる。 | |
| 5回 | 予習復習の内容 | テキストの熟考と整理 | |
| | 授業内容 | 家族機能と家族発達(飯島) | |
| 6回 | 学習成果 | 家族の構造と機能、家族の発達および家族支援の原理に関する知識を身につける。 | |
| | 予習復習の内容 | 新聞などを通じて社会問題について考える。 | |
| 7回 | 授業内容 | 子育ての世代間伝達と親発達(飯島) | |
| | 学習成果 | 子育ての世代間伝達と親発達(飯島) | |
| 8回 | 予習復習の内容 | 新聞などを通じて社会問題について考える。 | |
| | 授業内容 | ライフコースとワーク・ライフ・バランス(飯島) | |
| 9回 | 学習成果 | 子育ての社会状況の変化について考えることができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 新聞などを通じて社会問題について考える。 | |
| 10回 | 授業内容 | 多様な子育て家庭への支援(飯島) | |
| | 学習成果 | 支援ニーズと支援の在り方について理解している。 | |
| 11回 | 予習復習の内容 | 児童福祉、社会的養護、社会福祉に関する復習を事前にし関連づけ理解を深める。 | |
| | 授業内容 | 特別な配慮を必要とする家庭への支援(飯島) | |
| 12回 | 学習成果 | 多様な保育サービスの在り方について理解している。 | |
| | 予習復習の内容 | 児童福祉、社会的養護、社会福祉に関する復習を事前にし関連づけ理解を深める。 | |
| 13回 | 授業内容 | 障害をもつ子どもの家族支援(飯島) | |
| | 学習成果 | 障害をもつ子どもの親、家族が抱える課題と支援ニーズについて理解している。 | |
| 14回 | 予習復習の内容 | 発達障害の特徴について整理し、内容を関連づけて理解を深める。 | |
| | 授業内容 | 災害と子ども(飯島) | |
| 15回 | 学習成果 | 災害時の子どもの精神的健康とその支援について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | テキストの熟考と整理 | |
| 16回 | 授業内容 | 子どもの発達と精神保健(加藤) | |
| | 学習成果 | 子どもの発達と精神保健(加藤) | |
| 17回 | 予習復習の内容 | 子どもの精神発達に関する理論について整理し、内容を関連づけて理解を深める。 | |
| | 授業内容 | 子どもの精神保健と環境の影響(加藤) | |
| 18回 | 学習成果 | 子どもの心の発達における生活・生育環境の重要性を理解している。 | |
| | 予習復習の内容 | 子どもを取り巻く現代社会の特徴について整理し、内容を関連づけて理解する。 | |
| 19回 | 授業内容 | 発達障害(加藤) | |
| | 学習成果 | 発達障害における体験世界について理解し、支援について理解している。 | |
| 20回 | 予習復習の内容 | 発達障害における不安・緊張・言葉のおくれ・高い感覚性、衝動性について理解を深める。 | |
| | 授業内容 | 習癖や不安に関連した障害(加藤) | |
| 21回 | 学習成果 | 精神的なストレスによる様々な障害群と症状、その支援について理解している。 | |
| | 予習復習の内容 | 資料をもとに障害群と症状を整理し、理解する。 | |
| 22回 | 授業内容 | 児童虐待と精神保健(加藤) | |
| | 学習成果 | 児童虐待が与える脳や精神保健への影響について理解している。 | |
| 23回 | 予習復習の内容 | 児童虐待について整理し、精神発達に与える悪影響について理解を深める。 | |

| 科目名 | 子どもの保健 | | | | 担当者 | シモヤマダ アユミ 美 下山田 鮎 美 | | | | | | |
|-------------------------------------|--|--|-------------------------|--------------------------------------|-----|------------------------|----------|----|----|-----------|-----|----|
| 区分 | 必修 | 2 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業 形態 | 講義 | 学年 | 1年 | 開講期 | 後期 |
| | | | | 授業時間数 | 30 | 時間 | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | | 連絡や質問は、E-mail (ayumi@tfu-mail.tfu.ac.jp) 宛、件名に①学校名、②学籍番号と氏名、用件を明記すること | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について説明できる | | | | | | | | | | |
| | ② | 子どもの身体的な発育・発達と保健について説明できる | | | | | | | | | | |
| | ③ | 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について説明できる | | | | | | | | | | |
| | ④ | 子どもの疾病の予防方法と適切な対応について説明できる | | | | | | | | | | |
| | ⑤ | 子どもの健やかな育ちを支援する多職種間の連携・協働について説明できる | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 子どもの身体的な発育・発達に関する専門的知識を修得し、保育及び保健活動に必要な基礎的な技能を高める（専門的学習成果①②に関連） | | | | | | | | | | |
| | (2) | 子どもの健康増進及び疾病予防と適切な対応について理解を深め、保育及び保健活動に必要な基礎的な技能を高める（専門的学習成果③④に関連） | | | | | | | | | | |
| | (3) | 地域における多職種連携・協働について理解を深め、保育者の社会的役割を果たすための基礎的な技能を高める（専門的学習成果⑤に関連） | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | この授業は、保育士養成カリキュラム「子どもの保健」に対応している。授業にて扱う内容は、子どもの心身の健康と保健の意義、子どもの身体的発育・発達と保健、子どもの心身の健康状態とその把握、子どもの疾病予防及び適切な対応、である。保育者が子どもや養育者のニーズを適切にとらえ、保育のスペシャリストとしての活動が展開できるようになるために、子どもそのものはもちろんのこと、子どもを取り巻く社会情勢、各種制度の内容が理解できるようになることを目指す。また、子どもの健やかな育ちを支援するためには、多職種による連携についての理解も重要であることから、それらの基盤となる内容も扱う。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | 70 | 試験期間内に実施する。時間内に実施した少テストから出題する。 | | | | | | | | |
| | | レポート | 20 | 「子どもの保健と保育者の役割」を論理的に述べているかを観点に評価を行う。 | | | | | | | | |
| | | 平常点 | 10 | 授業の態度・関心・意欲を評価する。 | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) は専門的学習成果①及び②で評価を行う (2) は専門的学習成果③及び④で評価を行う (3) は専門的学習成果⑤で評価を行う | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | | 出版社名 | | |
| | 小林美由紀 | | 『授業で現場で役に立つ！子どもの保健テキスト』 | | | | | | | 診断と治療社 | | |
| | 医療情報科学研究所 | | 『公衆衛生がみえる2020-2021』 | | | | | | | メディックメディア | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | | 出版社名 | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | | ①準備学習等履修上の留意点：事前学習として、教科書の該当箇所を必ず読み、わからない言葉は調べる。知識ノートを作ることが望ましい（予習週に2時間程度）。事後学習として、教科書の振り返り問題を解き、内容を覚えること（復習週に2時間程度）。第1章・第2章、第3章・第6章・7章、第4章・第5章の3回にわけて少テストを行うので、対策を講じること。授業欠席の際は、ayumi@tfu-mail.tfu.ac.jp に連絡を入れ、欠席届を提出すること。 ②課題に対するフィードバックの方法：小テストを回収後、解答の解説を行う。 | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 | |
|------|---------|-------------------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 1回 | 授業内容 | 子どもの健康と保健①保健活動とは | ○小テスト① 6回目の冒頭20分間で実施する | |
| | 学習成果 | 保健活動の意義と目的を理解する。 | | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。 | | |
| 2回 | 授業内容 | 子どもの健康と保健②母子保健とは | | |
| | 学習成果 | 子どもの出生と母子保健の意義を理解する。 | | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。 | | |
| 3回 | 授業内容 | 子どもの健康と保健③子どもの健康の現状と課題とは | | |
| | 学習成果 | 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を理解する。 | | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。 | | |
| 4回 | 授業内容 | 子どもの発育・発達と保健①子どもの発育・発達とは | | |
| | 学習成果 | 子どもの身体発育と運動機能の発達を理解する。 | | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。 | | |
| 5回 | 授業内容 | 子どもの発育・発達と保健②子どもの生理機能、生活習慣とは | | |
| | 学習成果 | 子どもの生理機能の発達と生活習慣を理解する。 | | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。 | | |
| 6回 | 授業内容 | 子どもの健康と保健③子どもの健康の現状と課題とは | ○小テスト① 10回目の冒頭20分間で実施する | |
| | 学習成果 | 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を理解する。 | | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。 | | |
| 7回 | 授業内容 | 子どもの健康診断と関連機関との連携 | | |
| | 学習成果 | 子どもの健康診断と関連機関との連携を理解する。 | | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。 | | |
| 8回 | 授業内容 | 保護者との情報共有と家族の支援 | | |
| | 学習成果 | 保護者との情報共有と家族の支援方法を理解する。 | | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。 | | |
| 9回 | 授業内容 | 地域における保健活動と子どもの虐待防止 | | |
| | 学習成果 | 地域における保健活動と子どもの虐待防止を理解する | | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。 | | |
| 10回 | 授業内容 | 子どもの病気④新生児期の病気への対応とは | | ○小テスト① 15回目の冒頭20分間で実施する |
| | 学習成果 | 新生児の病気、新生児期にわかる先天性の病気の特徴と対応を理解する。 | | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。 | | |
| 11回 | 授業内容 | 子どもの病気⑥慢性疾患への対応とは | | |
| | 学習成果 | 慢性疾患の特徴と適切な対応を理解する。 | | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。 | | |
| 12回 | 授業内容 | 子どもの病気⑤アレルギー疾患への対応とは | | |
| | 学習成果 | アレルギー疾患の特徴と適切な対応を理解する。 | | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。 | | |
| 13回 | 授業内容 | 子どもの病気①②免疫と感染症、感染症への対策とは | | |
| | 学習成果 | 子どもの免疫の発達と感染症の特徴、感染症予防および適切な対応を理解する | | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。 | | |
| 14回 | 授業内容 | 子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握 | | |
| | 学習成果 | 子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握方法を理解する | | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。 | | |
| 15回 | 授業内容 | 子どもの病気③救急疾患への対応とは | | |
| | 学習成果 | 救急疾患の特徴と適切な対応を理解する | | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでから講義に臨む。終了後振り返り問題を解く。 | | |

| 科目名 | 子どもの食と栄養 | | | | 担当者 | 岩 田 教 子 | | | | | | |
|-------------------------------------|--|---|---|-----------------------------------|-----|---------|-------|----|----|----|-----|----|
| 区 分 | 必修 | 2 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業形態 | 演習 | 学年 | 1年 | 開講期 | 前期 |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | | 各授業の前後に教室で受け付ける。 | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 栄養に関する基本的知識を理解し、その内容を説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 子どもの発育・発達と食生活について関連づけることができる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 食育の重要性について理解し、実践につなげることができる。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | 食生活全般について改善する方法や対策を考える力を習得し、実践できる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 保育者に必要とされる子どもの食と栄養について理解し、子どもの食生活を支援するための基礎的な技能を身につける。(専門的学習成果①②③) | | | | | | | | | | |
| | (2) | 栄養の重要性について理解し、自分自身が各ライフステージにおいてよりよい食生活を営み、さらには子どもや保護者に対して適切な支援ができる。(専門的学習成果③④) | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 子どもの健やかなよりよい成長と生涯にわたる健康への第一歩となる食・栄養に関する基礎的な知識を習得し、食生活全般について改善する方法や対策を考える力を模索する。また、それぞれの時期に望ましい食生活のあり方について、実践例も踏まえながら理解を深め、子どもの発育・発達と栄養・食の関連性について学ぶ。さらには、食育の重要性について理解し、子どもの発育・発達に応じた食を営む力を身につけるための支援方法や他職種間の連携による食育の実践について理解する。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | 60 | 全15回分の授業内容の理解について、筆記試験を行い評価する。 | | | | | | | | |
| | | レポート | | | | | | | | | | |
| | | 課題作成 | 20 | 食育だよりの作成への取り組み・意欲・態度・提出状況により評価する。 | | | | | | | | |
| | 小テスト | 20 | 9回実施する。評価については、小テスト(1)、小テスト(2.3)、小テスト(3.4)、小テスト(4.5)、小テスト(6.7)、小テスト(8.9)で各回4%を配点する。 | | | | | | | | | |
| | 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果の評価は、上記のとおり、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1)は、専門的学習成果①・②・③にて評価を行う。 (2)は、専門的学習成果③・④にて評価を行う。 | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | |
| | 飯塚美和子 他 | | 『最新子どもの食と栄養』 | | | | 学建書院 | | | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | |
| | | | 『授乳・離乳の支援ガイド』 | | | | 厚生労働省 | | | | | |
| | 公益財団法人児童育成協会監修 | | 『子どもの食と栄養』 | | | | 中央法規 | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | | ①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと(予習:週2時間程度)。事後学習としては、单元ごとに小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりとすること(復習:週2時間程度)。 ②小テストのフィードバックは実施後に正解を示し、解説を行う。 | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|------|---------|---|--|
| 1回 | 授業内容 | 子どもの健康な生活と食生活の意義 | ○小テスト(1)2回目の後半で実施する。・子どもの発育・発達・乳幼児発育曲線 |
| | 学習成果 | 子どもの食生活の実態や特徴について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 子どもの食生活の実態や特徴について整理する。 | |
| | 授業内容 | 子どもの発育・発達の基本 | |
| 2回 | 学習成果 | 子どもの発育・発達の概要及び発育曲線を用いた発育の評価方法について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 子どもの発育・発達と評価方法について考察する。 | |
| 3回 | 授業内容 | 栄養に関する基礎的知識(1)炭水化物・脂質 | ○小テスト(2)・炭水化物・脂質 |
| | 学習成果 | 炭水化物と脂質について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 炭水化物と脂質の種類や機能について整理する。 | |
| 4回 | 授業内容 | 栄養に関する基礎的知識(2)たんぱく質・水 | ○小テスト(3)・たんぱく質・水 |
| | 学習成果 | たんぱく質と水について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | たんぱく質の種類と機能について、また水の機能について整理する。 | |
| 5回 | 授業内容 | 栄養に関する基礎的知識(3)ミネラル・ビタミン | ○小テスト(4)・ミネラル・ビタミン |
| | 学習成果 | ミネラルとビタミンについて理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | ミネラルとビタミンの種類や機能について整理する。 | |
| 6回 | 授業内容 | 胎児期(妊娠期)の食生活 | ○小テスト(5)・胎児期(妊娠期)の食生活 |
| | 学習成果 | 胎児期の発育と妊娠期の食生活の関連について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 妊娠期の栄養と食生活で注意すべき点について理解する。 | |
| 7回 | 授業内容 | 乳児期の授乳の意義と食生活(1)母乳栄養について | ○小テスト(6)8回目の後半で実施する ・母乳栄養について ・人工乳栄養及び混合栄養について |
| | 学習成果 | 母乳栄養の利点や成分、進め方及び支援方法について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 母乳栄養の特徴について理解し、保育者として必要な知識をまとめておく。 | |
| 8回 | 授業内容 | 乳児期の授乳の意義と食生活(2)人工乳栄養及び混合栄養について | |
| | 学習成果 | 育児用ミルクの種類や特徴について理解し、授乳方法及び支援方法について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 人工乳栄養及び混合栄養の特徴について理解し、保育者として必要な知識をまとめておく。 | |
| 9回 | 授業内容 | 乳児期の離乳の意義と食生活 | ○小テスト(7)・離乳の意義と食生活 |
| | 学習成果 | 離乳食の意義、進め方について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 離乳食の具体的な進め方を知り、説明出来るようにする。 | |
| 10回 | 授業内容 | 幼児期の心身の発達と食生活 | ○小テスト(8)・幼児期の食生活 |
| | 学習成果 | 幼児期の心身の発達と食生活を関連づけて理解し、具体的な支援方法について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 幼児期の食生活の実態や問題点について整理する。 | |
| 11回 | 授業内容 | 食物アレルギーのある子どものへの対応 | ○小テスト(9)・食物アレルギー |
| | 学習成果 | 食物アレルギーの種類や対応について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 食物アレルギーの種類について整理し、保育者として具体的な対応についてまとめておく。 | |
| 12回 | 授業内容 | 食育の基本と内容(1)概要 | ○課題作成 グループ毎にテーマに沿ってグループワークを行なう。 |
| | 学習成果 | 食育の内容と評価、食をとおした支援について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 食育の概要について理解する。 | |
| 13回 | 授業内容 | 食育の基本と内容(2)食育の実際① | |
| | 学習成果 | 食育についてグループワークを行い、課題を追求し考察することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | グループワークに向けて必要な準備を行う。 | |
| 14回 | 授業内容 | 食育の基本と内容(3)食育の実際② | |
| | 学習成果 | 食育について意見をまとめ、他者の意見も聞くことができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 食育について考察し、意見をまとめる。 | |
| 15回 | 授業内容 | 食育の基本と内容(4)これまでの授業の振り返りとまとめ | ○定期試験時に筆記試験を実施する。 これまでの学習内容についての学習理解を計る。 |
| | 学習成果 | 食育の内容について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | この授業の内容全体について整理・確認する。 | |

| 科目名 | 保育・教育課程論 | | | | 担当者 | 中島 恵 (実務家教員) ・ 宮本美和子 (実務家教員) | | | | | | |
|-------------------------------------|---|--|------------------------|---|-----|------------------------------|------|----|--------|----|-----|----|
| 区分 | 必修 | 2 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業形態 | 講義 | 学年 | 1年 | 開講期 | 後期 |
| 授業時間数 | 30 時間 | | | | | | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | オフィスアワー及び e-mail (nakajima.megumi@seiwa.ac.jp) に連絡する。オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。 | | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 幼稚園教育要領・保育所保育指針の性格及び位置づけを説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 教育・保育課程編成の目的や基本原理を理解し、保育目標に沿った指導計画の構想の仕方を身につけている。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂の変遷及び改訂内容を理解している。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | カリキュラムマネジメントの意義や重要性と評価の基礎的な考え方を理解している。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 全体的な計画の概要を学ぶことを通して、保育者としての専門的スキルを身につける。(専門的学習成果①②③) | | | | | | | | | | |
| | (2) | 子どもの興味や関心とそれを取り巻く環境を知り、支援の内容と方法に関する専門的な知識や技術を身につけ援助ができる。(専門的学習成果④) | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | <p>・教育課程・保育課程（全体の計画）についてその意義・変遷や編成方法を理解するとともに、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の変遷、意図、考え方を学ぶ。また、小学校やその後の教育を見通した学びの土台としての幼児期である、という捉え方でカリキュラムを考える。</p> <p>・保育園園長および幼稚園園長としての実務経験をもちに実際の保育・教育目標及び保育内容や全体の計画と保育記録との関係性の実態と照らし合わせながら授業を展開し、学生が自ら指導計画の立案ができることを目指す。</p> | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | 60 | 「学習成果の評価」に示す内容について、60パーセント以上の得点を合格点とする。 | | | | | | | | |
| | | レポート | 10 | 指導計画案の立案にむけての準備物やねらいと保育内容の整合性を評価する。 | | | | | | | | |
| | | 小テスト | 20 | 3回実施し、全体の20%を配点する。 | | | | | | | | |
| | 平常点 | 10 | 授業参加態度の意欲を評価する。 | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価より評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果④にて評価を行う。 | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | |
| | 佐藤哲也 編 | | 『子どもの心によりそう保育・教育課程論』 | | | | | | 福村出版 | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | |
| | 文部科学省 | | 『幼稚園教育要領解説』 | | | | | | フレーベル館 | | | |
| | 厚生労働省 | | 『保育所保育指針解説』 | | | | | | フレーベル館 | | | |
| | 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 | | | | | | フレーベル館 | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | <p>①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。特に、授業内容に関連する部分については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと（予習：週2時間程度）。事後学習としては、小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりとすること（復習：週2時間程度）</p> <p>②小テストは授業で返却し、解説を行う。レポート（指導計画案）についても、モデル案を示し、解説を行う。</p> | | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|------|---------|--|---------|
| 1回 | 授業内容 | 教育課程・保育課程の意義 | |
| | 学習成果 | 全体の計画（教育課程・保育課程）の意義を理解し、説明ができる。 | |
| 2回 | 予習復習の内容 | テキストを読み、全体の計画（教育課程・保育課程）について理解しておく。 | |
| | 授業内容 | 教育目標と教育課程・保育課程の編成 | |
| 3回 | 学習成果 | 教育目標と教育課程、保育課程のつながりについて説明ができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 教育目標と教育課程、保育課程のつながりについてテキストを読み理解しておく。 | |
| 4回 | 授業内容 | 指導計画の作成 長期の指導計画と短期の指導計画 | |
| | 学習成果 | 長期計画と短期計画の役割について説明ができる。 | |
| 5回 | 予習復習の内容 | 保育所保育指針の関連部分を読み、理解しておく。 | |
| | 授業内容 | 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容 | |
| 6回 | 学習成果 | テキスト第4章（教育要領と保育指針、教育・保育要領にみる保育の計画）について理解し、概要の説明ができる。 | |
| | 予習復習の内容 | テキストの関連部分やプリントの内容について整理しておく | |
| 7回 | 授業内容 | 幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂の変遷及び改訂内容 | |
| | 学習成果 | 3法令の歴史の変遷や相違点について説明ができる。 | |
| 8回 | 予習復習の内容 | プリントの内容について整理しておく。 | |
| | 授業内容 | 幼稚園の教育課程・指導計画の実際①（3歳児） | |
| 9回 | 学習成果 | 3歳児の教育課程・指導計画について概要を説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 3歳児の発達過程について調べておく。 | |
| 10回 | 授業内容 | 幼稚園の教育課程・指導計画の実際②（4歳児） | |
| | 学習成果 | 4歳児の教育課程・指導計画について概要を説明できる。 | |
| 11回 | 予習復習の内容 | 4歳児の発達過程について調べておく。 | |
| | 授業内容 | 幼稚園の教育課程・指導計画の実際③（5歳児） | |
| 12回 | 学習成果 | 5歳児の教育課程・指導計画について概要を説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 5歳児の発達過程について調べておく。 | |
| 13回 | 授業内容 | 保育所の保育課程・指導計画の実際（0・1・2歳児） 個別指導計画 | |
| | 学習成果 | 0・1・2歳児の発達過程について概要を説明できる。 | |
| 14回 | 予習復習の内容 | 0・1・2歳児の発達過程について調べておく。 | |
| | 授業内容 | 認定こども園における全体的な計画の実際及び異年齢保育、障がい児保育における指導計画 | |
| 15回 | 学習成果 | 異年齢児保育計画と障がい児保育指導計画の概要を説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | プリント内容（異年齢保育、障がい児保育）を整理しておく。 | |
| 16回 | 授業内容 | 指導計画作成のための基本 5領域との関連 | |
| | 学習成果 | 指導計画のねらいと内容についての関連を説明できる。 | |
| 17回 | 予習復習の内容 | 保育所保育指針や幼稚園教育要領の保育の内容について熟読しておく。 | |
| | 授業内容 | 保育の評価、自己評価及び第三者評価 | |
| 18回 | 学習成果 | 法令による評価、自己評価についての概要の説明ができる。 | |
| | 予習復習の内容 | テキスト12章（保育者および保育施設における自己評価）を読んで理解しておく。 | |
| 19回 | 授業内容 | 計画、実践、省察、評価、改善の過程の循環による保育の質の向上 | |
| | 学習成果 | PDCA サイクルについての説明ができる。 | |
| 20回 | 予習復習の内容 | テキスト第3章（PDCA サイクルによる質の向上）を読み理解しておく。 | |
| | 授業内容 | 職務分掌とカリキュラムマネジメント | |
| 21回 | 学習成果 | カリキュラムマネジメントについて理解し、概要の説明ができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 保育の計画の再編成について理解を深めておく。 | |
| 22回 | 授業内容 | 小学校との連携 | |
| | 学習成果 | 指導要録についての記入の意義、幼小連携の概要が説明できる。 | |
| 23回 | 予習復習の内容 | テキスト第14章を読み、理解しておく。 | |

| 科目名 | 保育内容指導法「健康」 | | | | 担当者 | 石 森 真由子 | | | | | | |
|-------------------------------------|---|--|------------------------------|--------------------------------|-----|---------|------|----|---------|----|-----|----|
| 区 分 | 選択 | 1 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業形態 | 演習 | 学年 | 1年 | 開講期 | 後期 |
| | | | | 授業時間数 | 30 | 時間 | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | | 授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。オフィスアワーは授業内で連絡する。 | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 領域「健康」のねらい及び内容を理解し、小学校への接続を視野に乳幼児に向けた指導法について考えることができる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上や改善に取り組むことができる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 乳幼児期の健康に関わる専門的知識および現代的課題や保育実践の動向について説明できる。(専門的学習成果①③) | | | | | | | | | | |
| | (2) | 領域「健康」に関わる保育指導を想定し、主体的に教養を深めながら、他者と協同して実践に活かそうとすることができる。(専門的学習成果②③) | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。現代的課題や保育の取り組みについて興味をもち、子ども理解や支援に結びつけることができるよう、保育者を目指す者としての協働を意識しながらグループワークに取り組む。乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | | | | | | | | | | |
| | | レポート | | | | | | | | | | |
| | | 小テスト | 60 | 筆記試験を2回実施し、評価を行う。 | | | | | | | | |
| | | 課題 | 20 | 課題、レポートの内容、提出、体裁、文脈、独創性で評価を行う。 | | | | | | | | |
| | 平常点 | 20 | 授業およびグループワークへの態度・関心・意欲を評価する。 | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により行う。 (1) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③で評価を行う。 | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | |
| | 井狩芳子 | | 『演習保育内容 健康』 | | | | | | 萌文書林 | | | |
| | 柴田卓・石森真由子 | | 『楽しく学ぶ運動遊びのすすめ』 | | | | | | 株式会社みらい | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | |
| | 文部科学省 | | 『幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説』 | | | | | | | | | |
| | 厚生労働省 | | 『保育所保育指針・保育所保育指針解説書』 | | | | | | | | | |
| 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 | | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | | ①この科目では時間外学習（15時間）として、＜事前学習＞幼稚園教育要領および保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の当該箇所を各自で読み理解を深めること。また、乳幼児の健康、生活習慣、食育、安全、運動に関連するニュースについて目を通しておくこと。＜事後学習＞小テストに向けた復習、講義内で提示される課題への取り組みをすること。 ②小テストに対するフィードバックは実施後に正解を示し、解説する。課題についてはグループ発表形式で実施され発表内容と合わせてフィードバックを実施する。 | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|------|---------|-------------------------------------|---------|
| 1回 | 授業内容 | 領域「健康」のねらい及び内容の理解 | |
| | 学習成果 | ねらい、内容、内容の取り扱いを踏まえ、幼児と健康の内容を振り返る。 | |
| 2回 | 予習復習の内容 | 教育要領、保育指針、保育・教育要領の健康に関する部分を読み込んでおく。 | |
| | 授業内容 | 基本的生活習慣の形成を支える援助 | |
| 3回 | 学習成果 | 乳幼児の生活習慣に関する現状と保育計画を知る。 | |
| | 予習復習の内容 | テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。 | |
| 4回 | 授業内容 | 健康管理と安全能力を育む援助 | |
| | 学習成果 | 乳幼児の安全に関する現状と保育計画を知る。 | |
| 5回 | 予習復習の内容 | テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。 | |
| | 授業内容 | 健康な心と体を育む保育の構想 計画立案1 | |
| 6回 | 学習成果 | テーマに沿った内容を調査し、保育指導を計画する。 | |
| | 予習復習の内容 | テーマに関する情報収集と指導案の立案 | |
| 7回 | 授業内容 | 健康な心と体を育む保育の構想 教材研究1 | |
| | 学習成果 | 保育指導計画に基づき、教材研究・準備をする。 | |
| 8回 | 予習復習の内容 | 指導案に基づいた教材研究 | |
| | 授業内容 | 健康な心と体を育む保育の実践 模擬保育1 | |
| 9回 | 学習成果 | 模擬保育を通して、専門的知識およびテーマの理解を深める。 | |
| | 予習復習の内容 | ロールプレイを通じた指導法の理解や反省をまとめる。 | |
| 10回 | 授業内容 | 健康な心と体を育む保育の評価と改善1 | |
| | 学習成果 | 乳幼児あるいは保護者、環境構成としての指導方法等について課題を見出す。 | |
| 11回 | 予習復習の内容 | 他者との連携、あるいは学び合いから自己課題を見出す。 | |
| | 授業内容 | 多様な動きの経験を促す援助 | |
| 12回 | 学習成果 | 乳幼児の動きや運動あそびに関する現状と保育計画を知る。 | |
| | 予習復習の内容 | テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。 | |
| 13回 | 授業内容 | 領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助 | |
| | 学習成果 | 乳幼児期を支える環境構成と保育実践方法を考える。 | |
| 14回 | 予習復習の内容 | テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。 | |
| | 授業内容 | 健康な心と体を育む保育の構想 計画立案2 | |
| 15回 | 学習成果 | テーマに沿った内容を調査し、保育指導を計画する。 | |
| | 予習復習の内容 | テーマに関する情報収集と指導案の立案 | |
| 16回 | 授業内容 | 健康な心と体を育む保育の構想 教材研究2 | |
| | 学習成果 | 保育指導計画に基づき、教材研究・準備をする。 | |
| 17回 | 予習復習の内容 | 指導案に基づいた教材研究 | |
| | 授業内容 | 健康な心と体を育む保育の実践 模擬保育2 | |
| 18回 | 学習成果 | 模擬保育を通して、専門的知識およびテーマの理解を深める。 | |
| | 予習復習の内容 | ロールプレイを通じた指導法の理解や反省をまとめる。 | |
| 19回 | 授業内容 | 健康な心と体を育む保育の評価と改善2 | |
| | 学習成果 | 乳幼児あるいは保護者、環境構成としての指導方法等について課題を見出す。 | |
| 20回 | 予習復習の内容 | 他者との連携、あるいは学び合いから自己課題を見出す。 | |
| | 授業内容 | 乳幼児期に育まれる健康な心と体と小学校へのつながり | |
| 21回 | 学習成果 | 乳幼児期の健康に関わる保幼小の連携の実際と課題について知る。 | |
| | 予習復習の内容 | テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。 | |
| 22回 | 授業内容 | 領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践 | |
| | 学習成果 | 乳幼児期の健康に関連する外部組織の現状や連携について知る。 | |
| 23回 | 予習復習の内容 | テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。 | |

| 科目名 | 保育内容指導法「人間関係」 | | | | 担当者 | 加藤和子（実務家教員） | | | | | | |
|-------------------------------------|--|---|---------------------------------|--|-----|-------------|------|----|----|------|-----|----|
| 区分 | 選択 | 1 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業形態 | 演習 | 学年 | 1年 | 開講期 | 後期 |
| | | | | 授業時間数 | 30 | 時間 | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | | オフィスアワーで受け付ける。オフィスアワーは初回授業で連絡する。 | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 領域「人間関係」のねらい及び内容と全体構造を説明することができる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、子どもが発達の過程で経験し身につけていく内容と指導上の留意点を説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 教材研究（情報機器及び教材の活用を含む）や環境の重要性を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけている。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | 模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、乳幼児の人との関わりの発達について保育者の果たす役割を自覚し子どもの理解や支援ができる。（専門的学習成果①②に関連） | | | | | | | | | | |
| | (2) | 領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、人と関わる力を育む専門的知識と基礎的な技能を習得し、実践につなげることができる。（専門的学習成果③④に関連） | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 人間は人との関わりなしには存在し得ない。本講義では、領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、子どもの人と関わる力を養うために必要な経験と資質能力を育む指導上の留意点を理解する。また、具体的な指導場面を想定して保育を構想し実践する方法を身につけ、模擬保育やロールプレイをもとに、保育を改善する視点を身につける。教員の精神保健福祉士としての精神保健センターでの実務経験をもとに具体的理解を深めることができるよう講義を展開する。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合（％） | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | 85 | 「学習成果の評価」に示す内容について、60%以上の得点を合格点とする。 | | | | | | | | |
| | | レポート | 10 | 授業内容の理解についてレポートを課し（3回各1%）、内容を評価する。模擬保育やロールプレイ実施後に記入する振り返りシートの内容を評価する（7回各1%）。 | | | | | | | | |
| | | 他 | 5 | 模擬保育、ロールプレイ、グループワークへの取り組みを評価する（5回各1%）。 | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価で評価する。 (1) は専門的学習成果①②で評価する。 (2) は専門的学習成果③④で評価する。 | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | | 出版社名 | | |
| | 無藤隆監修 | | 『領域 人間関係』 | | | | | | | 萌文書林 | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | | 出版社名 | | |
| | 文部科学省 | | 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | |
| | 厚生労働省 | | 『保育所保育指針』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | |
| | 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | |
| | | (解説書、関連図書含む) | | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | | ①日常生活の中で子どもを取り巻く環境や人間関係の育ちについて、また自分の人間関係について意識し、考えること。特に授業内容に関連する部分については、テキスト該当部分の読了に加え事前に関係する文献を読み、理解を深めておくこと（予習：週2時間程度）。 ②毎回授業終了後にミニツレポートの提出を促し、次の授業でフィードバックを行うことから、テキストをもとに授業時間外学習を行って授業に臨むこと（復習：週2時間程度）。 | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 | |
|------|---------|--|---------|--|
| 1回 | 授業内容 | 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「人間関係」 | | レポート 400字 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「人間関係」第3回授業終了後提出 |
| | 学習成果 | 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「人間関係」のねらいや内容について理解し、つながりと意味について説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解する。領域「人間関係」ねらい、内容について説明できるようにしておく。 | | |
| 2回 | 授業内容 | 幼児教育の構造を踏まえた領域「人間関係」の保育構想 | | 振り返りシートの記入 ワークへの参加態度 |
| | 学習成果 | 幼児教育の目的と領域を理解し、他領域の関連性を踏まえて領域「人間関係」の特質と保育構想について説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 幼児教育の目的と5領域の関連、領域「人間関係」の特質について説明できるようにしておく。 | | |
| 3回 | 授業内容 | 事例検討①人間関係を育む保育実践の留意点（保護者、保育者との関わり） | | 振り返りシートの記入 ワークへの参加態度 |
| | 学習成果 | 事例検討を通して、人と関わる力を育む保護者、保育者の役割について理解し、説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 愛着の形成について理解し、乳児期における保護者、保育者の役割について説明できるようにしておく。 | | |
| 4回 | 授業内容 | 事例検討②人間関係を育む保育実践の留意点（自我の形成と保育者の関わり） | | 振り返りシートの記入 ワークへの参加態度 |
| | 学習成果 | 子どもの自己主張を支える保育者の関わりと、自立に向けた役割について説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 自我の形成と自己主張について理解し、保育者の役割について説明できるようにしておく。 | | |
| 5回 | 授業内容 | ロールプレイ①人間関係を育む保育実践の留意点（仲間との関わり） | | 振り返りシートの記入 ワークへの参加態度 |
| | 学習成果 | ロールプレイを通していざごにおける保育者の関わりと役割について理解し、説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 発達におけるいざごの意味を理解し、保育者の役割について説明できるようにしておく。 | | |
| 6回 | 授業内容 | ロールプレイ②人間関係を育む保育実践の留意点（園の決まりやルール） | | 振り返りシートの記入 ワークへの参加態度 |
| | 学習成果 | 集団における葛藤を通して、道徳性・規範性を育む保育者の役割について説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 「道徳性・規範意識の芽生え」について説明できるようにしておく。 | | |
| 7回 | 授業内容 | 模擬保育実施に向けた保育構想と指導案の理解 | | レポート 400字 「保育構想と指導案作成、保育実践と評価について」 第10回授業終了後提出 |
| | 学習成果 | 保育内容をもとに発達を踏まえた保育を構想する重要性と、指導案の構成を理解し、説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 保育実践が指針・要領をもとにした保育構想、指導案作成、保育実践、検証で構成されていることを説明できるようにしておく。 | | |
| 8回 | 授業内容 | ポートフォリオや映像等を活用した評価方法の理解と指導上の留意点 | | 振り返りシートの記入 ワークへの参加態度 |
| | 学習成果 | ポートフォリオやビデオカンファレンスについて理解し、指導上の留意点を踏まえて評価に活用する方法について説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | ポートフォリオやビデオカンファレンスを評価に活用する方法について説明できるようにしておく。 | | |
| 9回 | 授業内容 | 模擬保育実施に向けた保育構想の計画（グループワーク）指導案の作成と情報機器の活用及び教材の研究 | | 振り返りシートの記入 ワークへの参加態度 |
| | 学習成果 | 保育を構想し、指導案の作成、情報機器の活用及び教材研究を実践することができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 劇遊び実践に向けて保育を構想し、指導案の作成、教材研究に取り組む。 | | |
| 10回 | 授業内容 | 模擬保育実践：友達と関わり集団で遊びを楽しむ | | 振り返りシートの記入 ワークへの参加態度 |
| | 学習成果 | 保育内容（人間関係）の観点からみた劇あそびの意義を理解し、模擬保育を指導案に沿って実践できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 保育内容（人間関係）の観点からみた劇あそびの意義を理解し、説明できるようにしておく。 | | |
| 11回 | 授業内容 | 模擬保育実践の振り返り①（情報機器及び教材の活用方法や環境構成に関する課題の検討） | | 振り返りシートの記入 |
| | 学習成果 | 構想した保育実践を振り返り、教材の活用方法や環境構成に関する課題を見出す。 | | |
| | 予習復習の内容 | 教材の活用方法や環境構成を理解し、課題を整理しておく。 | | |
| 12回 | 授業内容 | 模擬保育実践の振り返り②（保育構想の再構築と指導案の作成） | | レポート400字 「指導案の構成と指導上の留意点について」 第14回授業終了後提出 |
| | 学習成果 | 保育実践の振り返りを通して、人間関係を育む保育構想を再検討し指導案を作成できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 保育実践の振り返りをもとに構想を再検討し、指導案を作成できるようにしておく。 | | |
| 13回 | 授業内容 | 領域「人間関係」の特性をふまえた教材や情報機器の効果的な活用法 | | 振り返りシートの記入 ワークへの参加態度 |
| | 学習成果 | 領域「人間関係」の特性を理解し、保育実践における効果的な教材や情報機器の活用につなげることができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 領域「人間関係」の特性を理解する。効果的な教材や情報機器を知り、活用につなげることができるようにする。 | | |
| 14回 | 授業内容 | 事例検討：特別な支援が必要な子どもへの保育実践 | | 振り返りシートの記入 ワークへの参加態度 |
| | 学習成果 | 人との関わりが難しい子どもの事例を通して、生活や遊びにおける具体的な指導場面を想定し、実践につなげることができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 発達や学びの過程を理解する。具体的な指導場面を想定し実践で活用できるようにしておく。 | | |
| 15回 | 授業内容 | 領域「人間関係」の現代的課題と小学校教育への接続 | | 定期試験：筆記試験 15回の内容理解を評価する。配布資料をもとに内容を整理し、理解しておくこと。 |
| | 学習成果 | 現代社会の特徴と子どもの人間関係、保護者のストレスを理解し、幼保小接続の重要性を説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 人間関係の発達における現代社会の課題を理解する。幼保小接続の重要性を説明できるようにしておく。 | | |

| 科目名 | 保育内容指導法「環境」 | | | | 担当者 | 小 野 真喜子 (実務家教員) | | | | | | |
|-------------------------------------|---|---|----------------------|---------------|-----|-----------------|---------|-----|-----|---------|-------|-----|
| 区 分 | 選 択 | 1 | 単 位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授 業 形 態 | 演 習 | 学 年 | 1 年 | 開 講 期 | 後 期 |
| | | | | 授業時間数 | 30 | 時 間 | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | | オフィスアワー及び e-mail:ono.makiko@seiwa.ac.jp オフィスアワーは初回の授業時に連絡する | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 子どもの生活における領域「環境」について理解する。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 保育実施に向けての保育構想と指導案についてグループで作成することが出来る。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 指導案に基づいた模擬保育の実施により指導計画の課題にグループでの討議を行い気づくことが出来る。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | 指導計画の課題に基づき、新たな実践へ向けての指導計画案を作成することが出来る。 | | | | | | | | | | |
| | ⑤ | グループでの指導計画作成を基に、一人一人が指導案の作成を行うことが出来る。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 保育者にとって必要な保育内容「環境」を理解し、保育活動における環境のあり方を理解する。(専門的学習成果①に関連) | | | | | | | | | | |
| | (2) | グループワークにより保育指導計画の作成、実践、振り返り等の討議を行うことが出来る。(専門的学習成果④に関連) | | | | | | | | | | |
| | (3) | 保育計画の実践、討議の中で課題を見つけ、新たな指導計画案を作成することが出来る。(専門的学習成果⑤⑥に関連) | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 子どもの発達における環境の意義や役割について、また園生活を通して子ども達が豊かな自然体験や様々な実体験を積み重ねていけるようにするためには、園内外の環境をどう構成し、どのように出会えるようにしていけばよいか学ぶ。その為には人的環境として教師・保育者の役割はどうあるべきか環境教育の指導法について考える。領域「環境」のねらい及び内容について他領域と関連させながら子どもの発達や学びの過程を理解する。実務経験を活かし、保育現場における具体的な指導場面を想定した模擬授業を行い、関わり方や指導法を身につける。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | | | | | | | | | | |
| | | レポート | 20 | ファイルと気づきのノート① | | | | | | | | |
| | | レポート | 30 | ファイルと気づきのノート② | | | | | | | | |
| | レポート | 50 | 環境構成を踏まえた指導計画案の提出 | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果④で評価を行う。 (3) 専門的学習成果⑤⑥で評価を行う。 | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | | 出版社名 | | |
| | 柴崎正行・若月芳浩 編 | | 『保育内容「環境」』 | | | | | | | ミネルヴァ書房 | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | | 出版社名 | | |
| | 厚生労働省 | | 『保育所保育指針』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | |
| | 厚生労働省 | | 『保育所保育指針解説』 | | | | | | | | | |
| | 文部科学省 | | 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | |
| | 文部科学省 | | 『幼稚園教育要領解説』 | | | | | | | | | |
| 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | | ①テキスト、配布する参考資料、視覚教材、自然教材を活用し授業を進める。時間外学習として15時間程度を要する。事前学習としてテキストを読み予習しておくこと。事後学習としては授業後に毎回学びのまとめとファイル整理を行うこと。授業の3回目と10回目、最終回に提出すること。その内容を評価の対象とするのでしっかりとノート整理をしておくこと。最終は個人で指導案を作成し提出し評価の対象とする。その他、自然教材を用いた実体験も、時間外学習として取り組む。活動については、都度、適宜指示する。 ②ノート整理、指導案作成に対するフィードバックは提出後に模範となる例を提示し解説を行う。 | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|---------|--|--|---|
| 1回 | 授業内容 | 子どもの生活における領域「環境」の理解 本授業について理解する | ○3回目の授業の終わりにファイルノートを提出 授業の内容について理解したこと、自身での気づきをまとめたファイルノートを提出する。授業の内容を自身でまとめておく。 ○10回目の授業の最後に指導計画を提出 授業の進捗に合わせて指導案を作成し、完成させたものを提出する。 ○15回目の授業の終わりにファイルノートを提出 授業の内容について理解したこと、自身での気づきをまとめたファイルノートを提出する。授業の内容を自身でまとめておく。 |
| | 学習成果 | 子どもの生活における領域「環境」について理解する。 | |
| 予習復習の内容 | 教科書の前文に目を通して授業に臨む。授業で理解したことをノートに整理する。 | | |
| 2回 | 授業内容 | 子どもの発達と領域「環境」①3歳未満児保育 | |
| | 学習成果 | 3歳未満児における発達と領域「環境」について理解する。 | |
| 予習復習の内容 | 授業で理解したこと、プリント等をノートに整理しておく。 | | |
| 3回 | 授業内容 | 子どもの発達と領域「環境」②3歳以上児保育 | |
| | 学習成果 | 3歳以上児における発達と領域「環境」について理解する。 | |
| 予習復習の内容 | 指導案とは何か教科書を前もって読んで臨む。指導案について理解したことを記入する。 | | |
| 4回 | 授業内容 | 自然事象との関わり・生命尊重の保育実践 | |
| | 学習成果 | 野菜を育てる中で、自然事象との関わり、生命尊重について理解する。 | |
| 予習復習の内容 | 授業を振り返り、実際に指導案へ記入してみる。 | | |
| 5回 | 授業内容 | 社会生活との関わり、思考力の芽生えに関わる保育実践 | |
| | 学習成果 | 社会生活における環境の在り方に気づき、思考力の芽生えとの関係について理解する。 | |
| 予習復習の内容 | 授業を振り返り自身の指導計画を再構築してみる。 | | |
| 6回 | 授業内容 | 数量・図形、文字等への関心・感覚を育む保育実践（情報機器及び教材の効果的活用） | |
| | 学習成果 | 子どもたちの数量・図形・文字等への関心・感覚を育むとどのようなことか理解する。 | |
| 予習復習の内容 | 授業で作成した指導計画を読み直し、実践に向けての準備を行う。 | | |
| 7回 | 授業内容 | 伝統的な遊びと物や遊具の使い方について | |
| | 学習成果 | 地域や家族に伝わる遊びの遊び方や遊具の使い方を理解する。 | |
| 予習復習の内容 | 伝承遊びについて調べたり、実際に遊んでみることでさらに理解を深める。 | | |
| 8回 | 授業内容 | 保育環境と環境構成の観点（情報機器の活用） | |
| | 学習成果 | 保育環境と環境構成について理解する。 | |
| 予習復習の内容 | 保育環境の構成に興味関心を持つと共に、環境構成の在り方を考える。 | | |
| 9回 | 授業内容 | 幼稚園における領域「環境」と保育展開（情報機器による施設環境の分析） | |
| | 学習成果 | 幼稚園における領域「環境」と保育展開の関係性について理解する。 | |
| 予習復習の内容 | 幼稚園における「環境構成」に目を向けて考え、保育展開と結びつけて考えることが出来る。 | | |
| 10回 | 授業内容 | 長期指導計画および短期指導計画の作成と環境構成について | |
| | 学習成果 | 長期指導計画および短期指導計画の作成と環境構成について理解する。 | |
| 予習復習の内容 | 授業で行ったグループでの振り返りの内容をノートにまとめておく。 | | |
| 11回 | 授業内容 | 発達年齢に応じた保育指導計画の構想 | |
| | 学習成果 | 発達年齢を理解し、保育指導計画の構想を理解する。 | |
| 予習復習の内容 | 授業で行った内容について振り返りノートにまとめる。 | | |
| 12回 | 授業内容 | 模擬保育実施に向けた保育指導案作成と情報機器の活用を含む教材研究（グループワーク） | |
| | 学習成果 | 模擬保育実施に向けた保育指導案作成と情報機器の活用を含む教材研究（グループワーク）について理解する。 | |
| 予習復習の内容 | 模擬保育に向けた保育指導案（グループワーク）を各個人で読み返す。 | | |
| 13回 | 授業内容 | 模擬保育実践と振り返り（保育計画の方法と評価）（グループワーク） | |
| | 学習成果 | グループで模擬保育実践を振り返り保育計画の方法と評価について理解する。 | |
| 予習復習の内容 | 授業で理解したことをノートにまとめて整理しておく。 | | |
| 14回 | 授業内容 | 模擬保育実践の振り返り（保育計画の評価と課題）（グループワーク） | |
| | 学習成果 | 模擬保育で行った保育指導計画を振り返り、課題を見つけることが出来る。 | |
| 予習復習の内容 | グループワークで行った内容を振り返り、気づき、課題を」をノートに整理しておく。 | | |
| 15回 | 授業内容 | 領域「環境」に関わる現代的課題 小学校教育に向けて | |
| | 学習成果 | 領域「環境」を踏まえた保育環境の構成と小学校へのつながりについて理解する。 | |
| 予習復習の内容 | 授業の内容を踏まえて保育環境の構成と小学校とのつながりについてまとめる。 | | |

| 科目名 | 保育内容指導法「言葉」 | | | | 担当者 | ヤマモト マコト (実務家教員) | | | | | | | |
|-------------------------------------|---|---|-----------------------------|--|-----|------------------|--|------|------|----|----|-----|----|
| 区分 | 選択 | 1 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | | 授業形態 | 演習 | 学年 | 1年 | 開講期 | 後期 |
| | | | | 授業時間数 | 30 | 時間 | | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | | 研究室への訪問、または email:yamamoto.makoto@seiwa.ac.jp への連絡(学籍番号・氏名記載必須)とする。 | | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 領域「言葉」のねらいと内容を他の領域と関連づけながら説明することができる。 | | | | | | | | | | | |
| | ② | 言葉とコミュニケーションおよび思考の発達過程と乳幼児期に必要な経験について理解し、保育構想に活用することができる。 | | | | | | | | | | | |
| | ③ | 生活や遊びを通じた乳幼児の育ちを援助するための技能および教材の活用方法について学び、他者と協働しながら実践的な指導案を作成できる。 | | | | | | | | | | | |
| | ④ | 保育の評価方法と改善(カリキュラムマネジメント)について理解した上で、保育の計画や指導案を作成できる。 | | | | | | | | | | | |
| | ⑤ | 領域「言葉」に関する現代的課題や保育実践の動向を踏まえ、保育の質の向上に必要な保育者の専門性について説明することができる。 | | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 領域の指導に関する専門的知識・技能を修得し、生活や遊びの中で、様々な教材や、豊かな感性や想像力・表現力をもって、乳幼児の育ちを支えるための実践について考え、表現することができる。(専門的学習成果①②③④) | | | | | | | | | | | |
| | (2) | 現代社会における子どもを取り巻く状況について理解し、地域社会の中で子どもに必要な経験について、他者と協働しながら議論し、主体的・積極的に学びを探索することができる。(専門的学習成果②④⑤) | | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 乳幼児の言葉に対する感性と話す・聞く・伝える・考える力を育成する意義について理解する。また、保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」の「ねらい」・「内容」・「内容の取り扱い」について、その背景となる発達の理解と現代的課題とともに学ぶ。さらに、領域「言葉」の指導方法と援助のあり方、カリキュラムマネジメントについて実践的に学び、領域の指導法について理解を深める。 | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | | | | | | | | | | | |
| | | 小テスト | 20 | 小テスト(4回):正答率に応じて評価を行う(各5点) | | | | | | | | | |
| | | グループワーク | 15 | グループワーク(3回):テーマに基づいた発言や議論への参加姿勢の評価を行う(各5点) | | | | | | | | | |
| | | ワークシート | 15 | ワークシート(3回):授業内容を踏まえ、テーマに沿ったワークシートの評価を行う(各5点) | | | | | | | | | |
| | | 模擬授業 | 10 | 模擬授業(1回):テーマに基づいた発表内容(5点)およびプレゼンテーション(5点)の評価を行う。 | | | | | | | | | |
| 確認試験 | 40 | これまでの学習内容に基づき、学習習熟度に関してのテストを実施し、評価を行う。 | | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1)は、専門的学習成果①・②・③・④にて評価を行う。 (2)は、専門的学習成果②・④・⑤にて評価を行う。 | | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | | |
| | 秋田喜代美・野口隆子 編著 | | 『保育内容 言葉』 | | | | | | 光生館 | | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | | |
| | 文部科学省 | | 『幼稚園教育要領』(解説書含む) | | | | | | | | | | |
| | 厚生労働省 | | 『保育所保育指針』(解説書含む) | | | | | | | | | | |
| | 内閣府・文部科学省・ 厚生労働省 | | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(解説書含む) | | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | | ①授業は、テキスト・参考資料・配付資料を中心に進める。また、授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。 ＜事前学習(週30分程度)＞:テキスト・参考資料を読み、専門用語の理解をはじめ、各回の学習内容について予習を行うこと。また、自身の実習等の経験や学習内容と関連付けながら深く考える機会を多く持つこと。 ＜事後学習(週30分程度)＞:毎回の授業の内容について復習を行い、理解を深めること。また、新聞・ニュース等で得られた情報と学習内容を結びつけながら、自分の考えを言葉や文字で表現できるようにし、レポートの作成等につなげること。 ②フィードバックの方法については、以下の通りとする。 ＜レポート＞提出後2週間以内を目安に、評価のポイントを含めたコメントとともに返却する。レポート作成の際には、引用・参考文献は必ず記述するものとする。また、提出されたレポートに関して、必要に応じて、内容の理解についての確認を個別に行う場合もあるため、自分の言葉で確実に理解した上で記述すること。 ＜小テスト＞テストの実施後に解答・解説を行う。 ＜グループワーク・模擬授業＞グループワークへの参加姿勢や模擬授業の発表内容について、次回の授業において評価のポイントを含め、フィードバックを行う。 ＜ワークシート＞提出後2週間以内を目安に、評価のポイントを含めたコメントとともに返却する。 | | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 | |
|------|---------|--|---------|---|
| 1回 | 授業内容 | 乳幼児の言葉の発達と領域「言葉」、他の領域との関連 | | <ワークシート> 1,2回の授業内容を踏まえ、第2回の授業終了時に提出 <小テスト> 3回目、4回目の授業にて実施 ○1歳以上3歳未満児の「ねらい」と「内容」 ○3歳以上児の「ねらい」と「内容」 |
| | 学習成果 | 「領域」という考え方を理解し、乳幼児言葉の発達と5領域との関連について説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 領域「言葉」のねらいおよび内容について理解しておくこと。5領域と乳幼児の言葉の発達との関連についてまとめておくこと。 | | |
| 2回 | 授業内容 | 領域「言葉」のねらい・内容・内容の取り扱いおよび小学校教育との学びの連続性 | | <グループワーク> ・乳児期から児童期の言葉の発達過程についてワークシートにまとめ、4回目の授業終了時に提出 ・5回目の授業で、グループワークの内容について共有 <小テスト> 6回目、7回目の授業にて実施 ○乳児期の言葉の発達 ○幼児期から児童期の言葉の発達 |
| | 学習成果 | 領域「言葉」のねらい・内容・内容の取り扱いについて理解し、乳幼児期の経験や学びが小学校教育へどのようにつながっていくかについて説明することができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 領域「言葉」のねらい・内容・内容の取り扱いについてまとめ、保育現場および小学校教育との具体的なつながりについて説明できるようにしておくこと。 | | |
| 3回 | 授業内容 | 乳児期の言葉の発達 | | <ワークシート> ・乳児期から児童期の言葉の発達過程についてワークシートにまとめ、4回目の授業終了時に提出 ・5回目の授業で、グループワークの内容について共有 <小テスト> 6回目、7回目の授業にて実施 ○乳児期の言葉の発達 ○幼児期から児童期の言葉の発達 |
| | 学習成果 | 乳児期の言葉の発達に必要な物的・人的環境について具体的な事例を用いて説明することができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 非言語的コミュニケーションも含め、乳児期の言葉の発達について理解しておくこと。指差しの持つ意味について理解し、二項関係から三項関係への移行と言葉の発達について説明できるようにしておくこと。 | | |
| 4回 | 授業内容 | 幼児期の言葉の発達 | | <ワークシート> 「遊びと生活の中の言葉」についてまとめ、7回目の授業終了後に提出。 |
| | 学習成果 | 幼児期の言葉の発達に必要な物的・人的環境について具体的な事例を用いて説明することができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 仲間関係の中での言葉の育ちや、思考の道具としての言葉の機能について理解しておくこと。 | | |
| 5回 | 授業内容 | 幼児期から児童期の言葉 | | <ワークシート> 「遊びと生活の中の言葉」についてまとめ、7回目の授業終了後に提出。 |
| | 学習成果 | 児童期の言葉の発達に必要な物的・人的環境について、また、保・幼・こ・小の接続や、言葉に関する家庭との連携について説明することができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 入園児、進級時、就学時等の接続期における言葉の役割や、言葉の発達を促す環境について理解しておくこと。 | | |
| 6回 | 授業内容 | 保育者の専門性と言葉・保育環境と言葉 | | <ワークシート> 「遊びと生活の中の言葉」についてまとめ、7回目の授業終了後に提出。 |
| | 学習成果 | 子どもの言葉の発達を支える保育者を含めた環境の役割について、専門的な視点から説明することができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 言葉の発達を支える保育者の専門性や環境構成について、具体的な事例を挙げながら自らの言葉で説明できるよう理解を深めておくこと | | |
| 7回 | 授業内容 | 遊びと生活のなかの言葉 | | <ワークシート> 「遊びと生活の中の言葉」についてまとめ、7回目の授業終了後に提出。 |
| | 学習成果 | 保育の様々な場面における言葉が、身体的・情緒的に子どもの中に刻み込まれていくものであることを理解した上で、乳幼児の言葉の獲得や発達について説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 保育の様々な場面で子どもたちが使っている言葉について、自身の経験や実習を振り返りまとめておくこと。 | | |
| 8回 | 授業内容 | 指導案・指導法の理解 | | <グループワーク> テーマ:一日の保育の中での領域「言葉」 配付した指導案をもとに、領域「言葉」の指導法についてグループワーク(ICTを用いた情報共有を含む)を通して深めていく。 |
| | 学習成果 | 一日の保育の中に含まれている領域「言葉」に関するねらい・内容・内容の取扱いについて、具体的な場面を示しながら説明することができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 配付した指導案の中で、領域「言葉」に関連する箇所を抜き出し、保育所保育所保育指針と照らし合わせて理解しておくこと。 | | |
| 9回 | 授業内容 | 保育計画と評価(カリキュラムマネジメント)(情報機器の操作を含む) | | <グループワーク> 模擬授業に向けた、活動計画の立案と指導案の作成。 模擬授業(グループワークを通じた指導案の発表) 指導案の内容と、発表の内容を総合して評価を行う。 |
| | 学習成果 | 保育におけるカリキュラムマネジメントについて、自らの言葉で説明することができる。計画と評価における情報機器の有用性について説明することができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | カリキュラムマネジメントについて調べ、理解しておくこと。保育現場におけるカリキュラムマネジメントの具体的な流れについて、実践を想定しながら説明できるようにすること。 | | |
| 10回 | 授業内容 | 乳幼児の言葉を育む保育:教材研究 | | <グループワーク> 模擬授業に向けた、活動計画の立案と指導案の作成。 模擬授業(グループワークを通じた指導案の発表) 指導案の内容と、発表の内容を総合して評価を行う。 |
| | 学習成果 | 子どもの興味・関心をもとに、子どもが主体的に活動に取り組むための教材や環境構成について他者と協働しながら計画することができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 絵本等の児童文化財や遊びについて理解し、様々な教材や活動における、乳幼児の言葉の育ちについて理解しておくこと。 | | |
| 11回 | 授業内容 | 乳幼児の言葉を育む保育の計画:指導案作成 | | <ワークシート> ○個別の指導・支援計画について ○保育の記録の必要性 ワークシートは14回の授業終了後時に提出。 |
| | 学習成果 | 子どもの興味・関心をさらに広げ、深めるための活動や環境構成について理解し、具体的な活動としての指導案・活動計画案を作成することができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 指導案の基本的な構成について確認し、様々な活動や場面が、乳幼児の言葉の育ちとどのように関連しているのかについて理解を深めておくこと。 | | |
| 12回 | 授業内容 | 乳幼児の言葉を育む保育の実践:模擬授業 | | <ワークシート> ○個別の指導・支援計画について ○保育の記録の必要性 ワークシートは14回の授業終了後時に提出。 |
| | 学習成果 | 作成した指導案について、実践を想定し、他者と協働しながら説明すること阿gできる。模擬授業(発表・他グループとの情報共有)を通して、自ら作成した指導案の改善点を挙げるができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | グループで作成した指導案の詳細について、実践を想定しながら理解を深めておくこと。発表を通して伝えられたこと、伝わりにくかったことをまとめ、指導案を改善すること。 | | |
| 13回 | 授業内容 | 言葉の問題と援助 | | <ワークシート> ○個別の指導・支援計画について ○保育の記録の必要性 ワークシートは14回の授業終了後時に提出。 |
| | 学習成果 | 領域「言葉」についての特別な配慮や支援について理解し、個別の指導計画の必要性について説明することができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 生活環境や(障害を含む)特性の違いにより生じる、領域「言葉」に関連した支援について理解し、具体的な事例をふまえて説明できるようにしておくこと。 | | |
| 14回 | 授業内容 | 保育の記録と改善 | | <ワークシート> ○個別の指導・支援計画について ○保育の記録の必要性 ワークシートは14回の授業終了後時に提出。 |
| | 学習成果 | 保育における記録の意義や、記録の方法について理解し、実際の子どもの姿(映像)を観て記録を取ることができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 保育において記録をする意義、記録をする上での留意事項について理解しておくこと。自分で取った記録や他者が取った記録を読み、適宜修正を行いながら、記録に必要な技術について理解を深めておくこと。 | | |
| 15回 | 授業内容 | 保育・教育の現代的課題と領域「言葉」、振り返りとまとめ | | 確認試験 これまでの学習内容についての理解を計る ○1～15回の授業内容 |
| | 学習成果 | 現代社会における保育・教育の課題を理解し、保育者として「言葉」の発達をどのように支えていくか、自分の考えも踏まえて説明することができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 子どもを取り巻く現代社会の状況について、新聞等から情報を得ておくこと。本講義のまとめとして、学習内容の振り返りを行い、自らの学習成果に対して具体的な評価を実施すること。 | | |

| 科目名 | 保育内容指導法「表現（音楽）」 | | | | 担当者 | 佐藤万利子・岩淵撰子 | | | | | | |
|-------------------------------------|---|--|---------------------------------|---------------------------------|-----|------------|------|----|-------|----|-----|----|
| 区分 | 選択 | 1 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業形態 | 演習 | 学年 | 1年 | 開講期 | 後期 |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。e-mell:sato.mariko@seiwai.ac.jp , iwabuchi.setsuko@seiwai.ac.jp | | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 子どもの発達と音楽的表現の発達を理解し、説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 生活や遊びの中での子どもの音楽的表現を理解し指導することができる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 『幼稚園教育要領』領域「表現」のねらいと内容と『保育所保育指針』子どもの発達と保育の内容を理解して、指導や支援ができる。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | 子どもの発達に合わせた音楽的表現遊びの具体的な指導計画作成と実践ができる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 領域「表現」と保育者としての表現活動を理解し説明できる。（専門的学習成果①に関連） | | | | | | | | | | |
| | (2) | 領域「表現」の幼児が経験し身に付ける内容を理解し、指導を考えることができる。（専門的学習成果②③に関連） | | | | | | | | | | |
| | (3) | 表現活動の指導法を理解し、具体的な保育を想定した指導案作成ができる。（専門的学習成果③④に関連） | | | | | | | | | | |
| | (4) | 振り返りの方法や、課題抽出、指導計画の再構築の方法を理解して実践できる。（専門的学習成果④に関連） | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 領域「表現」のねらい及び内容について他領域と関連させながら子どもの発達や学びの過程を理解する。具体的な指導場面を想定した模擬保育を行い、関わり方や指導法を身に付ける。幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を学び、幼児の自発的な活動である遊びや生活の中で、感性を働かせたり、気付き、経験が表現活動を通して育まれることを理解する。模擬保育実践を映像機器を使用して振り返り、課題を抽出する。情報機器を用いて保育指導計画案を作成し、柔軟な指導ができるようにする。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合（%） | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | | | | | | | | | | |
| | | レポート | 40 | 表現活動と指導法を理解し、テーマに沿ったレポートの評価を行う。 | | | | | | | | |
| | | 発表 | 30 | 保育指導案作成を基に行う模擬保育を評価する。 | | | | | | | | |
| | 小テスト | 30 | 「学習成果」に示す内容について、60%以上の得点を合格とする。 | | | | | | | | | |
| | 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は専門的学習効果③④で評価を行う。 (4) は専門的学習効果④で評価を行う。 | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | |
| | 高御堂愛子 他編著 | | 『楽しい音楽表現』 | | | | | | 圭文社 | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | |
| | 文部科学省 | | 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | |
| | 厚生労働省 | | 『保育所保育指針』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | |
| | 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | |
| | 幼児表現教育研究会 編著 | | 『幼児のための表現指導－うたって、つくって、あそぼう』 | | | | | | 音楽之友社 | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | | ①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習してくる。（予習：週2時間程度）事後学習としては、小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので、復習をしっかりとすること。（復習：週2時間程度） ②小テスト及びレポートに対するフィードバックは実施後に、正解を示し解説を行う。 ③発表をビデオを用いて全体活動の振り返りを行い、フィードバックは映像確認後に講評を行う。 | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|------|---------|--|---------|
| 1回 | 授業内容 | 表現のねらい及び内容。（幼児の表現活動の分析（映像教材）にて） | |
| | 学習成果 | 幼児教育において育みたい資質・能力を幼児の生活する姿から捉えることができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」の領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 | |
| 2回 | 授業内容 | 領域「表現」の他領域との関わり、領域「表現」を踏まえた保育構想 | |
| | 学習成果 | 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を5領域の内容を踏まえて理解することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」の5領域のねらい及び内容を理解する。 | |
| 3回 | 授業内容 | 子どもの生活における領域「表現」 | |
| | 学習成果 | 子どもの音楽表現活動において発達の過程を理解することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 「保育所保育指針」年齢ごとの領域「表現」の内容と取り扱いを理解する。 | |
| 4回 | 授業内容 | 模擬保育に向けた保育構想と指導案の理解。 | |
| | 学習成果 | 子どもの音楽表現活動を考え、保育構想を指導案に作成できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 「幼稚園教育要領」の領域「表現」のねらいと内容の理解を深めておく。 | |
| 5回 | 授業内容 | 映像（現場での実際の表現活動）を用いて模擬保育実施に向けた事前学習の提示。 | |
| | 学習成果 | 音楽表現活動を事例に沿って理解し、保育構想を指導案に作成できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 保育現場における表現活動の理解を深めておく。 | |
| 6回 | 授業内容 | 指導案作成に向けた保育構想の計画および教材研究。（グループワーク） | |
| | 学習成果 | 子どもの発達などの実態を知り、音楽表現活動を楽しみに繋げる保育構想を計画できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 子どもの日々の生活や遊びを環境を通して考察する。 | |
| 7回 | 授業内容 | 指導案作成に情報機器を用いた保育構想の計画および教材研究。（グループワーク） | |
| | 学習成果 | 考察した保育構想を情報機器を用いて指導案を作成することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 考察した保育構想を指導案にまとめておく。 | |
| 8回 | 授業内容 | 指導案作成における5領域の理解。（グループワーク） | |
| | 学習成果 | 作成した指導案の音楽表現活動の5領域との関わりが理解できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」の5領域のねらい及び内容を理解を深めておく。 | |
| 9回 | 授業内容 | 『模擬保育』表現活動を通じた実践。（グループワーク） | |
| | 学習成果 | 作成した指導案で『模擬保育』を通して音楽表現活動を理解できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 指導案を読み込み教材を準備しておく。 | |
| 10回 | 授業内容 | 模擬保育実践の振り返り①（ビデオを用いた全体活動の確認） | |
| | 学習成果 | 模擬保育実践をビデオで振り返り、反省と課題を挙げることができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 模擬保育実践と指導案を照らし合わせて確認をする。 | |
| 11回 | 授業内容 | 模擬保育実践の振り返り②（ビデオを用いた全体活動の確認） | |
| | 学習成果 | ビデオで振り返った模擬保育実践の課題を修正することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 模擬保育実践を基に教材研究や保育構想の計画を再確認する。 | |
| 12回 | 授業内容 | 模擬保育実践の振り返り③（情報機器を用いた保育計画の再構築）グループワーク | |
| | 学習成果 | 模擬保育実践の課題を修正した指導案を作成できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 模擬保育実践を基に保育構想の課題を考察する。 | |
| 13回 | 授業内容 | 模擬保育実践の振り返り④（保育計画の課題の検討）全体討議。 | |
| | 学習成果 | 模擬保育実践を振り返り、音楽表現活動の具体的な事例を提案し実践できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 子どもの遊びや生活の中の姿から音楽表現活動を考察する。 | |
| 14回 | 授業内容 | 保育計画の方法と振り返りの理解、および再構築の方法に関する理解。 | |
| | 学習成果 | 保育実践を通じた課題を表出し、調和のとれた組織的、発展的な指導計画を作成できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 子どもの発達を促すために活動の見通しを描く保育計画を考える。 | |
| 15回 | 授業内容 | 領域「表現」のまとめ。小学校へのつながりに関する理解。 | |
| | 学習成果 | 「知的技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」を遊びを通しての総合的指導ができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 幼児教育において育みたい資質・能力について理解する。 | |

| 科目名 | 保育内容指導法「表現（造形）」 | | | | 担当者 | ササキ タカヒロ 佐々木 貴 弘 | | | | | | |
|-------------------------------------|---|---|-------------------------------------|---|-----|---------------------|------|----|----|----|-----|----|
| 区分 | 選択 | 1 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業形態 | 演習 | 学年 | 1年 | 開講期 | 後期 |
| | | | | 授業時間数 | 30 | 時間 | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | sasaki.takahiro@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で通知。授業内容等に関する質問等は毎時、授業の前後に教室内で対応する。 | | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 領域「表現」の意義と、保育者としての表現活動への指導法や関わり方を理解する。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 表現活動を中心活動とした、教材研究、指導案作成、活動内容や場の設定ができる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 表現活動における学び、気づきを促す保育者の役割、指導援助を考える事ができる。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | 振り返りを通して、保育実践、地域実践への展開法、評価、発達理解について考えることができる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 保育現場における必要な基礎的知識・技能を身に付けた上で、教材研究を通して指導法について考察する。(専門的学習成果①②③に関連) | | | | | | | | | | |
| | (2) | 子どもの発達や成長に即した表現活動への保育実践力を高め、指導案作成を経て、模擬保育を行い保育実践力を高める。(専門的学習成果②③④に関連) | | | | | | | | | | |
| | (3) | 子どもや保護者、及び地域社会における造形表現的活動の意義を理解し、保育者としての役割を果たすことができる。(専門的学習成果③④に関連) | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 子どもの造形表現活動に関わる保育者としての基礎的な表現技術、基本姿勢を理解する。表現活動への「受容・共感・対応していくことの重要性」を踏まえ関わり方や指導法を身に付ける。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | | | | | | | | | | |
| | | レポート | 30 | ワークシートを活用し進める。また、各自考案した製作活動、参考作品、提示の仕方、説明法も評価する。 | | | | | | | | |
| | | 教材研究・発表 | 30 | 保育教材研究への取り組み。それに伴う教材準備、製作手順の理解、試作試行の様子、指導上の留意点へ配慮、模擬保育の内容、後片付けまで評価する。 | | | | | | | | |
| | 平常点 | 40 | 保育教材研究への取り組み、試行錯誤の様子、協働・意欲・態度を評価する。 | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④により評価を行う。 (3) は専門的学習成果③④により評価を行う。 | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | | 出版社名 | | | | | |
| | 横英子 | 『保育をひらく造形表現』 | | | | | 萌文書林 | | | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | | 出版社名 | | | | | |
| | 文部科学省 | 『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』 | | | | | | | | | | |
| | 厚生労働省 | 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』 | | | | | | | | | | |
| | 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 | | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | ①事前学習、準備物等は、その都度指示。基本的にワークシートを使用し進める。(時間外学習約15時間)。各自、乳幼児あるいは福祉施設利用者を対象とした中心活動を考え教材研究に繋げる。教科書、スケッチブック、画材セットは毎回持参。エプロン(または汚れても良い服装)着用。おしぼり準備。長い髪はまとめる。教材費一人500円(半期分)集金。画材、教科書等は、番号・氏名を記入のこと。 ②ワークシートを基に、翌週、グループ内にて、アイデアや工夫点などを発表、共有し、学び合いを行う。また、製作中や発表時に、助言やコメントをする。 | | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 | |
|---------|--|--|---|---|
| 1回 | 授業内容 | 子どもの表現の特徴・特質を理解する。幼児の表現活動の分析(情報機器の活用) | ワークシートへの取り組み。子どもの造形表現について知る。造形活動についての構造的な理解。 | |
| | 学習成果 | 本授業の内容を理解し、描画の発達を踏まえ、概要について説明できる。 | | |
| 予習復習の内容 | シラバスを事前に読み、その内容を理解する。オリエンテーションの説明を踏まえて、学習目標を立てる。 | | | |
| 2回 | 授業内容 | 「表現と鑑賞(表す、観る)」。感じたこと考えたこと表す。表現活動の構造的な理解。 | | |
| | 学習成果 | 表現活動について構造的な理解ができる。 | | |
| 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、表現活動の構造的な理解をし、「表現と鑑賞」を踏まえた活動を考えることができる。 | | | |
| 3回 | 授業内容 | 「主題と題材」(身近なものを題材とし、伝えたいことを考え、伝える方法や手段を考える) | | |
| | 学習成果 | 造形あそびから主題表現への展開を通して、造形表現を通して「伝える、内容、手段」について考え理解を深める。 | | |
| 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、表現活動における造形あそびから主題表現への展開を考えを深める。 | | | |
| 4回 | 授業内容 | 教材研究(対象年齢、各種素材、活動内容、児童文化財等の活用法、情報機器及び教材の活用、試作品製作など) | | ワークシートへの取り組み。教材研究への姿勢。試作品、見本作品などの製作。図示、説明について考え、具体的に表現することができる。 |
| | 学習成果 | 具体的な題材、代表的な児童文化財の製作研究を行い活用法を考えることができる。 | | |
| 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、各種保育教材、児童文化財の活用法への理解を深める。 | | | |
| 5回 | 授業内容 | 指導計画① 表現活動における保育の流れ(導入、中心活動、まとめ)活動の留意点 | | |
| | 学習成果 | 保育現場における、製作活動の基本的な流れを理解する。 | | |
| 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、各種保育教材、児童文化財への理解を深める。 | | | |
| 6回 | 授業内容 | 指導計画② 造形活動の言語化(説明法)、見える化(参考作品、画像、工程図、実演) | | |
| | 学習成果 | 製作活動における、説明法、参考作品提示法を検討し、決定することができる。 | | |
| 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、伝えることを考え、視覚教材を検討し選出する。 | | | |
| 7回 | 授業内容 | 指導案立案① 題材の選定。対象年齢の確定。役割分担、計画(グループワーク) | | |
| | 学習成果 | グループ学習の中で、題材、対象年齢、役割等を決定し指導計画を行うことができる。 | | |
| 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、題材を踏まえ材料準備や、略案等を考える。 | | | |
| 8回 | 授業内容 | 指導案立案② 内容練り上げ、流れ確認(グループワーク) | | |
| | 学習成果 | 題材、略案等を踏まえ、集約し、内容を練り上げ指導案に向けて一本化できる。 | | |
| 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、教材研究、指導案作成を行う。 | | | |
| 9回 | 授業内容 | 教材準備(人数と個数、活動形態、材料用具確認)(グループワーク) | 指導案が立案できる。指導計画に基づき、保育を展開することができる。他者の保育を見ることで、学び合いを行うことができる。 | |
| | 学習成果 | グループ学習の中で、協働して、模擬保育に向けて準備物等の確認をする。 | | |
| 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、協働して、模擬保育に必要な材料準備、また、指導案作成を行う。 | | | |
| 10回 | 授業内容 | 模擬保育 実践(グループワーク) | | |
| | 学習成果 | グループ内で、模擬保育後の所感を確認し振り返りを行うことができる。 | | |
| 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、模擬保育について、自分の役割を中心に省察する。 | | | |
| 11回 | 授業内容 | 模擬保育振り返り① 情報機器を活用した分析と省察。「修正版指導案」作成(グループワーク) | | |
| | 学習成果 | グループ内で、動画等で模擬保育の課題を再確認し、改善点を修正できる。 | | |
| 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、改善点を基に、修正版指導案の作成に向かう。 | | | |
| 12回 | 授業内容 | 模擬保育振り返り② 「対象年齢別指導案(3歳未満、以上児)」作成(グループワーク) | | |
| | 学習成果 | グループ内外で行われた模擬保育を基に、対象年齢別指導案を作成できる。 | | |
| 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、対象年齢、発達段階を踏まえ、事前準備、材料加工などを再考する。 | | | |
| 13回 | 授業内容 | 実習に向けて(活動形態、用具・設備、掲示、展示、発表法、事前打ち合わせ確認事項等) | | 実習に向けた準備、打ち合わせ内容などを再確認し、見直しを持って活動することができる。作品活用、展示、管理法などを考えることができる。共同製作に関する事例から、学内で習得した技法を応用し、活動を展開することができる。 |
| | 学習成果 | 学外実習に向けて、造形活動に関して、指導計画、作品の扱い、打ち合わせ事項などを再確認する。 | | |
| 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、各々の実習に向けた事前準備に繋げる。 | | | |
| 14回 | 授業内容 | 個々の製作から共同製作に向けた活動例(作品活用、壁面、掲示展示発表例) | | |
| | 学習成果 | 中心活動で行った個々の活動を共同製作に繋げる事例などを知る。 | | |
| 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、改善点を基に、修正版指導案の作成に向かう。 | | | |
| 15回 | 授業内容 | まとめ。感性、表現力、創造性について考察。家庭や地域連携、幼小接続に向けた活動。 | | |
| | 学習成果 | 造形活動の意義、活動を通して高まる感性などを再確認し総括する。 | | |
| 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、造形表現指導法を通し体験的に学んだ事を基に、自身の保育現場での活動に繋げていく。 | | | |

| 科目名 | 幼児と健康 | | | | 担当者 | 石 森 真由子 | | | | | | |
|-------------------------------------|--|--|------------------------------|--------------------------------|-----|---------|----------|----|----|----|-----|----|
| 区 分 | 選択 | 1 | 単位 | 授業回数 | 8 | 回 | 授業 形態 | 演習 | 学年 | 1年 | 開講期 | 前期 |
| | | | | 授業時間数 | 16 | 時間 | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | | 授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。オフィスアワーは授業内で連絡する。 | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 乳幼児期の健康課題と健康の発達の意味を説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 乳幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成について関連付けることができる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 安全な生活と怪我や病気の予防について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | 乳幼児期の運動発達の特徴と意義について理解し、実践に活かそうとすることができる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 乳幼児期の健康および発達に関する専門的知識と現状について幅広く教養を身につけ、説明できる。(専門的学習成果①②③④) | | | | | | | | | | |
| | (2) | 自ら主体的、積極的に乳幼児期の生活習慣や安全、運動に関する情報を得て、保育や地域社会と関連付けて課題を見出し、他者と連携しながら学び続ける意欲を持つことができる。(②③④) | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身につける。生活リズムや繰り返しの経験が様々な要因と複雑に絡み合いながら、互いに強く影響を及ぼし合いながら成立していることを学ぶ。協働学習を通し幼児の心身の発達、基本的生活習慣、安全な生活、運動発達等において、乳幼児期を取り巻く社会状況や課題、大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、それを踏まえた指導方法に関連付けていくことを理解する。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | | | | | | | | | | |
| | | レポート | | | | | | | | | | |
| | | 小テスト | 40 | 筆記試験を2回実施し、評価を行う。 | | | | | | | | |
| | | 課題 | 30 | 課題、レポートの内容、提出、体裁、文脈、独創性で評価を行う。 | | | | | | | | |
| | 平常点 | 30 | 授業およびグループワークへの態度・関心・意欲を評価する。 | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により行う。 (1) は専門的学習成果①②③④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④で評価を行う。 | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | |
| | 井狩芳子 | | 『演習保育内容 健康』 | | | | 萌文書林 | | | | | |
| | 柴田卓・石森真由子 | | 『楽しく学ぶ運動遊びのすすめ』 | | | | 株式会社みらい | | | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | |
| | 文部科学省 | | 『幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説』 | | | | | | | | | |
| | 厚生労働省 | | 『保育所保育指針・保育所保育指針解説書』 | | | | | | | | | |
| | 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | | ①この科目では時間外学習（15時間）として、＜事前学習＞幼稚園教育要領および保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の当該箇所を各自で読み理解を深めること。また、乳幼児の健康、生活習慣、食育、安全、運動に関連するニュースについて目を通しておくこと。＜事後学習＞小テストに向けた復習、講義内で提示される課題への取り組みをすること。 ②小テストに対するフィードバックは実施後に正解を示し、解説する。課題についてはグループ発表形式で実施され発表内容と合わせてフィードバックを実施する。 | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|------|---------|-----------------------------------|---------|
| 1回 | 授業内容 | 乳幼児を取り巻く生活環境と健康 | |
| | 学習成果 | 現代の生活環境と子どもの健康の現状について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | テキストを読み、子どもの健康課題について調べる。 | |
| | 授業内容 | 乳幼児期の健康課題 | |
| 2回 | 学習成果 | 保育者としての視点から乳幼児期の健康課題について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。 | |
| 3回 | 授業内容 | 乳幼児期の身体の諸機能の発達 | |
| | 学習成果 | 乳幼児の発育発達について知識を広げる。 | |
| | 予習復習の内容 | テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。 | |
| | 授業内容 | 乳幼児期の生活習慣の形成 | |
| 4回 | 学習成果 | 生活習慣の重要性について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。 | |
| 5回 | 授業内容 | 乳幼児の安全教育と安全管理 | |
| | 学習成果 | 乳幼児期の特徴と安全への配慮を理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。 | |
| | 授業内容 | 乳幼児期の怪我や事故の特徴と病気の予防 | |
| 6回 | 学習成果 | 傷病・疾病予防の現状を理解し、他科目との関連について知る。 | |
| | 予習復習の内容 | テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。 | |
| 7回 | 授業内容 | 乳幼児期の運動発達の特徴 | |
| | 学習成果 | 運動発達と現状、それを支える環境構成や生活習慣を理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。 | |
| | 授業内容 | 遊びとしての運動 | |
| 8回 | 学習成果 | 発達段階を踏まえた運動遊びの重要性を知る。 | |
| | 予習復習の内容 | テキストの該当部分を読み、知らない語彙・興味をもった項目を調べる。 | |
| 9回 | 授業内容 | | |
| | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| | 授業内容 | | |
| 10回 | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| 11回 | 授業内容 | | |
| | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| | 授業内容 | | |
| 12回 | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| 13回 | 授業内容 | | |
| | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| | 授業内容 | | |
| 14回 | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| 15回 | 授業内容 | | |
| | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |

| 科目名 | 幼児と人間関係 | | | | 担当者 | 加藤和子（実務家教員） | | | | | | |
|-------------------------------------|---|--|---------------------------------|-------------------------------------|-----|-------------|------|----|------|----|-----|----|
| 区分 | 選択 | 1 | 単位 | 授業回数 | 8 | 回 | 授業形態 | 演習 | 学年 | 1年 | 開講期 | 前期 |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | オフィスアワーで受け付ける。オフィスアワーは初回授業で連絡する。 | | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴と課題について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 乳児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | 自立心、協同性、道徳性・規範意識の育ちについて発達の姿と合わせて説明できる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 現代社会の特徴を踏まえて領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、人との関わりの発達に関する専門的知識を習得し、実践につなげることができる。（専門的学習成果①②に関連） | | | | | | | | | | |
| | (2) | 集団生活や家庭、地域との関わりの中で育つ人間関係と、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」に関連づけて理解し、保育者の社会的役割を自覚して子どもの理解や支援ができる。（専門的学習成果③④に関連） | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 本講義は、領域「人間関係」の指導の基盤となる、子どもの人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につけることを目的とする。子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解し、関係発達論的視点から、乳幼児期の人間関係の発達について理解する。教員の精神保健福祉士としての精神保健センターでの実務経験をもとに具体的理解を深めることができるよう講義を展開する。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | 90 | 「学習成果の評価」に示す内容について、60%以上の得点を合格点とする。 | | | | | | | | |
| | | レポート | 10 | 授業内容の理解についてレポートを課す（2回各5%）。 | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) は専門的学習成果①②で評価する。 (2) は専門的学習成果③④で評価する。 | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | |
| | 文部科学省 | | 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | |
| | 厚生労働省 | | 『保育所保育指針』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | |
| | 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | |
| | | (解説書、関連図書含む) | | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | | ①日常生活の中で子どもを取り巻く環境や人間関係の育ちについて意識し、考えること。特に授業内容に関連する部分については、テキスト該当部分の読了に加え事前に関係する文献を読み、理解を深めておくこと（予習：週2時間程度）。 ②毎回授業終了後にミニッツレポートの提出を促し、次の授業でフィードバックを行うことから、テキストをもとに授業時間外学習を行って授業に臨むこと（復習：週2時間程度）。 | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|------|---------|---|--|
| 1回 | 授業内容 | 幼児教育の構造と保育内容5領域 | |
| | 学習成果 | 幼児教育の目的と保育内容が持つ意味について理解し、説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 幼児教育と育てたい10の姿、保育内容5領域について理解し、説明できるようにしておく。 | |
| 2回 | 授業内容 | 領域「人間関係」の特性と子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴 | |
| | 学習成果 | 現代社会の特徴を踏まえ、領域「人間関係」の特性を説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 現代社会の特徴と子どもの人間関係の育ちを踏まえ、領域「人間関係」の特質を説明できるようにしておく。 | |
| 3回 | 授業内容 | 乳児期に育つ人と関わる力の発達 | |
| | 学習成果 | 乳児期に育つ人と関わる力の発達を、愛着の形成をもとに説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 乳児期の愛着の形成について理解し、説明できるようにしておく。 | |
| 4回 | 授業内容 | 領域「人間関係」のねらいと内容 | |
| | 学習成果 | 「環境を通しての教育」を理解し、領域「人間関係」のねらいと内容を育てたい10の姿とつなげて説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。育てたい10の姿とつなげて説明できるようにしておく。 | |
| 5回 | 授業内容 | 遊びと人間関係の育ち | |
| | 学習成果 | 遊びの中で育まれる社会性の発達について理解し、説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 遊びを通して発達する人と関わる力について理解する。遊びの発達段階について説明できるようにしておく。 | |
| 6回 | 授業内容 | 集団生活と人間関係 | |
| | 学習成果 | 集団生活を通して育まれる自己主張、自己抑制、協同性、道徳性・規範意識について説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 集団生活において育まれる人間関係の育ちを具体的に説明できるようにしておく。 | |
| 7回 | 授業内容 | 家庭の中で育つ人間関係、地域との関わりで育つ人間関係 | |
| | 学習成果 | 家庭生活や地域における人間関係の特徴と、価値やルールの学びについて説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 家庭生活や地域における人間関係の特徴を理解し、連携の重要性について説明できるようにしておく。 | |
| 8回 | 授業内容 | 領域「人間関係」に関連する最新の知見と人との関わりでの育ち | |
| | 学習成果 | 少子化、核家族化、グローバル化、ICTの進展と子どもの人と関わる育ちについて理解し、課題を説明できる。社会情動的スキルについて説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 現代社会の特徴が子どもの人と関わる育ちに与える影響と課題を理解する。社会情動的スキルについて説明できるようにしておく。 | |
| 9回 | 授業内容 | | |
| | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| 10回 | 授業内容 | | |
| | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| 11回 | 授業内容 | | |
| | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| 12回 | 授業内容 | | |
| | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| 13回 | 授業内容 | | |
| | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| 14回 | 授業内容 | | |
| | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| 15回 | 授業内容 | | |
| | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| | | | 定期試験：筆記試験 8回の内容理解を評価する。配布資料をもとに内容を整理し、理解しておくこと。 |

| 科目名 | 幼児と環境 | | | | 担当者 | イ飯 嶋 典 子 | | | | | | |
|-------------------------------------|--|--|---------------------------------|---------------------------------|-----|----------|----------|----|----|----|-----|----|
| 区 分 | 選択 | 1 | 単位 | 授業回数 | 8 | 回 | 授業 形態 | 演習 | 学年 | 1年 | 開講期 | 前期 |
| | | | | 授業時間数 | 16 | 時間 | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | | 質問等は授業の前後に教室内で受け付ける | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 子どもを取り巻くさまざまな環境の特徴と、子どもの発達におけるそれらの意義について理解している。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 子どもの環境に対する見方・考え方と現代的課題について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 子どもの身近な環境との関わりにおける思考・科学的概念などの認知発達について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | 子どもの表象の発達とその身近な環境との関わりにおける活用について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 保育者に必要とされる専門的知識として子どもが遊びや生活を通して学ぶ学習過程を理解し、それらの学びを保障する環境および保育者の役割について考察できる。(専門的学習成果①②③④) | | | | | | | | | | |
| | (2) | 21世紀型学力とその育成について学校教育全体を通して考察できる。(専門的学習成果②③) | | | | | | | | | | |
| | (3) | 子どもが育つ社会の観点から地域資源およびコミュニティのあり方を考察できる。(専門的学習成果①) | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 領域「環境」の指導の基盤となる子どもの環境との関わりにおいて必要な認知発達として、科学的理解、数量等の発達に関する知識を身に付ける。それらを踏まえ、子どもが興味関心をもって関わろうとする環境の特徴と、身近な事象に子どもが主体的に関わる中で、発見し、考えたことを生活に取り入れようとする学びの連続的発達過程について学ぶ。また、それらの幼児期の学びが小学校以降の学びと接続する幼小接続の観点について概説する。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | 50 | これまでの学習内容に基づき記述式の問題を課し正解率で評価する。 | | | | | | | | |
| | | レポート | | | | | | | | | | |
| | | 平常点 | 50 | 課題への参加姿勢およびその成果を評価する。 | | | | | | | | |
| | 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③により評価を行う。 (3) は専門的学習成果①により評価を行う。 | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | |
| | 文部科学省 | | 『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示) | | | | | | | | | |
| | 厚生労働省 | | 『保育所保育指針』(平成29年3月告示) | | | | | | | | | |
| | 内閣府 | | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示) | | | | | | | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | |
| | 柴崎正行・若月芳浩 | | 『保育内容「環境」』 | | | | ミネルヴァ書房 | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | | ①5領域の総合化を踏まえ、他の領域に関する事項との関連を意識して捉える姿勢を求める。そのためにも、事前学習として幼稚園教育要領等に記載されている「ねらい」と「内容」、「内容の取り扱い」等については熟読し、理解すべき点を明確にして授業に臨むこと。また事後学習として、授業で示された内容に関して不明な事項や興味をもった事項は調べるなど自発的に理解を深めるようにすること。これらの事前事後学習および授業内に提示した課題に取り組む時間を授業時間外学習(29時間)とする。 ②課題に対するフィードバックは、授業内で学生間評価と教員コメントによって行う。 | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|------|---------|---|---------|
| 1回 | 授業内容 | 幼児の育ちにおける環境とその現代的課題 | |
| | 学習成果 | 幼児の育ちにおける環境とその現代的課題について説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 領域「環境」および関連事項の熟読と学びのめあての設定 | |
| | 授業内容 | 子どもの発達における環境の意義 | |
| 2回 | 学習成果 | 子どもの発達における環境の役割と保育者の援助について説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 領域「環境」および関連事項の熟読と学びのめあての設定 | |
| 3回 | 授業内容 | 子どもの認知発達 | |
| | 学習成果 | 幼児期の教育における「環境」領域の特色について説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 幼稚園教育要領等に示されている認知発達の内容を抽出しまとめる。 | |
| 4回 | 授業内容 | 数量、図形等と子どもの生活 | |
| | 学習成果 | インフォーマル算数とそれを促す遊びや生活について説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 幼稚園教育要領等で示されている事項と遊びについてまとめる。 | |
| 5回 | 授業内容 | 子どものシンボルと情報理解の発達およびその活用 (ICT の利活用を含む) | |
| | 学習成果 | 子どものシンボルによる理解とそれを促す遊びや生活について説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 日常にあるシンボル情報について調べ、まとめる。 | |
| 6回 | 授業内容 | 子どもの身近な生物との関わり | |
| | 学習成果 | 生物との関わりが子どもに及ぼす影響とそれを促す遊びや生活について説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 幼稚園教育要領等で示されている事項と遊びについてまとめる。 | |
| 7回 | 授業内容 | 子どもの身近な自然との関わり | |
| | 学習成果 | 身近な自然との関わりが子どもに及ぼす影響とそれを促す遊びや生活について説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 幼稚園教育要領等で示されている事項と遊びについてまとめる。 | |
| 8回 | 授業内容 | 子どもの生活における社会資源の活用 | |
| | 学習成果 | 保育・教育をより良く展開するために活用可能な社会資源について説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 幼稚園教育要領等で示されている事項と地域の社会資源についてまとめる。 | |
| 9回 | 授業内容 | | |
| | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| 10回 | 授業内容 | | |
| | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| 11回 | 授業内容 | | |
| | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| 12回 | 授業内容 | | |
| | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| 13回 | 授業内容 | | |
| | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| 14回 | 授業内容 | | |
| | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| 15回 | 授業内容 | | |
| | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |

| 科目名 | 幼児と言葉 | | | | 担当者 | 飯 島 典 子 | | | | | | |
|-------------------------------------|--|---|---------------------------------|---------------------------------|-----|---------|----------|----|----|------|-----|----|
| 区 分 | 選択 | 1 | 単位 | 授業回数 | 8 | 回 | 授業 形態 | 演習 | 学年 | 1年 | 開講期 | 前期 |
| | | | | 授業時間数 | 16 | 時間 | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | | 質問等は授業の前後に教室で受け付ける | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 子どもにとっての言葉の機能と意義について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 子どもの言語の発達過程をその機能と関連付けて説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 子どもの言葉の育ちと保育実践とを関連づけて理解している。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | 子どもの豊かな言葉を育む児童文化財等の基礎的知識を身に付けている。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 保育者に必要な専門的知識として、子どもにとっての言葉の機能と意義およびその発達過程を理解するとともに、子どもの豊かな育ちを実現する多様な保育のあり方を構想できる。(専門的学習成果①②③④) | | | | | | | | | | |
| | (2) | 人類の社会文化的進化の観点から言葉の獲得と使用について捉え、自らの保育観に取り入れることができる。(専門的学習成果①③) | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 領域「言葉」の指導の基盤となる、子どもにとっての言葉の意義と機能、言語発達のプロセスについて前言語的コミュニケーションと言語的コミュニケーションの特徴から学ぶ。これらの基礎知識を踏まえ、子どもの言葉に対する感覚と豊かな言葉を育てるための児童文化財等を利活用した教育・保育実践に関する知識を身に付ける。さらに、言葉の産出、文字や記号の発明が人類の社会文化的進化による産物であることを踏まえ、保育者と子どもの文化的営みにおける言葉の価値を確認していく。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | 50 | これまでの学習内容に基づき記述式の問題を課し正解率で評価する。 | | | | | | | | |
| | | レポート | | | | | | | | | | |
| | | 平常点 | 50 | 課題への参加姿勢およびその成果を評価する。 | | | | | | | | |
| | 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③④により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①③により評価を行う。 | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | | 出版社名 | | |
| | 文部科学省 | | 『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示) | | | | | | | | | |
| | 厚生労働省 | | 『保育所保育指針』(平成29年3月告示) | | | | | | | | | |
| | 内閣府 | | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示) | | | | | | | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | | 出版社名 | | |
| | 秋田喜代美・野口隆子 編著 | | 『保育内容「言葉」』 | | | | | | | 光生館 | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | | ①保育者として日常の言葉に対する感性を養うために文字を読み音に親しむようにすること。また、そのような体験の意味や講義内容を理解する上で領域「言葉」の「ねらい」および「内容」、「内容の取り扱い」等について事前に学習をすること。さらに、本講義は調べてきた事項を素材とした授業展開を予定しているため、各回の予習とまとめは必ず行うこと。これらの取り組みを授業外学習時間(29時間)とする。 ②課題に対するフィードバックは、授業内で学生間評価と教員コメントによって行う。 | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|------|---------|--|---------|
| 1回 | 授業内容 | 言葉の機能と意義 | |
| | 学習成果 | 言葉の機能と意義を言語発達の観点から説明できる。 | |
| 2回 | 予習復習の内容 | 領域「言葉」および関連事項の熟読と学びのめあての設定 | |
| | 授業内容 | 子どもの言葉発達①非言語的コミュニケーション | |
| 3回 | 予習復習の内容 | 非言語的コミュニケーションを認知的メカニズムから説明できる。 | |
| | 授業内容 | 子どもの言葉発達②話し言葉・書き言葉 | |
| 4回 | 予習復習の内容 | 自身の乳幼児期の言語発達の様相について保護者から聞き取り特徴を知る。 | |
| | 授業内容 | 子どもの言葉に対する感覚 | |
| 5回 | 予習復習の内容 | 文字の理解と活用を認知的メカニズムから説明できる。 | |
| | 授業内容 | 領域「言葉」と他の領域との繋がりにから子どもの言葉に対する感覚の育ちについて説明できる。 | |
| 6回 | 予習復習の内容 | 領域「言葉」および関連事項の熟読と学びのめあての設定 | |
| | 授業内容 | 子どもの言葉の育ちを豊かにする保育①言葉遊び | |
| 7回 | 予習復習の内容 | 言葉遊びの特徴と活用方法について説明できる。 | |
| | 授業内容 | 子どもの言葉の育ちを豊かにする保育②児童文化財 | |
| 8回 | 予習復習の内容 | 言葉遊びについて調べ実際に遊ぶ。 | |
| | 授業内容 | 子どもの言葉の育ちを豊かにする保育③教材活用(ICTの利活用を含む) | |
| 9回 | 予習復習の内容 | 児童文化財の特徴と活用方法について説明できる。 | |
| | 授業内容 | 子どもの言葉の育ちを豊かにする保育④教材活用(ICTの利活用を含む) | |
| 10回 | 予習復習の内容 | 児童文化財の特徴と活用方法について調べる。 | |
| | 授業内容 | 子どもの言葉の育ちを豊かにする保育実践 | |
| 11回 | 予習復習の内容 | 教材を活用する方法、工夫、配慮事項について考察できる。 | |
| | 授業内容 | 言葉の発達を促す保育について総合的に説明できる。 | |
| 12回 | 予習復習の内容 | 言葉に関するそのほかの遊びについて調べる。 | |
| | 授業内容 | 子どもの年齢に応じた教材についてまとめる。 | |
| 13回 | 予習復習の内容 | | |
| | 授業内容 | | |
| 14回 | 予習復習の内容 | | |
| | 授業内容 | | |
| 15回 | 予習復習の内容 | | |
| | 授業内容 | | |

| 科目名 | 幼児と表現 | | | | 担当者 | 佐々木 貴 弘 ・ 佐 藤 万利子 | | | | | | |
|-------------------------------------|---|---|--------|--|-----|-------------------|------|----|----|----|-----|----|
| 区 分 | 選択 | 1 | 単位 | 授業回数 | 8 | 回 | 授業形態 | 演習 | 学年 | 1年 | 開講期 | 前期 |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。e-mell:sasaki.takahiro@seiwa.ac.jp , sato.mariko@seiwa.ac.jp | | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 領域「表現」のねらいや内容と合わせ、乳幼児の表現活動の特徴・特質を理解する。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 基本的な保育表現技術の習得を通して、自身の感性を高める。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 表現（音楽・造形）あそびの意義と特徴や、用具、楽器等の扱い方について学ぶ。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | 各種表現活動を通して、領域「表現」と他領域との関連について理解を深める。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 保育者に必要とされる表現活動を理解し、保育現場における必要な基礎的知識・技能を身に付ける。(専門的学習成果①②に関連) | | | | | | | | | | |
| | (2) | 子どもの発達や成長に即した保育実践力や、保育内容領域「表現」内における、造形、音楽などの各種表現技術を高め、豊かな感性や想像力、表現力をもって子どもの支援ができる。(専門的学習効果②③に関連) | | | | | | | | | | |
| | (3) | 子どもや保護者及び地域社会における表現活動の意義を理解し、保育者の役割を考慮することができる。人間的成長を基軸として営まれる幼児教育が保育内容の5領域で構成されていることを理解できる。(専門的学習成果④に関連) | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 領域「表現」に関する理解を深め、子どもの表現を育む為の保育表現術を習得し、保育者としての感性表現力を高めると共に、専門的な知識・技術を身に付ける。幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「表現」のねらいと内容の理解を深める。生活の中での身近な音や自然への興味、関心を持ち、イメージと重ね合わせる表現活動を展開することができる。造形表現を通して「よさ、たのしさ、うつくしさ」に触れ、子どもの感性について考える姿勢を持ち、音楽表現を通して「歌う、聴く、動く、作る活動」を理解することができる。体験的に学んだ表現活動を踏まえ、保育者の役割を考え、領域を越えた総合表現的活動への意識を高めることができる。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | | | | | | | | | | |
| | | レポート | 40 | 各表現活動に対し創作劇遊びの実践から振り返りを行い、課題抽出と幼児期に育む表現の理解を観点に評価を行う。 | | | | | | | | |
| | | 作品製作・発表 | 40 | 保育表現、創作表現に関して、造形的活動と音楽的活動に分かれグループワークを中心に行う表現活動と発表内容（創作劇遊びの実践）でその評価を行う。 | | | | | | | | |
| 平常点 | 20 | 表現活動や発表への取り組み、意欲・態度を評価する。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果④で評価を行う。 | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | | |
| | 高御堂愛子 他編著 | 『楽しい音楽表現』 | | | | 圭文社 | | | | | | |
| | 横英子 | 『保育をひらく造形表現』 | | | | 萌文書林 | | | | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | | |
| | 文部科学省 | 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | | |
| | 厚生労働省 | 『保育所保育指針』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | | |
| | 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | ①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。(予習：週2時間程度) 事後学習としては、発表を実施し、その内容と課題抽出、考察のレポートを評価の対象とする。(復習：週2時間程度) ②発表に対するフィードバックは実施後に、講評を行う。 | | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|------|---------|--|---------------------------------|
| 1回 | 授業内容 | 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「表現」の位置づけ。ねらいと内容の理解。 | ワークシートへの取り組み。 |
| | 学習成果 | 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として提示された10項目を理解し説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「表現」を理解する。 | |
| 2回 | 授業内容 | 乳幼児期の表現の特徴「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」（造形、音楽を中心に） | 映像教材を活用した鑑賞。 多様な子どもの表現の理解。 |
| | 学習成果 | 生活の中での身近な音や自然への興味、関心を持ち、イメージと重ね合わせる表現活動を展開することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 『保育所保育指針』の第二章子どもの発達から「幼児期の発達の特性と発達過程を理解する。 | |
| 3回 | 授業内容 | 保育表現「いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ」表現活動①（造形表現を中心に） | 振り返りシートへの取り組み。 |
| | 学習成果 | 造形表現を通して「よさ、たのしさ、うつくしさ」に触れ、子どもの感性について考える姿勢を持つことができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、「乳幼児期の造形表現」に興味関心を抱き、自身の研究心をより高めることができる。 | |
| 4回 | 授業内容 | 保育表現「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」表現活動②（音楽表現を中心に） | 振り返りシートへの取り組み。 |
| | 学習成果 | 音楽表現を通して「歌う、聴く、動く、作る活動」を理解し、子どもの遊びうた、わらべうたを実践できる。 | |
| 5回 | 予習復習の内容 | 幼児期に体験したわらべうた、遊びうたを挙げ、その遊びを紹介できるようにまとめておく。 | グループワークを通した振り返り。 |
| | 授業内容 | 創作表現「歌う・描く・作る・演じるなどを通した表現活動」（グループワーク）① 製作、練習 | |
| | 学習成果 | 創作劇遊びを考え、台本（指導案作成）、選曲、衣装、舞台装置を作成し、演じることができる。 | |
| 6回 | 予習復習の内容 | 子どもの対象年齢とねらいを設定し、創作表現を応用した劇遊びを考える。 | ○発表 グループワークで取り組んだ創作劇遊びを実践する。 |
| | 授業内容 | 創作表現「歌う・描く・作る・演じるなどを通した表現活動」（グループワーク）② 発表、観賞 | |
| 7回 | 学習成果 | 共同製作を通して、「表現、鑑賞」の関係性、「表現活動に関する構造的な理解」を深めることができる。 | 振り返りシートへの取り組み。 |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、表現のみならず、鑑賞への興味を持ち、広く芸術活動への関心を高めることができる。 | |
| | 授業内容 | 乳幼児の表現を育む保育者の役割「求められる感性と表現力」。表現活動と他領域との関連を考察。 | |
| 8回 | 学習成果 | 各活動で体験的に学んだ表現活動を踏まえ、保育者の役割を考え、領域を越えた総合表現的活動への意識を高めることができる。 | ○レポート提出 全体総括。 |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、総合表現的活動に興味関心を抱き、自身の表現活動に対する研究心を高めることができる。 | |
| | 授業内容 | 幼児期に育む「豊かな感性と表現」についてのまとめ。 | |
| 9回 | 学習成果 | 幼児期における表現活動と、そこで培う「感性や表現力」について理解を深める。 | |
| | 予習復習の内容 | 他領域も含め、幼児と表現における総合的な学びに関して考えを深め、自身の保育表現技術の向上に繋げることができる。 | |
| | 授業内容 | | |
| 10回 | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| | 授業内容 | | |
| 11回 | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| | 授業内容 | | |
| 12回 | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| | 授業内容 | | |
| 13回 | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| | 授業内容 | | |
| 14回 | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| | 授業内容 | | |
| 15回 | 学習成果 | | |
| | 予習復習の内容 | | |
| | 授業内容 | | |

| 科目名 | 乳児保育 I | | | | 担当者 | ナカ ジマ メグミ 恵 (実務家教員) | | | | | | |
|-------------------------------------|---|---|--------|---|-----|---------------------|------|----|----|----|-----|----|
| 区分 | 必修 | 2 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業形態 | 講義 | 学年 | 1年 | 開講期 | 前期 |
| | | | | 授業時間数 | 30 | 時間 | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | オフィスアワー及び e-mail (nakajima.megumi@seiwa.ac.jp) に連絡する。オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。 | | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 健やかな成長を支える生活と遊びについて理解し、3歳未満児及び幼児の発育・発達について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 乳幼児の生命を守ること、健康の保持増進について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 乳児保育の内容や方法、環境構成や記録等について理解し、意義について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | 他機関との連携、保護者支援について理解し主体的に考えることができる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 現代社会における乳児保育の重要性を理解し、保育者に必要な知識・技能を身に付け実践することができる。(専門的学習成果①②③) | | | | | | | | | | |
| | (2) | 子どもと保護者及び地域社会における保育者の役割を理解し、自ら課題を見出し学びに向かい続け探求することができる。(専門的学習成果④) | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 乳児保育の理念と保育内容、方法について理解する。また、乳幼児期の子どもの発育や特徴を理解し、一人ひとりを大切に育てる乳児保育のあり方を学ぶ。乳幼児期の発達、その後の心身の発達の土台となることを理解し、保育所保育指針の乳児保育の保育内容についても理解を深めながら、発達過程を見通して学ぶ。映像や事例、児童文化についての課題探求を実践しながらグループ討議などを通して乳児保育について理解を深めていく。保育者として、意欲的に授業に臨む姿勢や態度も含めて評価をしていく。保育士および保育園園長としての実務経験をもとに、乳児保育の実態や課題と照らし合わせながら授業を展開していく。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | 60 | 「学習成果の評価」に示す内容について、60パーセント以上の得点を合格点とする。 | | | | | | | | |
| | | レポート | 10 | 養護と教育について理解できているかを観点に評価をする。 | | | | | | | | |
| | | 小テスト | 20 | 乳児保育のねらいと内容を中心に2回実施する。 | | | | | | | | |
| | | 平常点 | 10 | 授業参加態度の意欲を評価する。 | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価より評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果④にて評価を行う。 | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | | |
| | 大橋喜美子編 | 『乳児保育』 | | | | みらい | | | | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | | |
| | 厚生労働省 | 『保育所保育指針解説』 | | | | フレーベル館 | | | | | | |
| | 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 | | | | フレーベル館 | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | ①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。特に、授業内容に関連する部分については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと(予習：週2時間程度)。事後学習としては、小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりとすること(復習：週2時間程度) ②小テストは授業で返却し、解説を行う。レポートについては授業内でフィードバックを行う。 | | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|---------|--------------------------------|------------------------------------|--|
| 1回 | 授業内容 | オリエンテーション 乳児保育の意義・目的 | ○小テスト 5回目の後半で実施する。 ・養護についての理解 ・乳児保育における教育(保育のねらい及び内容) ・児童福祉施設の設備及び運営に関する基準 保育所保育指針を熟読しておくこと。 |
| | 学習成果 | 乳児保育の定義について説明ができる。 | |
| 予習復習の内容 | 乳児の特徴、自分なりのイメージを記述しておく。 | | |
| 2回 | 授業内容 | 乳児保育の役割と機能(人生の基礎である乳児期) | |
| | 学習成果 | 乳児期の捉え方について説明ができる。 | |
| 予習復習の内容 | 保育所保育指針の関連部分を読み、理解をしておく。 | | |
| 3回 | 授業内容 | 乳児保育における養護及び教育 | |
| | 学習成果 | 養護や教育の理念、ねらいや内容について説明ができる。 | |
| 予習復習の内容 | 保育所保育指針の関連部分を読み、理解をしておく。 | | |
| 4回 | 授業内容 | 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 | |
| | 学習成果 | 支援の実際と課題について説明ができる。 | |
| 予習復習の内容 | テキストの該当範囲を事前に読み理解をしておく。 | | |
| 5回 | 授業内容 | 保育所における乳児保育 | |
| | 学習成果 | 乳児保育のねらいや内容の3つの視点について説明ができる。 | |
| 予習復習の内容 | 保育所保育指針の該当部分を熟読しておく。 | | |
| 6回 | 授業内容 | 保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育及び家庭的保育等 | |
| | 学習成果 | 乳児院や家庭的保育室について説明ができる。 | |
| 予習復習の内容 | テキストの該当範囲を事前に読み理解をしておく。 | | |
| 7回 | 授業内容 | 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 | |
| | 学習成果 | 現代における子育ての現状や課題について語ることができる。 | |
| 予習復習の内容 | あらかじめ子育て家庭の課題についての調べ学習をする。 | | |
| 8回 | 授業内容 | 3歳未満児の生活と環境 | |
| | 学習成果 | 3歳未満児の生活の流れについて説明ができる。 | |
| 予習復習の内容 | 3歳児のデイリープログラムや援助についてまとめておく。 | | |
| 9回 | 授業内容 | 3歳未満児の遊びと環境 | |
| | 学習成果 | 3歳未満児の遊びの捉えかたについて語ることができる。 | |
| 予習復習の内容 | 発達過程を考慮した遊びについてまとめる。 | | |
| 10回 | 授業内容 | 3歳以上児の保育に移行する時期の保育 | |
| | 学習成果 | 基本的な生活習慣の自立にむけた保育士の援助について説明ができる。 | |
| 予習復習の内容 | 2歳児の発達過程と生活援助について必要な知識をまとめておく。 | | |
| 11回 | 授業内容 | 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり | |
| | 学習成果 | 発達過程を考慮した援助について説明ができる。 | |
| 予習復習の内容 | 3歳未満児の発達過程と援助について必要な知識をまとめておく。 | | |
| 12回 | 授業内容 | 3歳未満時の発育・発達を踏まえた保育における配慮、個別の計画 | |
| | 学習成果 | 3歳未満児の個別計画の必要性について説明ができる。 | |
| 予習復習の内容 | 個別計画と3つの視点や5領域の関連性についてまとめておく。 | | |
| 13回 | 授業内容 | 乳児保育における計画・記録・評価とその意義 | |
| | 学習成果 | 全体的な計画からの指導計画の意味について説明できる。 | |
| 予習復習の内容 | 保育所保育指針の該当部分を熟読しておく。 | | |
| 14回 | 授業内容 | 乳児保育における連携・協働 | |
| | 学習成果 | 保育現場の同僚性について語ることができる。 | |
| 予習復習の内容 | テキストの該当範囲を事前に読み理解をしておく。 | | |
| 15回 | 授業内容 | 保護者支援と連絡帳の意味、書き方についてまとめと確認 | |
| | 学習成果 | 保護者支援の意義について説明することができる。 | |
| 予習復習の内容 | 保護者支援に必要な知識や技術についてまとめておく。 | | |

| 科目名 | 乳児保育Ⅱ | | | | 担当者 | 中 島 恵 (実務家教員) | | | | | | |
|-------------------------------------|--|---|---------------------------|---|-----|---------------|------|----|--------|----|-----|----|
| 区 分 | 必修 | 1 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業形態 | 演習 | 学年 | 1年 | 開講期 | 後期 |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | | オフィスアワー及びe-mail (nakajima.megumi@seiwa.ac.jp) に連絡する。オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。 | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの方を基本的な考え方を理解し、援助の実践ができる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 養護及び教育の一体性を踏まえ、子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 乳児保育における配慮の実際について具体的に述べる事ができる。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | 乳児保育における計画の作成について具体的に学び、指導計画や個別計画の一部を作成できる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 現代社会における乳児保育の重要性を理解し、保育者に必要な知識・技能を身に付け実践することができる。(専門的学習成果②④) | | | | | | | | | | |
| | (2) | 保育者の社会的役割を自覚し、豊かな感性や想像力、表現力をもって、子どもの理解や支援ができる。(専門的学習成果①③) | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 乳児保育Ⅰで習得した知識を、さらに具体的な子どもの生活や遊びに照らし合わせながら、具体的な支援、援助方法について自ら考察する。また、個々の発達に合わせた一人ひとりの健やかな育ちを保障するために、保育者として必要な受容的で応答的な関わりや、援助の仕方を学んでいく。現代社会における、乳児保育の現状と課題について理解し、子どもの発達を踏まえた保育内容と保育者の役割について学ぶ。視聴覚教材や事例を基にして、グループ討議などを通して乳児保育について学びを深める。保育士および保育園園長としての実務経験をもとに、乳児保育の実態や援助方法を示しながら授業を展開していく。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | | | | | | | | | | |
| | | レポート | 30 | レポート課題2回 テーマに沿ったレポートの評価(評価観点: 体裁(2) 文脈(3) 内容(10))を行う。 | | | | | | | | |
| | | 確認テスト | 60 | これまでの学習内容に基づき、学習習熟度に関するテストを実施し、評価を行う。(60点) | | | | | | | | |
| | | 平常点 | 10 | 演習への取り組み、意欲、態度により評価する。 | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果(1)(2)については、以下のとおり専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果②④により評価を行う。 (2)は専門的学習成果①③により評価を行う。 | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | |
| | 茶々保育園グループ社会福祉法人あすみ福祉会 編 | | 『乳児保育Ⅰ・Ⅱ』養成校と保育室をつなぐ理論と実践 | | | | | | 萌文書林 | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | |
| | 文部科学省 | | 『幼稚園教育要領解説』 | | | | | | フレーベル館 | | | |
| | 厚生労働省 | | 『保育所保育指針解説』 | | | | | | フレーベル館 | | | |
| | 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 | | | | | | フレーベル館 | | | |
| | | | 必要に応じてプリントを配布する。 | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | | ①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。特に、授業内容に関連する部分については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと(予習: 週2時間程度)。事後学習としては、小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので復習をしっかりとする(復習: 週2時間程度) ②レポートや保育計画については、モデル案を示し、解説を行う。発表では相互の意見交換の時間も設け、その都度フィードバックを行う。 | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|---------|------------------------------------|--|--|
| 1回 | 授業内容 | 子どもと保育士等との関係の重要性 | ○レポート 場面に応じた受容的、応答的にかかわりに関して考察し、具体的な声掛け、態度をとることができているか。 ○レポート 発達過程や育てたい視点を理解した環境について説明ができていないか。 各年齢ごとの発達過程に合わせた手作り玩具を製作し、発表する。(発達過程にあっているか、危険はないかなどが評価の基準となる) 温度や分量を配慮しながら、適温の調乳の実践を行い、グループの中でお互いに確認をする。 対象年齢を見通したふれあい遊びやわらわらたを発表する。 ○小テスト 児童福祉施設の設備及び運営に関する基準(職員の数等) ○小テスト 保育課程の子ども像を踏まえた、保育のねらい、内容の一部立案。上位の計画と下位の計画のつながりが可視化されているかを評価する。 |
| | 学習成果 | 子どもと保育士等との関係について述べる事ができる。 | |
| 予習復習の内容 | 3歳未満児の発達の特性を確認しておく。 | | |
| 2回 | 授業内容 | 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり | |
| | 学習成果 | 受容的応答的な具体的な場面に応じた関わりについて、説明ができる。 | |
| 予習復習の内容 | テキストの関連部分を読んでおく。 | | |
| 3回 | 授業内容 | 子どもの主体性の尊重と自己の育ち | |
| | 学習成果 | 子どもの主体性について説明ができる。 | |
| 予習復習の内容 | 保育所保育指針の乳児保育、1歳以上3歳未満児の保育について熟読する。 | | |
| 4回 | 授業内容 | 子どもの体験と学びの芽生え、乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 | |
| | 学習成果 | 3つの視点と5領域のつながりについて説明ができる。 | |
| 予習復習の内容 | 保育所保育指針の3つの視点と5領域の内容を理解しておく。 | | |
| 5回 | 授業内容 | 子どもの1日の生活の流れと保育の環境 | |
| | 学習成果 | 保育所での3歳未満児の生活の流れを説明できる。 | |
| 予習復習の内容 | テキストの関連部分を読んでおく。 | | |
| 6回 | 授業内容 | 子どもの生活や遊びを支える環境の構成 | |
| | 学習成果 | 事例場面の環境構成の意味について述べる事ができる。 | |
| 予習復習の内容 | 3歳未満児の発達の特性を確認しておく。 | | |
| 7回 | 授業内容 | 0歳児の発育・発達を踏まえた生活や遊びの援助の実際 | |
| | 学習成果 | 0歳児の発達過程を理解した玩具や環境について説明ができる | |
| 予習復習の内容 | おおむね0歳児の発達過程の理解。 | | |
| 8回 | 授業内容 | 1歳児の発育・発達を踏まえた生活や遊びの援助の実際 | |
| | 学習成果 | 1歳児の発達過程を理解した玩具や環境について説明ができる | |
| 予習復習の内容 | おおむね1歳児の発達過程の理解。 | | |
| 9回 | 授業内容 | 2歳児の発育・発達を踏まえた生活や遊びの援助の実際 | |
| | 学習成果 | 2歳児の発達過程を理解した玩具や環境について説明ができる | |
| 予習復習の内容 | おおむね2歳児の発達過程の理解。 | | |
| 10回 | 授業内容 | 乳児保育における配慮の実際 | |
| | 学習成果 | 調乳やおんぶについて実践ができる。 | |
| 予習復習の内容 | 3歳未満児の発達の特性を確認しておく。 | | |
| 11回 | 授業内容 | 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 | |
| | 学習成果 | わらわらた遊びやふれあい遊びの技術を習得し実践できる。 | |
| 予習復習の内容 | 発達過程に応じたふれあい遊びを調べておく。 | | |
| 12回 | 授業内容 | 集団での生活における配慮、環境の変化や移行に対する配慮 | |
| | 学習成果 | 最低基準の職員数について説明できる。 | |
| 予習復習の内容 | 児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を理解しておく。 | | |
| 13回 | 授業内容 | 乳児保育における計画の実際 | |
| | 学習成果 | 保育目標を考慮した保育のねらいを立てることができる。 | |
| 予習復習の内容 | 計画の意義について復習しておく。 | | |
| 14回 | 授業内容 | 長期的な指導計画と短期的な指導計画 | |
| | 学習成果 | 保育目標を考慮した保育のねらいを立てることができる。 | |
| 予習復習の内容 | 長期計画と短期計画の特徴についてまとめる。 | | |
| 15回 | 授業内容 | 個別的な指導計画と集団の指導計画 | |
| | 学習成果 | 事例の子ども発達を考慮した個別計画の一部を立案できる。 | |
| 予習復習の内容 | 3つの視点や5領域とのつながりをまとめておく。 | | |

| 科目名 | 特別支援教育・保育概論 | | | | 担当者 | 川崎聡大 | | | | | | |
|-------------------------------------|---|---|---|---|-----|------|------|----|--------|----|-----|----|
| 区分 | 必修 | 2 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業形態 | 演習 | 学年 | 1年 | 開講期 | 後期 |
| 授業時間数 | | | | 30 | 時間 | | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | | 質問や要望等については、授業の前後で受け付ける。 | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 保育の場における特別な配慮、支援の多様性について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 保育の場では出会う特別な配慮を必要とする子ども（発達障がいを含む）の発達特徴・発達過程について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 発達課題に応じた個別の支援計画を立案するための基礎的な知識を有し、計画の策定ができる。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | 個別の支援計画を実行するための連携による保育の展開方法について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 特別な支援を要する子どもへの教育の必要性について理解し、実践において必要な知識や理論について自ら学び得た内容について説明、報告することができる。（専門的学習成果①②③に関連） | | | | | | | | | | |
| | (2) | 専門職としての協働的な役割について理解し、自ら積極的に参加することができ、将来に向かい学びつづけるための研究心が養われ、学びに向かい探求することができる。（専門的学習成果②③④に関連） | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 保育の場では出会う特別な配慮を必要とする子どもが保育の場で豊かに生活できるように、様々な面から子どもを支援していくことは保育者の専門性のひとつである。そこで、特別な配慮を必要とする子どもの特徴や困難さについて概説し、そこから発達ニーズに応じた発達支援、援助のあり方について考察していく。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | 70 | 全15回分の授業内容の理解について筆記試験を行い評価する。 | | | | | | | | |
| | | レポート | | | | | | | | | | |
| | | 中間ミニレポート | 30 | 授業内容の重点部分について理解されているか、レポートの記述内容により評価する。 | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) は専門的学習成果①②③にて評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④にて評価を行う。 | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | |
| | 本郷一夫編著 | | 『障害児保育』 | | | | | | 建帛社 | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | |
| | 文部科学省 | | 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示） | | | | | | フレーベル館 | | | |
| | 厚生労働省 | | 『保育所保育指針』（平成29年3月告示） | | | | | | フレーベル館 | | | |
| | 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）（解説書、関連図書含む） | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | | ①この科目の時間外学習（60時間）として事前にテキストを読み授業に参加する事前学習と、講義内容について関連領域について習熟を深める事後学習を行うこと。 ②講義内で提示される課題への取り組みも時間外学習に含まれ、課題へのフィードバックは講義内に行う。 | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|------|---------|---------------------------------------|---------|
| 1回 | 授業内容 | 保育の場では出会う特別な配慮を必要とする子どもの保育と現代的課題 | |
| | 学習成果 | 配慮を必要とする子どもとその現状について説明できる。 | |
| 2回 | 予習復習の内容 | 授業資料やノートを基に復習を行う | |
| | 授業内容 | 特別な配慮を必要とする子どもの生涯発達の理解と保育 | |
| 3回 | 学習成果 | 気になる子どもの生涯発達について説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 授業資料やノートを基に復習を行う | |
| 4回 | 授業内容 | 子どもの障がいと保育①視覚障がい・聴覚障がい | |
| | 学習成果 | 感覚器の障害とその特徴を知り、適切な保育活動実践の基礎について説明できる。 | |
| 5回 | 予習復習の内容 | 授業資料やノートを基に復習を行う | |
| | 授業内容 | 子どもの障がいと保育②知的障がい | |
| 6回 | 学習成果 | 知的障害とその特徴を知り、適切な保育活動実践の基礎について説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 授業資料やノートを基に復習を行う | |
| 7回 | 授業内容 | 子どもの障がいと保育③自閉スペクトラム症 | |
| | 学習成果 | 自閉スペクトラム症について症候・背景・特徴について説明できる。 | |
| 8回 | 予習復習の内容 | 授業資料やノートを基に復習を行う | |
| | 授業内容 | 子どもの障がいと保育④ADHD・LD | |
| 9回 | 学習成果 | ADHD・LDについて症候・背景・特徴について説明できる。（行動面中心） | |
| | 予習復習の内容 | 授業資料やノートを基に復習を行う | |
| 10回 | 授業内容 | 子どもの障がいと保育⑤肢体不自由 | |
| | 学習成果 | 脳性まひをはじめとする肢体不自由について説明できる。 | |
| 11回 | 予習復習の内容 | 授業資料やノートを基に復習を行う | |
| | 授業内容 | 子どもの障がいと保育⑥重症心身障がい児、医療的ケア児の理解と援助 | |
| 12回 | 学習成果 | 重症心身障害とは何か学習を深め発達援助につながる支援について説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 授業資料やノートを基に復習を行う | |
| 13回 | 授業内容 | 子どもの障がいと保育⑦その他の特別な配慮を必要とする子どもの保育の実際 | |
| | 学習成果 | さまざまな「気になる子ども」について広く保育の方向性を知り、説明できる。 | |
| 14回 | 予習復習の内容 | 授業資料やノートを基に復習を行う | |
| | 授業内容 | インクルーシブとユニバーサルデザイン | |
| 15回 | 学習成果 | ユニバーサルデザインの観点に立った保育とは何か事例を検証できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 授業資料やノートを基に復習を行う | |
| 16回 | 授業内容 | 発達理解の理論と方法 | |
| | 学習成果 | 様々な発達支援の方法について障害別に説明することができる。 | |
| 17回 | 予習復習の内容 | 授業資料やノートを基に復習を行う。さらに実践的なワークを通じて理解を深める | |
| | 授業内容 | 発達理解と個別の支援計画 | |
| 18回 | 学習成果 | 様々な発達支援の方法について障害別に検証することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 授業資料やノートを基に復習を行う。さらに実践的なワークを通じて理解を深める | |
| 19回 | 授業内容 | 関連機関との連携による発達支援 | |
| | 学習成果 | 関連機関や専門家との連携の方法について事例を通じて検討できる。 | |
| 20回 | 予習復習の内容 | 授業資料やノートを基に復習を行う | |
| | 授業内容 | 保護者理解と保護者支援 | |
| 21回 | 学習成果 | 保護者理解と保護者支援のあり方について事例を通じて検討できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 授業資料やノートを基に復習を行う。さらに実践的なワークを通じて理解を深める | |
| 22回 | 授業内容 | まとめ | |
| | 学習成果 | 授業全体を通じた「つながり」をイメージし、報告することができる。 | |
| 23回 | 予習復習の内容 | 授業資料やノートを基に復習を行う | |

| 科目名 | 保育実習指導ⅠA（1年） | | | | 担当者 | 佐々木 貴弘 ・ 中島 恵 ・ 岩淵 慎子 | | | | | | | |
|-------------------------------------|---|--|-------|---|-----|-----------------------|------|----|----|----|-----|--------|--|
| 区分 | 必修 | 1単位 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業形態 | 演習 | 学年 | 1年 | 開講期 | 通年 | |
| 授業時間数 | 30時間 | | | | | | | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | 授業内で指示する。 | | | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 保育実習の意義・目的を理解できる。 | | | | | | | | | | | |
| | ② | 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にできる。 | | | | | | | | | | | |
| | ③ | 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解できる。 | | | | | | | | | | | |
| | ④ | 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解できる。 | | | | | | | | | | | |
| | ⑤ | 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にできる。 | | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 保育士の役割を理解し、保育現場における必要な基礎的知識・技能を身につけることができる。（専門的学習成果①②に関連） | | | | | | | | | | | |
| | (2) | 子どもの発達や成長や発達段階に関する理解を深め、実習で学んだことを観察記録に記すことができる（専門的学習成果③④に関連） | | | | | | | | | | | |
| | (3) | 保育所や福祉施設の実際を知り、観察実習の自己評価を行い、課題を基に二年次の本実習に活かすことができる（専門的学習成果④⑤に関連） | | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 保育実習を行うにあたって必要とされる知識、技術を獲得する。また、保育実習の意義と目的を理解し、課題を明確にすることで、意欲的に実習に臨む姿勢を身につける。実習後の振り返りによる学びの整理と自己評価から、課題を明確化し新たな学習目標を立てる。 | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合（%） | 評価方法・基準 | | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | | | | | | | | | | | |
| | | レポート | 30 | 事前事後指導における、各種提出物（事前学習、提出書類、観察実習、自己評価、報告書など）にて総合的に評価する。 | | | | | | | | | |
| | | 実習評価 | 30 | 学外実習（保育所・施設観察実習を中心として）における、巡回指導報告、並びに、実習先からの外部評価にて総合的に評価する。 | | | | | | | | | |
| | | 実習日誌等総合評価 | 40 | 事前事後指導、事前学習、観察実習などへの取り組み、実習時の実習日誌内容などを総合的に評価する。 | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果（1）（2）（3）については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 （1）は専門的学習成果①②により評価を行う。 （2）は専門的学習成果③④により評価を行う。 （3）は専門的学習成果④⑤により評価を行う。 | | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | | | | | | | 出版社名 | |
| | 聖和学園短期大学保育学科 | 『教育・保育実習ガイドブック』 | | | | | | | | | | | |
| | 宮城県保育実習連絡協議会編 | 『保育実習の手引き』 | | | | | | | | | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | | | | | | | 出版社名 | |
| | 厚生労働省 | 『保育所保育指針』 | | | | | | | | | | フレーベル館 | |
| | 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 | | | | | | | | | | フレーベル館 | |
| | | (解説書、関連図書含む) | | | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | ①この科目では時間外学習として、保育所保育指針の内容をよく理解しておくこと。また、ガイダンス内で示される指導案の作成等の課題に取り組むこと。 ②提出された課題は適宜フィードバックを実施する。それを基に教材研究など自主的に学びを発展させるようにすること。 | | | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 | |
|------|---------|--|---------|---|
| 1回 | 授業内容 | 保育所実習ⅠAの意義と目的 | | 調書、諸手続きの書類の体裁。観察記録や日誌について、子どもの様子だけでなく、保育者の援助の実際や学生自身の考察も含めて記入されているか。 |
| | 学習成果 | 保育所実習ⅠAの事前事後指導の進行について、概要を理解し、授業の進め方について説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、保育所実習の意義と目的について理解し、保育実習に向けた学習目標を考える。 | | |
| 2回 | 授業内容 | 保育所保育の実際 | | |
| | 学習成果 | 保育所で勤務する保育所保育士について、職務内容や役割について理解し、実習の目標を立て、記すことができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、保育現場への関心を高め、保育の仕事に関する事前学習につなげる。 | | |
| 3回 | 授業内容 | 保育所実習Ⅰの実習日誌の意義と記録方法 | | |
| | 学習成果 | 実習記録を記す意義を考え、その記述方法について具体的に学び、理解することで、日誌作成をすることができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、観察の視点を確認し、観察記録を記すための文章力、語彙力を向上させる。 | | |
| 4回 | 授業内容 | 保育所実習ⅠAの方法の理解 | | 希望調査書を正しく記すことができる。各種予防接種や検査などに関して、受診の仕方、検体の提出の仕方などを確認する。 |
| | 学習成果 | 保育実習先の選び方について確認し、希望調査書など、提出書類の記入の仕方について理解し実際に、正しく記すことができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、保育実習に関する事前学習を進めながら、文書作成や手続きなどをしっかり行う。 | | |
| 5回 | 授業内容 | 保育所実習ⅠAの実習目標の課題と明確化 | | 実習目標を立て課題を明記することができる。 |
| | 学習成果 | 保育所実習（観察実習を中心に）、学外実習に向けた実習目標を踏まえ、各実習先に関する課題を立て、示すことができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、実習マナーの確認や、実習に相応しい服装（名札）などを整える。 | | |
| 6回 | 授業内容 | 保育士倫理の理解および保育所実習の心構えと留意事項 | | 倫理についてのワークシートによる評価。 |
| | 学習成果 | 保育所職員に求められる専門性や人間性について理解し、保育職を目指す実習生としての自覚を深め、行動することができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、求められる保育者像に向けて、常に挨拶やマナーを意識した生活をするよう心掛ける。 | | |
| 7回 | 授業内容 | 保育所実習ⅠAの振り返りと自己評価 | | 保育所実習に関する総括。レポートの体裁、文脈、内容で評価を行う。 |
| | 学習成果 | 保育所実習に関するガイダンス全体を振り返り、自己評価を行いレポートできる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、今後の保育所実習への課題を再確認し、二年次の本実習につなげる。 | | |
| 8回 | 授業内容 | 施設実習の意義と目的 | | ・事前指導における、各種提出物（事前学習課題、実習課題、レポート等）で総合的に評価する。 ・施設観察実習・施設見学Ⅰ・Ⅱにおける、実習施設による評価、自己評価、専任教員の評価で総合的に評価する。 ・事前指導、事前学習等への取り組みなどを総合的に評価する。 |
| | 学習成果 | 福祉施設で勤務する施設保育士について、職務内容や役割について理解し、実習目標を考えることができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 保育士資格取得において施設実習が必要とされた歴史的背景と施設実習の意義、目的について理解しておく。 | | |
| 9回 | 授業内容 | 施設実習における留意点：守秘義務 | | |
| | 学習成果 | 人権とプライバシーの保護、守秘義務について理解し、実践できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 全国保育士会倫理綱領を読み、職業倫理と守秘義務について説明できるようにしておく。 | | |
| 10回 | 授業内容 | 施設観察実習の役割と機能 | | |
| | 学習成果 | 児童発達支援センターの法的根拠、機能と役割について理解し、説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 児童福祉法、障害者総合支援法等を読み、実習施設の機能と役割、利用する子どもの特徴を理解しておく。 | | |
| 11回 | 授業内容 | 施設観察実習の課題の明確化 | | |
| | 学習成果 | 児童発達支援センターの機能と役割、利用する子どもの障害について理解し、実習の課題を明確にできる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 発達障害について理解し、施設で行われる活動や援助を踏まえて課題を設定できるようにしておく。 | | |
| 12回 | 授業内容 | 施設見学Ⅰ・Ⅱの意義と目的 | | |
| | 学習成果 | 福祉型障害児入所施設と特別支援教育の関連性、児童養護施設について理解し、見学の意義と目的について説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 福祉型障害児入所施設と特別支援教育、児童養護施設について理解し、説明できるようにしておく。 | | |
| 13回 | 授業内容 | 施設見学Ⅰ・Ⅱの課題の明確化 | | |
| | 学習成果 | 課題を明確にする意義を理解し、課題の設定の観点・方法を理解し、実践につなげることができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 見学の意義を考え、見学施設・学校の理解を踏まえて課題を設定できるよう整理しておく。 | | |
| 14回 | 授業内容 | 施設観察実習の振り返り | | ・事後指導における、各種提出物（事後学習課題、実習課題、レポート等）で総合的に評価する。 ・事後指導、事後学習等への取り組みなどを総合的に評価する。 |
| | 学習成果 | 施設観察実習の学びを共有し、自己評価を通して課題を明確化し、実践にいかすことができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | グループで学びを共有し深める。自己評価を通して課題を明確にしておく。 | | |
| 15回 | 授業内容 | 施設見学Ⅰ・Ⅱの振り返り | | |
| | 学習成果 | 施設見学Ⅰ・Ⅱの学びを共有し、自己評価を通して課題を明確化し、実践にいかすことができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | グループで学びを共有し深める。自己評価を通して新たな課題を明確にしておく。 | | |

| 科目名 | 保育内容の理解と方法 | | | | 担当者 | 小野真喜子（実務家教員） | | | | | | |
|-------------------------------------|---|--|---------------------------------|---|-----|--------------|------|----|------|----|-----|----|
| 区分 | 必修 | 2 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業形態 | 演習 | 学年 | 1年 | 開講期 | 後期 |
| | | | | 授業時間数 | 30 | 時間 | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | | オフィスアワー及び e-mail:ono.makiko@seiwa.ac.jp オフィスアワーは初回の授業時に連絡する | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 幼稚園、保育園、認定子ども園の保育の流れについて子どもの発達段階をもとに理解する。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 子どもの心身発達、気持ちを理解し評価することが出来る。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 保育観に基づいた、子ども達への働きかけ、言葉かけ、興味づけなどを具体的に理解する。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 保育者に必要とされる保育指導方法の具体的な方法を理解して実践につなげることが出来る。（専門的学習成果①に関連） | | | | | | | | | | |
| | (2) | 保育者として豊かな感性や想像力をもって子ども達と関わり、子どもの理解や支援が出来る。（専門的学習成果②に関連） | | | | | | | | | | |
| | (3) | 保育者として必要なコミュニケーション能力を有し、自ら主体的に保育に関ると共に常に課題意識を持って保育指導法のあり方を考える。（専門的学習成果③に関連） | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 保育者の大きな役割は、子どもの発達段階や個々の気持ちに応じながら、より良い方向へ導いていくことである。その為には、子どもを知ること、理解を深めること、そして保育者自身がしっかりとした保育観を持って子ども達と接することが大切である。そこで、どのような働きかけ、言葉かけ、興味付け、援助のもとで喜びや楽しさ、充実感が味わえるのかを授業の中で、講義と実務経験をもとにした具体的な事例検討の両面から理解する。その理解の基に実際の保育現場における指導のあり方を考え、実践につなげられるようにする。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | | | | | | | | | | |
| | | レポート | 20 | 保育の流れの理解と日常の幼児の気持ちの理解、及び、保育への導入方法、指導法を理解しているかを観点として評価を行う。 | | | | | | | | |
| | | レポート | 20 | 実際の保育で行われる折り紙、描画指導、紙粘土製作などを通しての指導法について理解できているかを観点として評価する。 | | | | | | | | |
| | | 最終レポート | 60 | 保育観に基づいて、どのような働きかけ、言葉掛け、興味付け、援助が必要か理解できているかを観点に評価する。 | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果の①で評価を行う (2) は専門的学習成果の②で評価を行う (3) は専門的学習成果の③で評価を行う | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | |
| | 厚生労働省 | | 『保育所保育指針』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | |
| | 厚生労働省 | | 『保育所保育指針解説』 | | | | | | | | | |
| | 文部科学省 | | 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | |
| | 文部科学省 | | 『幼稚園教育要領解説』 | | | | | | | | | |
| | 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示） | | | | | | | | | |
| | 佐藤 哲也 編 | | 『子どもの心によりそう保育課程論』 | | | | | | 福村出版 | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | | ①毎回配布する資料、視聴覚資料を活用し授業を進める。事前事後学習として授業理解の為配布資料を読み返しておくこと。（予習週2時間程度）。事後学習としては毎回の授業後に学んだことの要点をミニレポートにまとめて提出する。その内容を評価の対象とするので毎回しっかりとまとめて提出すること。 ②毎回のレポートに対するフィードバックは毎回の授業で解説を行う。 | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|------|---------|---|---------|
| 1回 | 授業内容 | 「保育内容の理解と方法」の授業のねらいと目標について。 | |
| | 学習成果 | 「保育内容の理解と方法」の授業のねらいと目標について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | シラバスを事前に読みその内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。 | |
| 2回 | 授業内容 | 導入の大切さ・幼児の心を読み取る。 | |
| | 学習成果 | 保育における導入の大切さと、幼児の気持ちを読み取り方について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 授業内容についてミニレポートにまとめることと、日常出会う幼児の気持ちについて考えてみる。 | |
| 3回 | 授業内容 | 生活の流れについて① 新しい環境へ迎え入れるときの配慮。 | |
| | 学習成果 | 幼稚園と保育所の生活の流れについて理解すると共に受け入れる側の配慮について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 授業内容についてミニレポートにまとめることと、子どもを新しい環境に迎え入れる配慮について自分自身で考えてみる。 | |
| 4回 | 授業内容 | 生活の流れについて② 園生活の流れと指導の方法。 | |
| | 学習成果 | 幼稚園と保育所の生活の流れを理解すると共にその指導方法について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 授業内容についてのミニレポートと、日常出会う幼児の気持ちについて考えてみる。 | |
| 5回 | 授業内容 | 絵本・詩の世界について 絵本の読み方、詩の伝え方。 | |
| | 学習成果 | 絵本・詩の世界について知り実際の絵本の読み方、詩の伝え方を理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 配布プリントによる授業の復習と実際に絵本の読み聞かせと詩の暗誦をする。 | |
| 6回 | 授業内容 | 幼児の描画・製作の指導について。 | |
| | 学習成果 | 幼児の描画を見てその成長の様子を理解すると共にそ製作過程と指導のあり方について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 授業の復習とミニレポートのまとめをして製作過程における指導のあり方について自分自身考えてみる。 | |
| 7回 | 授業内容 | 折り紙の指導① 基本的折り方の指導法。 | |
| | 学習成果 | 折り紙の基本的な折り方の順序とその指導法について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 授業の復習とミニレポートのまとめと折り紙で自分自身が作成し、その指導法を実践する。 | |
| 8回 | 授業内容 | 折り紙の指導② 応用方法の指導方法。 | |
| | 学習成果 | 折り紙の基本を踏まえた上での応用の指導法について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 授業の復習とミニレポートのまとめと折り紙の応用方法を自分自身で指導法を考える。 | |
| 9回 | 授業内容 | 指人形製作指導① 紙粘土の扱い方と創作の指導方法 | |
| | 学習成果 | 指人形製作における保育者の準備と指導方法の実際と紙粘土の扱い方を体験し、指導方法を理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 紙粘土による製作に限らず、保育者の事前準備についてミニレポートにまとめる。 | |
| 10回 | 授業内容 | 指人形製作指導② 指人形の制作方法及指導法。 | |
| | 学習成果 | 指人形の製作過程での保育者の配慮について自分自身が製作することで理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 指人形の製作過程における保育者の配慮と自身の制作過程においての学びを整理する。 | |
| 11回 | 授業内容 | 製作した人形を用いての詩のグループ発表会。 | |
| | 学習成果 | 自身で製作した人形を用いて幼児に向けた詩の発表をグループで発表し幼児への詩の伝え方を理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 実際の発表体験を通して感じたことをミニレポートにまとめ課題を持って今後の保育指導法を考える。 | |
| 12回 | 授業内容 | 人間関係と遊びの援助 「わらべうたあそびを通して①」 保育者との関係を中心に | |
| | 学習成果 | 段階をふんだわらべうたの指導方法について今回は担任との関係を育むことについて理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 授業で行った内容をミニレポートにまとめると共に行ったわらべうたを何度も歌って自身のものにする。 | |
| 13回 | 授業内容 | 人間関係と遊びの援助「わらべうたあそびをととして②」 同年齢同士の関係を中心に。 | |
| | 学習成果 | 段階をふんだわらべうたの指導方法について同年齢の関係を中心とした段階について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 授業で行った内容をミニレポートにまとめると共に行ったわらべうたを何度も歌って自身のものにする。 | |
| 14回 | 授業内容 | 人間関係と遊びの援助③ 異年齢との関係を中心に | |
| | 学習成果 | 段階をふんだわらべうたの指導法について、異年齢の友だちとの関係をふまえた指導法について理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | 授業で行った内容をミニレポートにまとめると共に行ったわらべうたを何度も歌い自身のものにする。 | |
| 15回 | 授業内容 | まとめ（レポート） | |
| | 学習成果 | 14回の授業を振り返って自身の保育観と保育指導方法について理解したことを文章にまとめる。 | |
| | 予習復習の内容 | 14回のレポートを振り返り自身の保育観と指導方法について文章にまとめることで自身のものとする。 | |

| 科目名 | ピアノ I | | | | 担当者 | サ トウ マ リ コ ・ イ フ ブ ナ セ ッ コ 佐 藤 万 利 子 ・ 岩 淵 祺 子 他 | | | | | | |
|-----|-------|---|----|-------|-----|---|------|----|----|----|-----|----|
| 区 分 | 必修 | 1 | 単位 | 授業回数 | 30 | 回 | 授業形態 | 演習 | 学年 | 1年 | 開講期 | 通年 |
| | | | | 授業時間数 | 45 | 時間 | | | | | | |

| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | sato.mariko@seiwa.ac.jp, iwabuchi.setsuko@seiwa.ac.jp 初回授業時に各担当教員に確認すること。 |
|----------------------|--|
|----------------------|--|

| 専門的 学習成果 | ① | 基礎的なピアノのテクニックを習得し、人前での演奏を実践できる。 |
|-------------|---|---|
| | ② | 初見視奏、コード奏法など保育現場で応用できるピアノ独奏及び伴奏技能を高め、実践できる。 |
| | ③ | 基本的な音楽理論を理解し、五線譜の読譜ができる。 |
| | ④ | ピアノによる子どもの歌の弾き歌いの技能を習得し、実践できる。 |

| 汎用的 学習成果 | (1) | 五線譜の読譜力を高め、基礎的なピアノのテクニックを身につけることによって、保育現場で必要とされるピアノ演奏技能を習得し、実践できる。(専門的学習成果①③に関連) |
|-------------|-----|--|
| | (2) | 初見視奏やコード奏法などの応用力を身につけ、豊かな表現力をもってピアノを演奏できる。(専門的学習成果①②に関連) |
| | (3) | 挨拶の歌、季節の歌や行事の歌など様々な場面で用いられる子どもの歌の弾き歌いを行い、保育現場での実践につなげることができる。(専門的学習成果②④に関連) |
| | (4) | レッスンや試験で弾くことにより人前で演奏する時の態度・マナーを身につけ、地域社会で活用することができる。専門的学習成果①に関連) |

| 授業概要 | 主としてピアノの個人レッスンをを行う。初心者には五線譜の読譜力を高めながらピアノの基礎的なテクニックを習得し、子どもの歌の弾き歌いにも慣れるようにする。経験者はそれぞれのテクニックをさらに向上させ、子どもの歌の弾き歌いを数多く習得し、保育現場で実際に役立つような応用力を身につける。教材として、ピアノの基礎テクニック向上のための練習曲や、様々な雰囲気をもつピアノ曲、挨拶の歌、季節の歌、行事の歌など保育の現場で用いられている様々な子どもの歌を取り上げる。一人当たりのレッスン時間は20分である。 |
|------|---|
|------|---|

| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 |
|-------------|--|------|---------------------------------|--------------------------------|
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | 50 | 前期末及び後期末に演奏試験を行い、全担当教員により評価する。 |
| | | レポート | | |
| | 平常点 | 50 | レッスンへの取り組み・意欲・態度により各担当教員が評価を行う。 | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果 (1) (2) (3) (4) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②により評価を行う。 (3) は専門的学習成果②④により評価を行う。 (4) は専門的学習成果①により評価を行う。 | | | |

| テキスト 等 | 著者・編集者名 | 書名 | 出版社名 |
|-----------|--------------|-------------|--------|
| | 小林美実監修・井戸和秀編 | 『こどものうた100』 | チャイルド社 |

| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | 書名 | 出版社名 |
|-------------|-------------|--------------------------------|-------|
| | 安川加寿子訳編 | 『メトードローズ・ピアノ教則本』 | 音楽之友社 |
| | 木村鈴代他共著 | 『これだけは知ってほしい楽典 はじめの一步』 | カワイ出版 |
| | 全国大学音楽教育学会編 | 『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌—唱歌童謡140年の歩み』 | 音楽之友社 |

| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | ①音楽に関わる基本的な技能の上達は、毎日の反復練習と各自の熱意が大切となる。予習復習を含めて毎日30分程度はピアノに触れて練習を行う。練習の継続が基礎的なテクニックの習得につながる。音楽を楽しむ、より高い音楽的能力を身につけるよう練習に励む。 ②半期終了時に、担当教員によるレッスン指導内容とアドバイス、試験における演奏内容の評価と講評によりフィードバックを行う。 |
|-------------------------------------|---|
|-------------------------------------|---|

| 授業計画 | | 学習成果の評価 | 授業計画 | 学習成果の評価 | | |
|------|---------|--|------|---------|---|--|
| 1回 | 授業内容 | レベルチェック、各自のテキスト・課題の提示。ピアノを弾くための基礎、読譜の基礎。 | 16回 | 授業内容 | 後期オリエンテーション。仏教保育の歌を歌う。後期課題を明確にする。課題曲の指使いを確認する。 | ○仏教保育の歌を歌えているか。 ○レッスンの記録に授業内容を的確にまとめて書いているか。 |
| | 学習成果 | ピアノを弾くための良い姿勢と手の形を保つことができる。指番号、五線譜と鍵盤の位置関係を理解し、レッスンの記録にまとめることができる。 | | 学習成果 | 仏教保育の歌を知り、歌える。レッスン内容を記録にまとめることができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 各自、提示された課題を練習する。練習の記録をつける。 | | 予習復習の内容 | 仏教保育の歌を歌う。レッスン内容を振り返り、指使いに気を付けて練習する。 | |
| 2回 | 授業内容 | 5本指の基本ポジションで隣り合った音をユニゾンで弾く。ト音譜表の理解。四分音符と二分音符、全音符の長さの理解。 | 17回 | 授業内容 | コード奏の基礎（ハ長調 I V V ）、仏教保育の歌：お胸をはりましょう | ○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、レッスンの記録に授業内容を的確にまとめて書いているか。 |
| | 学習成果 | ト音譜表がゆっくり読める。基本のポジションで両手で弾くことができる。音符の長さの違いを弾き分けることができる。授業内容を記録にまとめることができる。 | | 学習成果 | ハ長調の旋律に I V V の和音で伴奏をつけることができる。お胸をはりましょうをコード奏できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。 | |
| | 予習復習の内容 | レッスン内容を振り返り、各自の課題を練習する。練習の記録をつける。 | | 予習復習の内容 | レッスン内容を振り返り、コード奏と仏教保育の歌を練習する。練習の記録をつける。 | |
| 3回 | 授業内容 | 基本ポジションで跳躍音程を弾く。ハ音譜表の理解。 | 18回 | 授業内容 | コード奏の基礎（ハ長調 I V V V 7） 仏教保育の歌：おはようのうた | ○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、レッスンの記録に授業内容を的確にまとめて書いているか。 |
| | 学習成果 | ハ音譜表がゆっくり読める。跳躍音程を弾くことができる。学習した音符の長さを正しく表現できる。 | | 学習成果 | ハ長調の V 7 を理解し、演奏できる。おはようのうたを歌詞や曲想を生かして弾き歌いできる。レッスン内容を記録にまとめることができる。 | |
| | 予習復習の内容 | レッスン内容を振り返り、各自の課題を練習する。音符の長さをまとめる。練習の記録をつける。 | | 予習復習の内容 | コード奏を復習する。おべんとうのうたをテンポに気を付けて練習する。練習の記録をつける。 | |
| 4回 | 授業内容 | 大譜表の読譜。両手で異なる動きの楽曲を弾く。脱力して弾く。 | 19回 | 授業内容 | コード奏の基礎（ハ長調 I V V V 7）、仏教保育の歌：熱想の曲 | ○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、レッスンの記録に授業内容を的確にまとめて書いているか。 |
| | 学習成果 | 両手で異なる動きの楽曲を弾くことができる。脱力して弾くことができる。 | | 学習成果 | ハ長調の旋律にコードで伴奏をつける。熱想の曲を正しい指使いで弾くことができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。 | |
| | 予習復習の内容 | レッスン内容を振り返り、各自の課題を練習する。練習の記録をつける。 | | 予習復習の内容 | 熱想の曲をベダルをつけて音が濁らないように練習する。練習の記録をつける。 | |
| 5回 | 授業内容 | 楽譜上の記号（スラー、繰り返しなど）を生かして弾く。春の歌：ちょうちょう、ぶんぶんぶん | 20回 | 授業内容 | コード奏の基礎（ハ長調 I V V V 7）、仏教保育の歌：熱想の曲を完成させる。 | ○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、レッスンの記録に授業内容を的確にまとめて書いているか。 |
| | 学習成果 | スラーの意味を理解し、スラーを生かしてピアノで表現できる。繰り返し記号の意味を説明できる。 | | 学習成果 | ハ長調の旋律にコードで伴奏をつける。熱想の曲をベダルを用いて弾くことができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 楽譜上の記号の意味を復習する。レッスン内容を振り返り、各自の課題を練習する。練習の記録をつける。 | | 予習復習の内容 | 熱想の曲をベダルをつけて音が濁らないように練習する。練習の記録をつける。 | |
| 6回 | 授業内容 | 指を拡げて弾く。春の歌：チューリップ、とけいのうた他 | 21回 | 授業内容 | コード奏の基礎（ハ長調 I V V V 7）、仏教保育の歌：おかえりのうた | ○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、レッスンの記録に授業内容を的確にまとめて書いているか。 |
| | 学習成果 | 5度より広い音程を楽譜で認識し、弾くことができる。課題の春の歌を弾き歌いできる。 | | 学習成果 | ハ長調の曲にコードで伴奏をつけることができる。おかえりのうたの付点リズムに注意し正しい指使いで弾くことができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。 | |
| | 予習復習の内容 | レッスン内容を振り返り、各自の課題を練習する。練習の記録をつける。 | | 予習復習の内容 | おかえりのうたの付点リズムに注意してゆくり練習する。練習の記録をつける。 | |
| 7回 | 授業内容 | 楽譜上の記号（D.C.）、付点音符の長さの理解。表題から曲想を考えて弾く。 | 22回 | 授業内容 | コード奏のまとめ、仏教保育の歌：おかえりのうた | ○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、レッスンの記録に授業内容を的確にまとめて書いているか。 |
| | 学習成果 | D.C.の呼び方、意味を理解し説明できる。付点音符の長さを理解し説明できる。 | | 学習成果 | 曲の調性に応じてコード伴奏をつけることができる。おかえりのうたを両手で正しいリズムと指使いで弾くことができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。 | |
| | 予習復習の内容 | レッスン内容を振り返り、各自の課題を練習する。練習の記録をつける。 | | 予習復習の内容 | おかえりのうたの付点リズムに注意し、両手で弾く練習をする。練習の記録をつける。 | |
| 8回 | 授業内容 | 変化記号（シャープ、フラット、ナチュラル）の理解。ト長調、ニ長調の楽曲。夏の歌：はみがきまじょう、うみ | 23回 | 授業内容 | 仏教保育の歌：おかえりのうたを完成させる。いろいろなうた：いぬのおまわりさん | ○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、レッスンの記録に授業内容を的確にまとめて書いているか。 |
| | 学習成果 | 変化記号の意味を理解し、ト長調、ニ長調の楽曲をピアノで演奏できる。 | | 学習成果 | おかえりのうたを明るくはむむように弾き歌いできる。レッスン内容を記録にまとめることができる。 | |
| | 予習復習の内容 | レッスン内容を振り返り、各自の課題を練習する。練習の記録をつける。 | | 予習復習の内容 | 仏教保育の歌を復習する。練習の記録をつける。 | |
| 9回 | 授業内容 | 休符（全休符、二分休符、四分休符）の練習。問いと答えの形の理解。夏の歌：ありさんのおはなし | 24回 | 授業内容 | 冬の歌：お正月 いろいろなうた：ぞうさん | ○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、レッスンの記録に授業内容を的確にまとめて書いているか。 |
| | 学習成果 | 休符の長さを理解し、説明できる。問いと答えの形式を理解し、ピアノで表現できる。 | | 学習成果 | 季節感をもって弾き歌いができる。レッスンの内容を記録にまとめることができる。 | |
| | 予習復習の内容 | レッスン内容を振り返り、各自の課題を練習する。練習の記録をつける。 | | 予習復習の内容 | お正月、ぞうさんを復習する。練習の記録をつける。 | |
| 10回 | 授業内容 | 八分音符の練習。楽譜上の記号（タイ）の理解。ハ長調の理解。前期試験の選曲。 | 25回 | 授業内容 | 冬の歌：雪 いろいろなうた：うちゅうせんのうた | ○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、レッスンの記録に授業内容を的確にまとめて書いているか。 |
| | 学習成果 | 八分音符、タイを理解し、説明できる。ハ長調の楽曲をピアノで演奏できる。 | | 学習成果 | 雪のリズムを正しく表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。 | |
| | 予習復習の内容 | レッスン内容を振り返り、各自の課題を練習する。練習の記録をつける。 | | 予習復習の内容 | 雪、うちゅうせんのうたを復習する。 | |
| 11回 | 授業内容 | 指の独立。各自の前期試験曲のレッスン。秋の歌：まつぼっくり、やまのおんがくか | 26回 | 授業内容 | 後期試験曲の選曲。冬の歌：あわてんぼうのサンタクロース | ○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、レッスンの記録に授業内容を的確にまとめて書いているか。 |
| | 学習成果 | 試験曲のテンポ、曲想などを理解し、適正な指使いが分かる。課題の秋の歌を弾き歌いできる。 | | 学習成果 | 積極的に選曲にかかわる。あわてんぼうのサンタクロースを歌詞を生かして表現できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 試験曲のテンポ、曲想などを理解して、適正な指使いで練習する。練習の記録をつける。 | | 予習復習の内容 | 後期試験曲の講読み。練習の記録をつける。 | |
| 12回 | 授業内容 | 各自の試験曲のレッスン。秋の歌：まっかな秋 | 27回 | 授業内容 | 後期試験曲を歌い、正しい指使いを確認する。いろいろなうた：アイアイ | ○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、レッスンの記録に授業内容を的確にまとめて書いているか。 |
| | 学習成果 | 拍子感をもって、正しいリズムで表現できる。 | | 学習成果 | 試験曲を歌い、正しい指使いで片手で弾くことができる。短調の曲の雰囲気を考えて弾き歌いできる。 | |
| | 予習復習の内容 | レッスン内容を振り返り、試験曲の難しい箇所を取り出して練習する。練習の記録をつける。 | | 予習復習の内容 | 試験曲を両手で練習する。曲想を考えて秋の歌を練習する。練習の記録をつける。 | |
| 13回 | 授業内容 | 各自の試験曲のレッスン。冬の歌：ジングルベル | 28回 | 授業内容 | 試験曲を両手でゆくり弾く。いろいろなうた：おもちゃのマーチ | ○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、レッスンの記録に授業内容を的確にまとめて書いているか。 |
| | 学習成果 | 強弱、フレーズ感、和声感を表現できる。 | | 学習成果 | 試験曲を両手でゆくり弾くことができる。レッスンの内容を記録にまとめることができる。 | |
| | 予習復習の内容 | レッスン内容を振り返り、強弱、フレーズ感、和声感に気を付けて練習する。練習の記録をつける。 | | 予習復習の内容 | 試験曲を少しずつテンポを上げて練習する。練習の記録をつける。 | |
| 14回 | 授業内容 | 各自の試験曲のレッスン。冬の歌：雪のこぼろず | 29回 | 授業内容 | 試験曲を弾き歌いで通して弾くことができる。いろいろなうた：ふしぎなポケット | ○各回において、前回のレッスン内容を踏まえて演奏できているか。 ○各回において、レッスンの記録に授業内容を的確にまとめて書いているか。 |
| | 学習成果 | 試験曲の難しい箇所を克服し、通して弾くことができる。 | | 学習成果 | 試験曲を歌って両手で弾くことができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。 | |
| | 予習復習の内容 | レッスン内容を振り返り、通して暗譜で弾く練習をする。練習の記録をつける。 | | 予習復習の内容 | 試験曲を適切なテンポで、暗譜で弾けるようにする。練習の記録をつける。 | |
| 15回 | 授業内容 | 試験のリハーサル。演奏時のマナー、身だしなみについて、試験に向けた練習の仕方について。 | 30回 | 授業内容 | 後期試験のリハーサル。いろいろなうた：てのひらをたいように | ○後期試験終了後に、担当者による後期学習成果と試験時の演奏についてフィードバックを行う。 |
| | 学習成果 | 試験曲を暗譜で演奏できる。人前で弾く時に必要なことを理解し、課題を発見できる。 | | 学習成果 | 試験曲を表情豊かに弾き歌いできる。レッスンの内容を記録にまとめることができる。 | |
| | 予習復習の内容 | リハーサルの内容を振り返り、試験に備えて練習する。 | | 予習復習の内容 | リハーサルを振り返り、試験に向けて人前で弾くための練習をする。練習の記録をつける。 | |

| 科目名 | 子どもと音楽 | | | | 担当者 | サトウ マリコ ・ イワブチ セツコ ・ マツハラ ユウコ 佐藤 万利子 ・ 岩淵 撰子 ・ 松原 優子 | | | | | | |
|-------------------------------------|---|--|---------------------------|---------------------------|-----|---|------|----|----|----|-----|----|
| 区分 | 必修 | 2 | 単位 | 授業回数 | 30 | 回 | 授業形態 | 演習 | 学年 | 1年 | 開講期 | 通年 |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。e-mell:sato.mariko@seiwa.ac.jp , iwabuchi.setsuko@seiwa.ac.jp | | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 音楽の基礎理論を理解し、幼児の前で表現することができる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 呼吸法と発声法を身につけ、歌詞の内容に適した歌唱表現ができる。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | 童謡や幼児のうたにおいて、歌うことやピアノを弾く表現活動ができるようになる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 保育者に必要とされる音楽の専門的知識を理解し、基礎的な技能を身につける。(専門的学習成果①③に関連) | | | | | | | | | | |
| | (2) | 幼児の発達に合わせた保育表現技術を理解し、保育実践力を高める。(専門的学習成果②③に関連) | | | | | | | | | | |
| | (3) | 豊かな感性や想像力を伸ばし、保育活動の中で幼児のうたを歌う及びピアノで弾く表現力を高める。(専門的学習成果④に関連) | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 領域「表現」のねらいや内容と合わせ、乳幼児の表現活動の特徴・特質を理解する。基本的な保育表現技術の習得を通して、自身の感性を高める。表現(音楽)あそびの意義と特徴や、用具、楽器等の扱い方について学ぶ。各種表現活動を通して、領域「表現」と他領域との関連について理解を深める。保育者に必要な基礎的技術として音楽力を身に付けるために音楽理論(45分)と歌唱表現(45分)を学ぶ。音楽理論を土台として読譜力、リズム練習、伴奏付けの理解を深め、呼吸法と発声法の基礎を身につけ、歌詞の内容に適した表情豊かな歌唱表現を理解し、指導力や実践力を養う。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | | | | | | | | | | |
| | | レポート | | | | | | | | | | |
| | | 前期試験 | 30 | 音楽理論の筆記試験と歌唱実技試験の総合評価を行う。 | | | | | | | | |
| | | 後期試験 | 30 | 音楽理論の筆記試験と歌唱実技試験の総合評価を行う。 | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 小テスト・ 発表 | 40 | 各10%を4回(音楽理論2回・声楽2回)実施する。 | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | 書名 | | 出版社名 | | | | | | | | |
| | 木村鈴代 共著 | 『これだけは知ってほしい楽典 はじめの一步』 | | カワイ出版 | | | | | | | | |
| | 全国大学音楽教育学会編 | 『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌 唱歌童謡140年の歩み』 | | 音楽之友社 | | | | | | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | 書名 | | 出版社名 | | | | | | | | |
| | 小林美実編 | 『子どものうた100』 | | チャイルド本社 | | | | | | | | |
| | 幼児表現教育研究会編著 | 『幼児のための表現指導-うたって、つくって、あそぼう』 | | 音楽之友社 | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | ①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。(予習:週2時間程度)事後学習としては、小テストを実施し、その内容を評価の対象とするので、復習をしっかりとすること。(復習:週2時間程度) ②小テスト及び前期試験、後期試験に対するフィードバックは実施後に、正解を示し解説または講評を行う。 | | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | 学習成果の評価 | 授業計画 | | 学習成果の評価 |
|------|---------|---|------|---------|---|
| 1回 | 授業内容 | 保育者に必要とされる音楽の専門的知識習得の意義と目的 | 16回 | 授業内容 | 前期の音楽的知識と音楽的技能の習得を振り返る |
| | 学習成果 | 音名・音部記号の理解と、呼吸法・発声法について理解できる。 | | 学習成果 | 易しい楽譜を見て基本的なコード付の伴奏ができる。 |
| | 予習復習の内容 | 音部記号の書き方を理解し、楽譜と鍵盤位置の認知、音名との照合ができるようにする。 | | 予習復習の内容 | コードの基本形を理解して実践できる。 |
| 2回 | 授業内容 | 三種の音名、音符と休符及び呼吸法 | 17回 | 授業内容 | 日本の幼児音楽教育の歴史と変遷 |
| | 学習成果 | イタリア、日本、英米音名読みと音符休符の理解ができる。呼吸法の実践ができる。 | | 学習成果 | 明治(保育唱歌)大正(童謡)昭和(文部省唱歌)平成(遊びを通しての指導)を理解できる。 |
| | 予習復習の内容 | 音名と音符・休符の種類や長さや書き方について理解する。 | | 予習復習の内容 | 明治・大正・昭和・平成時代に作られた童謡や唱歌をまとめる。 |
| 3回 | 授業内容 | 拍子記号とリズム及び発声法 | 18回 | 授業内容 | 世界の音楽教育(1) グルクロース |
| | 学習成果 | 単純拍子の理解とリズムの聞き取り、実践ができる。発声法の実践ができる。 | | 学習成果 | リトミックの創始者グルクロースの音楽を理解できる。 |
| | 予習復習の内容 | 四分音符を分母とする拍子(2拍子、3拍子、4拍子)を説明できるようにする。 | | 予習復習の内容 | リズム運動、ソルフェージュ、即興演奏に触れる。 |
| 4回 | 授業内容 | 複合拍子と小節線及び春(4月・5月)の童謡 | 19回 | 授業内容 | 世界の音楽教育(2) コーダイ |
| | 学習成果 | 複合拍子と小節線(縦線、複縦線、終止線)が理解できる。春の童謡を歌い、呼吸法を実践する。 | | 学習成果 | ハンガリーの作曲家、哲学者、言語学者のコーダイ音楽教育を理解できる。 |
| | 予習復習の内容 | 八分音符を分母とする拍子(6拍子、9拍子)を説明できるようにする。 | | 予習復習の内容 | 伝承音楽、民謡やわらべうたに触れる。 |
| 5回 | 授業内容 | 変化記号と夏(6月・7月)の童謡 | 20回 | 授業内容 | 世界の音楽教育(3) オルフ |
| | 学習成果 | 変化記号(♯・b・b)の名称と意味を理解する。夏の童謡を歌い、発声法を実践する。 | | 学習成果 | ミュンヘンの作曲家、教育者として活動したオルフの教育用作品の理解 |
| | 予習復習の内容 | 楽譜上の変化記号と鍵盤の位置を確認する。 | | 予習復習の内容 | 「言語・リズム・動き」の3要素が一体化した音楽に触れる。 |
| 6回 | 授業内容 | 音程と夏(8月)の童謡での歌唱表現(強弱) | 21回 | 授業内容 | 二重唱 |
| | 学習成果 | 全音と半音の理解ができる。夏の童謡を歌う中で、歌唱表現の理解ができる。 | | 学習成果 | 互いのパートを聴き合って歌うことができる。 |
| | 予習復習の内容 | 鍵盤(白鍵・黒鍵)を見ながら、全音と半音の音程関係を理解する。 | | 予習復習の内容 | 音を感じて心で受け止め身体の動きと表情で歌うことに触れる。 |
| 7回 | 授業内容 | 3度音程(長3度・短3度)と秋(9月・10月)の童謡での歌唱表現の実践ができる。 | 22回 | 授業内容 | コード奏法の復習(1) |
| | 学習成果 | 三和音を構成する3度音程を理解する。秋の童謡を歌う中で、歌唱表現の実践理解する。 | | 学習成果 | へ長調のI・IV・Vを用いて伴奏付けができる。 |
| | 予習復習の内容 | 鍵盤を見ながら、長3度・短3度の音程関係を理解する。 | | 予習復習の内容 | F(ファラド)B♭(ファシトレ)C(ドミソ)のカデンツを復習する。 |
| 8回 | 授業内容 | 三和音とコードネームと秋(11月)の童謡での歌唱表現(曲奏に関する記号) | 23回 | 授業内容 | コード奏法の復習(2) |
| | 学習成果 | 三和音(長三和音)とコードネームを理解できる。秋の童謡で、歌唱表現(歌詞の内容理解と表情豊かに表現)の実践をする。 | | 学習成果 | 二長調のI・IV・Vを用いて伴奏付けができる。 |
| | 予習復習の内容 | 英米音名読みの復習。三和音(長三和音)の根音とコードネームの一致を理解する。 | | 予習復習の内容 | D(レファラ)G(レソシ)A(ドミラ)のカデンツを復習する。 |
| 9回 | 授業内容 | 音階・長調と冬(12月)の童謡での歌唱表現(速度と奏法に関する記号) | 24回 | 授業内容 | 子どもの想像を膨らませる教材と音楽表現の関係(1) |
| | 学習成果 | 長調の主音と長音階(全音と半音)スラーやテヌート奏法が理解でき、歌詞に合わせてプレス(息つき)が実践できる。 | | 学習成果 | ペーパーサートやパネルシアターに音楽と効果音をつけて表現できる。 |
| | 予習復習の内容 | 歌詞をよく音読し、内容がはっきり伝わるように、発音を大切に歌う。 | | 予習復習の内容 | 子どもの視覚的、聴覚的イメージを広げる音楽の効果を観察する。 |
| 10回 | 授業内容 | 調名・調号と冬(1月・2月)の童謡 | 25回 | 授業内容 | 子どもの想像を膨らませる教材と音楽表現の関係(2) |
| | 学習成果 | 調名と調号の関係を理解できる。歌唱の弾き歌いで子供をリードして歌える。 | | 学習成果 | 劇遊びに音楽と効果音をつけて表現できる。 |
| | 予習復習の内容 | 歌のイメージを広げ、歌唱の全体像を明確に表現することができる。 | | 予習復習の内容 | 子どもの視覚的、聴覚的イメージを広げる音楽の効果を観察する。 |
| 11回 | 授業内容 | 曲想の表現・ペダルの効果の使い方と春(3月)の童謡 | 26回 | 授業内容 | 子どもが使用する楽器と演奏法(1) |
| | 学習成果 | 弾き歌いを通して子どもの想像力を促し、表現を導く役割を担うことができる。 | | 学習成果 | カスタネット、クラベス、ウッドブロック、マラカスの演奏法を理解し実践できる。 |
| | 予習復習の内容 | ダンパーペダル(音を長く持続させ、響きを増やす)効果を理解する。 | | 予習復習の内容 | 子どもが音色の楽しさやリズムの楽しさを感じられるような演奏法を身につける。 |
| 12回 | 授業内容 | 鍵盤と大譜表の相関図の理解と前期歌唱試験に向けての指導 | 27回 | 授業内容 | 子どもが使用する楽器と演奏法(2) |
| | 学習成果 | ピアノの鍵盤の位置と大譜表の音符の関係を理解できて演奏できる。 | | 学習成果 | ギロ、トライアングル、タンブリン小太鼓の演奏法を理解し実践できる。 |
| | 予習復習の内容 | 楽譜の音符とピアノの鍵盤の位置関係を把握する。 | | 予習復習の内容 | 子どもが音色の楽しさやリズムの楽しさを感じられるような演奏法を実践する。 |
| 13回 | 授業内容 | コード奏法と前期歌唱試験に向けての表現方法の指導 | 28回 | 授業内容 | アンサンブル①(合唱・合奏)の指導 |
| | 学習成果 | ハ長調のI、IV、V、V7を用いて伴奏付けができる。 | | 学習成果 | ベル、トーンチャイムの演奏法を理解し実践できる。 |
| | 予習復習の内容 | C(ドミソ)F(ドファラ)G(シレソ)G7(シファソ)を理解できる。 | | 予習復習の内容 | 子どもが音色の楽しさやリズムの楽しさを感じられるような指導法を考える。 |
| 14回 | 授業内容 | コード奏法と前期歌唱試験に向けての発声法の指導 | 29回 | 授業内容 | アンサンブル②(合唱・合奏)の指導 |
| | 学習成果 | ト長調のI、IV、Vを用いて伴奏付けができる。 | | 学習成果 | 合奏における楽器配列、合唱におけるパート配置を理解できて演奏法を指導できる。 |
| | 予習復習の内容 | G(シレソ)C(ソドミ)D(♯ファラレ) | | 予習復習の内容 | グループで演奏する楽しさに触れる。 |
| 15回 | 授業内容 | 前期の音楽理論筆記試験と歌唱試験 | 30回 | 授業内容 | 幼児と音楽のまとめ |
| | 学習成果 | 音楽理論を理解して、人前で表情豊かに歌唱できる。 | | 学習成果 | 保育者に必要とされる音楽の専門的知識と技能を理解できる。 |
| | 予習復習の内容 | 歌唱試験課題曲を暗譜し、録音して振り返る。 | | 予習復習の内容 | 子どもが自ら意欲的に楽しめる音楽について考える。 |

| 科目名 | 子どもと造形あそび | | | | 担当者 | 佐々木 貴 弘 | | | | | | |
|-------------------------------------|--|--|--------|--|-----|---------|------|----|--------|----|-----|----|
| 区 分 | 選択必修 | 2 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業形態 | 演習 | 学年 | 1年 | 開講期 | 前期 |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | sasaki.takahiro@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で通知。授業内容等に関する質問等は毎時、授業の前後に教室内で対応する。 | | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 乳幼児の造形活動の基礎技術と知識を身に付ける。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 乳幼児の造形表現の発達と特質を理解し、共感を持って援助できる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 造形活動を、安全かつ安心してできる環境を整えることができる。 | | | | | | | | | | |
| | ④ | 造形表現を通して得る製作実感を共有し、体験的に保育内容について関連領域の知識を考察できる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 保育者に必要とされる造形表現的活動を理解し、保育現場における必要な基礎的知識・技能を身に付ける。(専門的学習成果①②に関連) | | | | | | | | | | |
| | (2) | 子どもの発達や成長に即した表現活動への保育実践力や、応用展開力を高める。(専門的学習成果②③④に関連) | | | | | | | | | | |
| | (3) | 子どもや保護者、及び地域社会における造形表現的活動の意義を理解し、保育者としての役割を果たすことができる。(専門的学習成果④に関連) | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 幼児期の造形表現活動は、体全体が感覚器官であり、造形表現活動は、乳幼児の感覚や感性を養う上で、発達や成長に大きく関わる。本授業では、基本的な画材・用具の使用法を習得し、自然素材も取り入れ、将来の保育者にとって、生きる力を育む造形あそびを学ぶ場となるよう、製作活動を展開していく。主に平面造形を取り上げ、絵画表現の基本的な活動を行い、乳幼児期の表現の特質を理解し援助できるよう、保育技術や、活動の留意点を学ぶ。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | | | | | | | | | | |
| | | レポート | 40 | 毎時、技法や活動に関するまとめのレポートを課す。また、各自考案した活動、作品活用、展示法も評価する。 | | | | | | | | |
| | | 作品製作・発表 | 40 | 製作技法の習得。それに伴う材料準備、製作手順の理解、活動時の試行錯誤の様子、留意点へ配慮、発表と内容、作品管理・持ち帰り、後片付けまで評価する。 | | | | | | | | |
| | | 平常点 | 20 | 製作活動や発表への取り組み、意欲・態度を評価する。 | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果1.2.3については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④により評価を行う。 (3) は専門的学習成果④により評価を行う。 | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | | | | 出版社名 | | | |
| | 横英子 | 『保育をひらく造形表現』 | | | | | | | 萌文書林 | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | 書名 | | | | | | | 出版社名 | | | |
| | 文部科学省 | 『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』 | | | | | | | フレーベル館 | | | |
| | 厚生労働省 | 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』 | | | | | | | フレーベル館 | | | |
| | 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 | | | | | | | フレーベル館 | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | ①準備物、学習履修上の留意点は、事前学習、準備物等は、その都度指示。受講後は、毎時、活動ごとにまとめのプリントを課す(時間外学習約15時間)。各自、乳幼児あるいは福祉施設利用者を対象とした中心活動を考え教材研究に繋げる。教科書、スケッチブック、画材セットは毎回持参。エプロン(または汚れても良い服装)着用。おしぼり準備。長い髪はまとめる。教材費一人500円(半期分)集金。画材、教科書等は、番号・氏名を記入のこと。 ②まとめのプリントを基に、翌週、グループ内にて、アイデアや工夫点などを発表、共有し、学び合いを行う。また、製作中や発表時に、助言やコメントをする。 | | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|------|---------|---|---|
| 1回 | 授業内容 | オリエンテーション 幼児と造形(平面造形)について | ワークシートへの取り組み。 |
| | 学習成果 | 本授業の内容を理解し、概要について説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | シラバスを事前に読み、その内容を理解する。オリエンテーションの説明を踏まえて、学習目標を立てる。 | |
| 2回 | 授業内容 | 画材、用具について(フィンガーペインティング(指絵)、ちぎり絵他から考える) | 製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。 |
| | 学習成果 | 基本的な画材・用具の扱い方について、実際に絵画製作をしながら体験的に学び製作することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考案する。 | |
| 3回 | 授業内容 | 子どもと造形あそび①絵画技法1(デカルコマニー、ドリッピング、にじみ、マーブリング他) | 製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。 |
| | 学習成果 | 造形あそびを通して、実際にいくつかの技法を体験的に学び製作することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考案する。 | |
| 4回 | 授業内容 | 子どもと造形あそび②絵画技法2(フロッターージュ、スパッタリング、コラーージュ他) | 製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。 |
| | 学習成果 | 造形あそびを通して、実際にいくつかの技法を体験的に学び製作することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考案する。 | |
| 5回 | 授業内容 | 子どもと造形あそび③絵画技法3(パチック(はじき絵)、スクラッチ(ひっかき絵)他)、 | 製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。 |
| | 学習成果 | 造形あそびを通して、実際にいくつかの技法を体験的に学び製作することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考案する。 | |
| 6回 | 授業内容 | 版画①(消しゴムスタンプづくり、スタンピング(各種素材、野菜など)) | 製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。 |
| | 学習成果 | 簡単な版画を通して、実際にいくつかの技法を体験的に学び製作することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考案する。 | |
| 7回 | 授業内容 | 版画②(型あそび、ステンシル(型紙版)) | 製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。 |
| | 学習成果 | 簡単な版画を通して、実際にいくつかの技法を体験的に学ぶ。 | |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考案する。 | |
| 8回 | 授業内容 | 版画③(紙版画、ローラー遊び) | 製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。 |
| | 学習成果 | 簡単な版画を通して、実際にいくつかの技法を体験的に学び製作することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考案する。 | |
| 9回 | 授業内容 | 絵画技法(応用)(切絵、ステンドグラス、かけ絵他) | 製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。 |
| | 学習成果 | 光や影を活用した絵画製作を考え、実際にいくつかの技法を体験的に学び製作することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考案する。 | |
| 10回 | 授業内容 | 絵画技法(応用)(イラスト作成、園だより(情報機器を用いて)) | 製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。 |
| | 学習成果 | 情報機器を活用したイラスト・デザインを製作し、お便りや広報物の作成に生かし、製作することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、各技法ごとにまとめを行い、技法を応用した活動を考案する。 | |
| 11回 | 授業内容 | 壁面構成①(造形活動と環境構成(保育室デザイン)) | 共同製作(グループ活動)への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。 |
| | 学習成果 | 将来の職場となる保育室や施設の壁面(掲示板)などを想定し、造形活動を通した環境構成を考え製作することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、空間造形や、装飾的な活動への関心を持ち、他の事例や参考作品などの資料収集ができる。 | |
| 12回 | 授業内容 | 壁面構成②(個人製作から共同製作へ、レイアウトを考える) | 製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。 |
| | 学習成果 | 個人製作から、共同製作への展開を考え、その為の具体的な方法を体験的に理解し製作することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、実際に行われている共同製作の作品に対し関心を持ち、鑑賞を通して学びを深めることができる。 | |
| 13回 | 授業内容 | 壁面構成③(技法活用と応用表現) | 製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。 |
| | 学習成果 | 習得した技法を基に、活用法を考え応用し、表現活動の幅を広げ製作することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を振り返り、各技法を駆使し、応用した表現活動を考案することができる。 | |
| 14回 | 授業内容 | 壁面構成④(伝えたいこと、表したいこと、主題と題材について) | 製作への取り組み。 教材研究、発表、展示、活用。 活動まとめ。 |
| | 学習成果 | 主題と題材について考え、担任として関りを想定し、テーマ性を重視した共同製作への試みを行うことができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 乳幼児の造形あそびから、テーマ性を意識した共同製作まで、造形活動の展開を考える。 | |
| 15回 | 授業内容 | まとめ(作品発表、活動振り返り、総括) | 振り返りシートへの取り組み。 全体総括。 |
| | 学習成果 | 授業内容の総括を行い、造形表現活動の意義を考え発表することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 学習内容を総括し、造形表現への理解を深め、保育現場における領域表現(造形表現)の展開を考察する。 | |

| 科目名 | 子どもと運動あそび | | | | 担当者 | 石 森 真由子 | | | | | | | |
|-------------------------------------|---|---|----------------------|--------------------------------------|-----|---------|------|----|----|---------|-----|----|--|
| 区 分 | 選択必修 | 2 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業形態 | 演習 | 学年 | 1年 | 開講期 | 前期 | |
| | | | | 授業時間数 | 30 | 時間 | | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | | 授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。オフィスアワーは授業内で連絡する。 | | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 乳幼児の運動発達や健康をとりまく現状をふまえ、運動遊びの意味や意義、内容を理解する。 | | | | | | | | | | | |
| | ② | 身体を動かすことの楽しさや面白さをはじめ、達成感や自己肯定感、社会性の発達について体験を通して理解を深める。 | | | | | | | | | | | |
| | ③ | 発達段階をふまえ、遊具・用具等を活用し創意工夫しながら取り組むことができる。 | | | | | | | | | | | |
| | ④ | 指導・援助する際の配慮や準備の重要性を理解するとともに課題を見出し考察することができる。 | | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 乳幼児の運動発達や健康に関連する専門的知識および現状を理解し、子ども理解をするために他者と協働しながら積極的な行動ができる。(専門的学習成果①②) | | | | | | | | | | | |
| | (2) | 運動遊びにおける発達や育ちを理解し、教材研究および指導法、援助、環境構成について体験を通して学び続けることができる。(専門的学習成果②③④) | | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 乳幼児の発育発達と基本的な生活習慣、運動発達における現状を理解し、運動遊びを通して思考力や想像力を養い、友達と協力することや環境への関わり方などを体得していく。生活や行事、遊びを通した総合的な保育内容の考案と指導方法についてカリキュラムデザインを踏まえて実践的に学ぶことをねらいとしている。また、授業での経験から、創造的な遊びを子どもと共に楽しみ活動を発展させていくことのできる保育実践力、客観的に捉える力を養う。 | | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | | | | | | | | | | | |
| | | レポート | | | | | | | | | | | |
| | | 実技試験 | 30 | 試験を2回実施し、評価を行う。 | | | | | | | | | |
| | | 課題 | 40 | 記録および課題の内容、提出、体裁、文脈、独創性、態度、意欲で評価を行う。 | | | | | | | | | |
| | 平常点 | 30 | 授業への参加態度、関心、意欲を評価する。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により行う。 (1) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④で評価を行う。 | | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | | 出版社名 | | | |
| | 柴田卓・石森真由子 | | 『楽しく学ぶ運動遊びのすすめ』 | | | | | | | 株式会社みらい | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | | 出版社名 | | | |
| | 文部科学省 | | 『幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説』 | | | | | | | | | | |
| | 厚生労働省 | | 『保育所保育指針・保育所保育指針解説書』 | | | | | | | | | | |
| | 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 | | | | | | | | | | |
| | 文部科学省 | | 『幼児期運動指針』 | | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | <p>①この科目では時間外学習（各回60分程度）として、＜事前学習＞授業内理解のため、テキストあるいは指示した資料を読むこと。また体調管理に努め、ストレッチなどをしておくことが望ましい。＜事後学習＞授業ごとの記録をまとめ、授業内で示された課題に取り組むこと。提出期限が指定されているものについては、厳守すること。</p> <p>テキストとともに、授業終了後に掃除を行うため雑巾を準備し毎回持参する。動きやすい服装（フード付き、袖や裾の長いものは不可）と指定されている靴で出席のこと。アクセサリ類の着用も不可。また、髪型や爪にも十分気をつけること。水遊び・プール遊びの授業時には、濡れても良いジャージに加え、水着、帽子、ゴーグルなどの水泳用品の準備が必要。各自で廃材やテープなどの材料を準備することもある。</p> <p>②記録に対するフィードバックは授業内で行うため、自主的に学びを発展させるようにすること。実技試験に対するフィードバックは実施後に示す。体験を通した理解や気づきを重視するため、積極的な取り組みを期待する。</p> | | | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|------|---------|---|---------|
| 1回 | 授業内容 | 乳幼児の運動および発達の現状の理解、遊具を活用する遊び①パルーン等 | |
| | 学習成果 | 子どもの体力や運動の現状について知る。 | |
| 2回 | 予習復習の内容 | 幼児期運動指針を読んでくる。 | |
| | 授業内容 | コーディネーショントレーニングの活用 | |
| 3回 | 学習成果 | 自身の身体の使いこなし方の現状や運動で培われるポイントを知る。 | |
| | 予習復習の内容 | 前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。 | |
| 4回 | 授業内容 | 体操、表現遊び①乳幼児の体操やダンスの理解 | |
| | 学習成果 | 乳幼児における体操・ダンスの特徴、資料の読み取り方を知る。 | |
| 5回 | 予習復習の内容 | 前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。 | |
| | 授業内容 | 遊具を活用する遊び②身近にあるもの | |
| 6回 | 学習成果 | 身近にあるものをの活用法を知り、遊びの捉え方を広げる。 | |
| | 予習復習の内容 | 前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。 | |
| 7回 | 授業内容 | 遊具を活用する遊び③ゲーム・競争の理解 | |
| | 学習成果 | ゲームや競争を含む遊びのポイントを知る。 | |
| 8回 | 予習復習の内容 | 前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。 | |
| | 授業内容 | 遊具を活用する遊び④新聞紙等 | |
| 9回 | 学習成果 | 保育現場で活用されやすい素材を活かした遊びの工夫や他科目との連携を知る。 | |
| | 予習復習の内容 | 前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。 | |
| 10回 | 授業内容 | 遊具を活用する遊び⑤施設の活用 | |
| | 学習成果 | 施設の活用を通した動線や遊びの工夫、安全教育への理解を深める。 | |
| 11回 | 予習復習の内容 | 前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。 | |
| | 授業内容 | 遊具を使わない遊び | |
| 12回 | 学習成果 | コーディネーショントレーニングの活用も含めた活動を知る。 | |
| | 予習復習の内容 | 前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。 | |
| 13回 | 授業内容 | 体操、表現遊び②表現および指導法の理解 | |
| | 学習成果 | 保育者としての表現法や指導法について理解し、実践する。 | |
| 14回 | 予習復習の内容 | 前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。 | |
| | 授業内容 | 遊具を活用する遊び⑥ボール等 | |
| 15回 | 学習成果 | 動きを伴う遊びの展開や工夫について知り、遊具の特性に気づく。 | |
| | 予習復習の内容 | 前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。 | |
| 16回 | 授業内容 | 遊具を活用する遊び⑦フープ等 | |
| | 学習成果 | 遊具の活用法や工夫について知り、遊具の特性に気づく。 | |
| 17回 | 予習復習の内容 | 前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。 | |
| | 授業内容 | 遊具を活用する遊び⑧大型遊具等 | |
| 18回 | 学習成果 | 大型遊具の特性と遊びとして活用する際の学びの理解を知る。 | |
| | 予習復習の内容 | 前回の記録を確認・追記し、テキストの関連箇所を読んでくる。 | |
| 19回 | 授業内容 | 遊具を活用する遊び⑨手作り遊具等 | |
| | 学習成果 | 保育計画および指導案、教材準備、安全の配慮について理解する。 | |
| 20回 | 予習復習の内容 | 指示されたテーマについてグループワークに取り組む。 | |
| | 授業内容 | 水遊び・プール遊び | |
| 21回 | 学習成果 | 保育実践を通した教材研究および指導法、安全への配慮を理解する。 | |
| | 予習復習の内容 | グループワークとして模擬保育に取り組み、学びをまとめる。 | |
| 22回 | 授業内容 | 水遊び・プール遊び、まとめ | |
| | 学習成果 | 保育実践を通した教材研究および指導法、安全への配慮を理解する。 | |
| 23回 | 予習復習の内容 | 模擬保育およびこれまでの実践を通した学びをまとめる。 | |
| | 授業内容 | 〇記録および課題の提出 指示された期限までに取り組んだ内容と気づき、課題についてイラストとともにまとめて提出する。 〇指導案の立案、教材準備、安全への配慮の課題については、指定された期日までにグループメンバーと協働し、準備に取り組むこと | |

| 科目名 | 教育方法 | | | | 担当者 | サ 佐 藤 哲 也 | | | | | | |
|-------------------------------------|---|---|----------------------|--|-----|-----------|----------|----|------|----|-----|----|
| 区 分 | 選択 | 2 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業 形態 | 講義 | 学年 | 1年 | 開講期 | 後期 |
| | | | | 授業時間数 | 30 | 時間 | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | | 質問や要望等については、授業の前後に教室で受け付ける。 | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | これからの社会を担う子どもに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術、活用に関する基礎的な知識・技能を身につけて、実践に活用できる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成方法について説明できる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 幅広く教養を身につけ保育者及び社会人として、地域社会で活用することができる。 | | | | | | | | | | |
| | (2) | 自己の課題を客観的に見出し、解決に向け学び続けることができる。 | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | これからの社会を担う子どもにとって必要となされる資質及び能力について理解する。そして、それらを育成する上で必要となる教育の方法や教育の技術について学ぶ。また、情報機器や教材を活用した効果的な授業の仕組みを理解するとともに、それらを活用した指導方法を理解する。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | 80 | これまでの修学内容に基づいて記述式問題（持ち込み不可）を実施し、評価する。 | | | | | | | | |
| | | レポート | 20 | 授業内容に関わるレポート（A4用紙2枚程度）を課す。体裁・内容・根拠を評価する。 | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 保育者に必要とされる教育学的基礎教養（思想、歴史、法令、制度、実践論等）を身につけて、自らの実践を理論的に構想・評価・表現する能力を養う。（専門的学習成果①②に関連） 保育者として家庭・地域と連携を取りながら、子どもの最善の利益に資する取り組みをコーディネートすることができる。（専門的学習成果①に関連） | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | |
| | 佐藤哲也編著 | | 『子どもの心によりそう保育者論 改訂版』 | | | | | | 福村出版 | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | | ①事前にテキストや参考資料を読みポイントを把握した上で授業に臨み、講義内容の理解に備えておく。また、筆記試験の準備を行い、理解の定着に努めること。②レポートは授業で返却し解説を行う。 | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|------|---------|---|---------|
| 1回 | 授業内容 | 教育の方法論的視点 | |
| | 学習成果 | 教育という営みを方法化していくための視点について説明できる。 | |
| 2回 | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| | 授業内容 | 幼児教育・保育における教育の方法論 | |
| 3回 | 学習成果 | 遊びや生活を通じて総合的に指導する保育方法論について説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| 4回 | 授業内容 | 子どもの学びとは | |
| | 学習成果 | 子どもが学びについて、認知論や学習論の視点から説明できる。 | |
| 5回 | 予習復習の内容 | 参考資料を熟読しておくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| | 授業内容 | 教育方法の基本的視座① 保育をデザインする視点と方法 | |
| 6回 | 学習成果 | 幼児の生活と遊びを方法化するための理論について説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 参考文献の該当箇所を熟読しておくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| 7回 | 授業内容 | 教育方法の基本的視座② 授業をデザインする視点と方法 | |
| | 学習成果 | 小学校以降の学習課程を授業として構成していく理論について説明できる。 | |
| 8回 | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| | 授業内容 | 教育方法の基本的視座③ 遊びと学習評価の視点と方法 | |
| 9回 | 学習成果 | 保育・教育評価について説明することができる。 | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| 10回 | 授業内容 | 保育方法論の展開① 教育環境の整備 | |
| | 学習成果 | 保育において環境を通じて教育する理論と方法について説明できる。 | |
| 11回 | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| | 授業内容 | 保育方法論の展開② 教材・教具を考える | |
| 12回 | 学習成果 | 保育における教材・教具のカテゴリーや教育的価値、幼児への提供方法を説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| 13回 | 授業内容 | 保育方法論の展開③ 教師の声掛け、発話、雰囲気作り | |
| | 学習成果 | 人的環境としての保育者の影響力（意図的・無意図的教育）について説明できる。 | |
| 14回 | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| | 授業内容 | 保育方法論の展開④ 子どもの主体性を育む学びの場作り | |
| 15回 | 学習成果 | 子どもの自主性・主体性を引き出す保育者の援助方法について説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| 16回 | 授業内容 | 保育方法論の展開⑤ 子どもの対話的な学び | |
| | 学習成果 | 「対話的で深い学び」について、その理論と実践方法について説明できる。 | |
| 17回 | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| | 授業内容 | 保育方法論の展開⑥ 情報通信技術を活用した保育・授業展開 | |
| 18回 | 学習成果 | コンピューター、タブレット、スマホ等を利用した教材作成等について実践できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 参考資料を読んでおくこと。日頃から情報機器に親しみ生活や学習の効率化するように努める。 | |
| 19回 | 授業内容 | 保育指導案の理解① 目標・内容、教材・教具、保育展開 | |
| | 学習成果 | 保育指導案を作成することができる。 | |
| 20回 | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| | 授業内容 | 子育て支援の方法 | |
| 21回 | 学習成果 | 子育て支援の現状や今後の課題について説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |
| 22回 | 授業内容 | 保育・教育方法論の今日的課題 | |
| | 学習成果 | 21世紀型保育の方向性と課題について説明できる。 | |
| 23回 | 予習復習の内容 | 教科書の該当箇所を読んでおくこと。授業内容についてノートを見返すこと。 | |

| 科目名 | 教育相談 | | | | 担当者 | 佐藤誠子 | | | | | | |
|-------------------------------------|--|--|------------------------|---|-----|------|------|----|-------|----|-----|----|
| 区分 | 選択 | 1 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業形態 | 講義 | 学年 | 1年 | 開講期 | 後期 |
| 授業時間数 | 30 時間 | | | | | | | | | | | |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | 授業の前後に教室で受け付ける。 | | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 教育相談の意義と理論を理解し、説明することができる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 教育相談を進める際に必要となる基礎的知識を身につけ、実践で使うことができる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 教育相談の組織的な取り組みや連携の必要性について説明することができる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 保育者に必要な、子ども理解や相談援助に関わる知識と技能を習得する。(専門的学習成果①②) | | | | | | | | | | |
| | (2) | 保護者や関係機関、地域との連携のあり方について理解し、保育実践力を高める。(専門的学習成果①③) | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 幼児教育において、子どもをどう理解し、子どもの成長・発達をどう支援していくかを考えることは保育者にとって重要なことである。本授業では、幼児期における子ども理解のあり方について考え、さらに保育における教育相談（保育カウンセリング）において求められる保育者の姿勢や具体的方法について、事例をもとに学んでいく。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | | | | | | | | | | |
| | | レポート | 50 | 子ども理解とその支援のあり方について、学習内容を踏まえた考察ができているか評価する。評価の際の観点は、根拠、論理展開、独創性、体裁である。 | | | | | | | | |
| | | 中間ミニレポート | 30 | 教育相談技術（カウンセリングの技法）の理解について評価する。 | | | | | | | | |
| | | コメントペーパー | 20 | 毎回の授業内容の理解、態度、関心・意欲について評価する。 | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①②にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①③にて評価を行う。 | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | |
| | 文部科学省 | | 『幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』 | | | | | | ぎょうせい | | | |
| | 富田久枝・杉原一昭 (編) | | 『保育カウンセリングへの招待』 | | | | | | 北大路書房 | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | | | 出版社名 | | | |
| | 文部科学省 | | 『幼稚園教育要領』 | | | | | | | | | |
| | 厚生労働省 | | 『保育所保育指針』 | | | | | | | | | |
| | 内閣府・文部科学省・ 厚生労働省 | | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 | | | | | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | ①主にレジュメを使用して授業を進める。事前学習として、配付されたレジュメを読み、授業内容を大方つかんでくること。(予習：週15分程度)事後学習として、レジュメとテキストを使用しながら、毎回の授業内容を(他者に説明できるように)自分なりにまとめる。その際出てきた疑問点や質問点については、教員に質問したり自身で資料にあたるなどして解決する。(復習：週45分程度) ②授業の中で扱うコメントペーパーに関する内容は、次回講義開始時にフィードバックを行う。また、授業内で記述してもらった課題についてもコメントをつけてフィードバックを行う。 | | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 | |
|------|---------|--|---------|---|
| 1回 | 授業内容 | 保育における教育相談の意義、方法と対象 | | コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問) |
| | 学習成果 | 保育における教育相談の意義を理解し、説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 教育相談の意義、方法と対象について自分の言葉でまとめる。 | | |
| 2回 | 授業内容 | 子どもの発達について | | コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問) |
| | 学習成果 | 乳幼児期の子どもの発達の特徴を説明することができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 知的発達および社会性の発達について調べ、年齢ごとの発達の特徴をまとめる。 | | |
| 3回 | 授業内容 | 幼児理解と教育相談 | | コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問) |
| | 学習成果 | 教育相談における子ども理解の重要性について説明することができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 子ども理解のあり方について自分の言葉でまとめる。 | | |
| 4回 | 授業内容 | 幼児理解の方法と視点 | | コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問) |
| | 学習成果 | 子ども理解の方法について、一般的理解と個別的理解のそれぞれの視点から説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 一般的理解と個別的理解のそれぞれの視点からの子ども理解の方法についてまとめておく。 | | |
| 5回 | 授業内容 | 保育におけるアセスメント | | コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問) |
| | 学習成果 | アセスメントとして検査法の必要性を理解するとともに、保育記録を活用することの意義について説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 保育の中での子ども理解について、自身が経験した事例をもとに説明できる。 | | |
| 6回 | 授業内容 | 保育カウンセリングに求められるカウンセリングマインド | | コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問) |
| | 学習成果 | 保育におけるカウンセリングマインドについて説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | カウンセリングマインドとはどのようなことか、それをどのように保育実践に活かせるかを考え、まとめる。 | | |
| 7回 | 授業内容 | 保育カウンセリングのプロセス | | コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問) |
| | 学習成果 | 保育カウンセリングのプロセスについて理解し、説明することができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 保育カウンセリングのプロセスの具体例についてまとめておく。 | | |
| 8回 | 授業内容 | 教育相談の方法①発達相談・発達支援の方法と実際 | | コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問) |
| | 学習成果 | 発達相談・発達支援の方法について具体的に説明することができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 具体例をもとに発達支援のありかたについてまとめておく。 | | |
| 9回 | 授業内容 | 教育相談の方法②子育て支援の方法と実際 | | コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問) |
| | 学習成果 | 保護者支援のあり方について理解し、説明することができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 保護者支援としてどのようなことが求められるのかを考え、適切な支援の仕方についてまとめる。 | | |
| 10回 | 授業内容 | 教育相談の方法③カウンセリングの基礎的姿勢と技法 | | コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問) 中間ミニレポート(カウンセリング技法について) |
| | 学習成果 | カウンセリング技法を身につけ、実際に活用することができる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 対人援助場面だけでなく、日常場面においても積極的にカウンセリング技法を意識して会話をを行う。 | | |
| 11回 | 授業内容 | 発達相談・発達支援、子育て支援の進め方やそのポイント | | コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問) |
| | 学習成果 | 発達相談・発達支援、子育て支援の進め方やポイントについて説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 保護者支援において重要なポイントをまとめておく。 | | |
| 12回 | 授業内容 | 教育相談の方法④構成的グループエンカウンター(SGE)とは | | コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問) |
| | 学習成果 | 構成的グループエンカウンターの特徴、進め方について説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 保育場面での活用方法を考え、まとめる。 | | |
| 13回 | 授業内容 | 構成的グループエンカウンター(SGE) | | コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問) |
| | 学習成果 | 構成的グループエンカウンターによりもたらされる効果について説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 保育場面での活用方法を考えるとともに、その効果と限界について考察する。 | | |
| 14回 | 授業内容 | 気になる子どもの理解と関わり方 | | コメントペーパー(授業内容のまとめ、感想、質問) |
| | 学習成果 | 多面的・多角的に子どもを理解することの重要性、それに応じた支援について考察できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 実際に自分が出会った「気になる」子どもについて多面的・多角的に理解し、子どもの発達援助としてどのような支援が考えられるかをまとめる。 | | |
| 15回 | 授業内容 | 地域・専門機関との連携について | | 期末レポート(子ども理解とその支援のあり方について、全授業内容を踏まえ考察する課題を課す) |
| | 学習成果 | 地域・専門機関との連携の方法、対象、形態について説明できる。 | | |
| | 予習復習の内容 | 専門機関との連携のあり方について、実例をもとにまとめる。 | | |

| 科目名 | 教育実習事前事後指導 I | | | | 担当者 | 石 森 真由子 ・ 上 村 裕 樹 | | | | | | |
|-------------------------------------|---|--|---------------------------------------|--------------------------------------|-----|-------------------|--------|----|----|----|-----|----|
| 区 分 | 必修 | 1 | 単位 | 授業回数 | 15 | 回 | 授業形態 | 実習 | 学年 | 1年 | 開講期 | 通年 |
| 教員との連絡方法 質問等の受付方法 | | 授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。オフィスアワーは授業内で連絡する。 | | | | | | | | | | |
| 専門的 学習成果 | ① | 教育実習の意義・目的・内容を理解し、取り組むことができる。 | | | | | | | | | | |
| | ② | 教育実習生とし遵守すべき義務や責任を理解し、子どもの遊びと心身の発達について理解を深め、幼稚園・認定こども園の教育活動に意欲的に参加することができる。 | | | | | | | | | | |
| | ③ | 自らの実習で得られえた知識と経験を振り返り、学習の新たな目標・課題を明確にできる。 | | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | (1) | 乳幼児に関する専門的知識と基礎的な技能を身につけ、実践につなげながら自身の課題を見つけることができる。(専門的学習成果①③) | | | | | | | | | | |
| | (2) | 保育者として自覚し、豊かな感性や想像力、表現力をもって、子どもの理解や支援を意欲的に取り組むことができる。(専門的学習成果②③) | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | 教育実習の意義・目的および実習生として遵守すべき心構えや態度を学ぶ機会とする。実習に臨むための事前の準備をはじめ幼児理解や観察の視点と方法、記録、教材研究、指導計画の作成等を学ぶ。また、全体、グループあるいは個別指導を基に事前・事後指導を実施し、保育者としての自覚や意識を高め、専門的知識の理解と子ども理解を深める。実習後の反省と総括、そして1・2年生が合同で実施する実習報告会から、今後に向けての自己の課題や展望を持てるようにする。 | | | | | | | | | | | |
| 評価方法 基準等 | 学習成果 | 種別 | 割合 (%) | 評価方法・基準 | | | | | | | | |
| | 専門的 学習成果 | 定期試験 | | | | | | | | | | |
| | | レポート | 10 | 観察実習協力園に向けたレポートの内容、提出状況、体裁、文脈で評価を行う。 | | | | | | | | |
| | | 課題 | 40 | 各種提出物の内容、提出状況課題、体裁、文脈、独創性で評価を行う。 | | | | | | | | |
| | 平常点 | 50 | 実習園からの評価および授業、グループワークへの態度・関心・意欲を評価する。 | | | | | | | | | |
| 汎用的 学習成果 | 汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により行う。 (1) は専門的学習成果①③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③で評価を行う。 | | | | | | | | | | | |
| テキスト 等 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | |
| | 聖和学園短期大学保育学科 | | 『教育・保育実習ガイドブック』 | | | | | | | | | |
| 参考書 参考文献 | 著者・編集者名 | | 書名 | | | | 出版社名 | | | | | |
| | 文部科学省 | | 『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』 | | | | フレーベル館 | | | | | |
| | 厚生労働省 | | 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』 | | | | フレーベル館 | | | | | |
| | 内閣府・文部科学省・厚生労働省 | | 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 | | | | フレーベル館 | | | | | |
| ①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等 | | ①この科目では時間外学習（15時間）として、＜事前学習＞幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み、理解を深めること。＜事後学習＞実習に必要な教材準備・研究、指導案の作成、学習成果と課題の整理、提出、まとめを行うこと。 ②実習園からの評価については全体およびグループ、個別指導にてフィードバックを実施。提出課題については確認もしくは添削後、全体もしくはグループ、個別指導等にて随時フィードバックを実施。 | | | | | | | | | | |

| 授業計画 | | | 学習成果の評価 |
|------|---------|---|---------|
| 1回 | 授業内容 | 教育実習の意義と目的、流れの確認 | |
| | 学習成果 | 幼児教育の現状と、幼稚園、認定こども園等について説明できる。 | |
| 2回 | 予習復習の内容 | 実習ガイドブックを読み、実習園の違いと実習の流れについて説明できる。 | |
| | 授業内容 | 実習生として遵守すべき義務や責任の自覚について | |
| 3回 | 学習成果 | 保育者になるにあたっての準備物や意識を高め、説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 実習希望先について調べ、第3希望までまとめる。 | |
| 4回 | 授業内容 | 幼稚園・認定こども園の役割と子どもの生活、観察実習の心得と留意事項 | |
| | 学習成果 | 実習に向けた事前準備の確認と守秘義務について説明できる。 | |
| 5回 | 予習復習の内容 | ガイドブックを読み込み、個別に必要なものを準備する。 | |
| | 授業内容 | 幼稚園における保育および子どもの発達についての観察および記録について | |
| 6回 | 学習成果 | 観察のポイントや子ども理解に向けた方法や記録について説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | ガイドブックを読み込み、記録の仕方や観察について理解する。 | |
| 7回 | 授業内容 | 子ども理解と援助についての協同学習 | |
| | 学習成果 | グループでの実習に取り組み、報告できる。 | |
| 8回 | 予習復習の内容 | 観察実習に向けた実習課題について考える。 | |
| | 授業内容 | 実習記録の書き方の留意点 | |
| 9回 | 学習成果 | 全体もしくはグループで実習での学びや反省の記録方法を説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 実習時のメモを再度確認し、自分の言葉で伝えられるようにまとめる。 | |
| 10回 | 授業内容 | 幼稚園における指導計画の内容と理解 | |
| | 学習成果 | グループもしくは個別で指導計画について理解しまとめることができる。 | |
| 11回 | 予習復習の内容 | 実習時のメモ等を再度確認し、自分の言葉で伝えられるようにまとめる。 | |
| | 授業内容 | 保育目標の達成にむけた保育の構想 | |
| 12回 | 学習成果 | 実習報告会を通して、保育目標等と自身の課題について報告できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 実習報告書を読み込み、準備を進める。 | |
| 13回 | 授業内容 | 構想を展開するための教材研究 | |
| | 学習成果 | 実習に向けた事前準備と守秘義務、役割分担について報告できる。 | |
| 14回 | 予習復習の内容 | グループ内の役割分担を決め、報告する。 | |
| | 授業内容 | 構想を展開するための指導計画 | |
| 15回 | 学習成果 | 保育計画や指導案を作成できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 聖和幼稚園の指導案を読み込み、理解する。 | |
| 16回 | 授業内容 | 子どもの発達をふまえた考察の観点の理解 | |
| | 学習成果 | ロールプレイを通して、客観的視野を広め、課題解決方法を発表できる。 | |
| 17回 | 予習復習の内容 | 教材研究や環境構成について理解を深める。 | |
| | 授業内容 | 保育活動実践 | |
| 18回 | 学習成果 | 保育実践を通して環境構成や援助について説明できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 事前準備の確認および担当部分のロールプレイを実践しておく。 | |
| 19回 | 授業内容 | 実習活動の共有化の方法にかかわる理解 | |
| | 学習成果 | 全体もしくはグループで実習での学びを共有し、報告できる。 | |
| 20回 | 予習復習の内容 | 実習時のメモを再度確認し、自分の言葉で伝えられるようにまとめる。 | |
| | 授業内容 | 体験の振り返りと自己の課題の明確化（今後習得に必要な知識・技能の理解） | |
| 21回 | 学習成果 | グループもしくは個別で実習での学びや反省を確認し、今後の課題を報告できる。 | |
| | 予習復習の内容 | 実習時のメモ等を再度確認し、自分の言葉で伝えられるようにまとめる。 | |
| 22回 | 授業内容 | 実習評価にかかわるフィードバック | |
| | 学習成果 | これまでの実習経験を振り返り、課題を見出し、計画できる。 | |
| 23回 | 予習復習の内容 | 指定された課題について取り組み、提出する。 | |
| | 授業内容 | 教育実習事前事後指導Ⅱに向けて | |
| 24回 | 学習成果 | 3・4・5歳児の保育内容について調べ、指定された期日までに提出する。保育教材の準備をする。 | |
| | 予習復習の内容 | 教育実習事前事後指導Ⅱに向けて | |